

進ヲレ、本草学（狭義ノ本草学ニテ植物ヲ研究対象トス）、
物産学（自然物産ニ動物植物鉱物ヲ対象トス）等ニ分置セリ。
故ニ本草学ハ畧最古ノ全学ニ還元セラレ、其ニ独特ノ範圍
ヲ開拓シテ、研究ノ歩ヲ進メシガ、西洋植物学ハ逐々和蘭
独逸等ヨリ輸入スルニ及ンデ支那式本草学ハ苗態ヲ介解シ、
藥学的本草学ト既正植物学ト植物学的本草学又ハ藥学的本
草学トニ分科セリ。当時ノ醫師ニシテ本草学者タリシ宇田
川榕菴ノ植物本草・菅多尼訶經等ノ著書、並全飯沼慾斎ノ不
朽ノ名著草木図説、岩崎瀧園ノ本草図譜、坂本浩然ノ蘭譜等ハ
前者ニ屬シ；小野蘭山ノ藥品考、岩崎瀧園救荒本草通解、本草
穿梁等ハ後者ニ屬ス（此他詳細ハ白井博士著日本博物学年
表、富士川濠博士日本医学史参照）。

Ⅲ) 藥学時代（近世ヨリ現世）及那ニ於テハ當時尙舊學ハ本
草学ノ域ヲ脱セザルニ、日本ニ於テハ明治維新（西曆1868
年）前後ニハ既ニ本草学ヨリ純正植物学ヲ介科シ、従来ノ
醫藥ヲエトセル本草学ハ漸次内容ガ法ヲ変更シテ眞ノ藥学
ニ変化セルハ一ニ西洋文化ノ影響ニ外ナラス。而シテ衰退
ノ一途ヲ辿リシ本草学ハ漢方醫藥ト其衰運ヲ伴ニシ、大正
ノ初期ニ至ル迄転落セシハ、恰モ旭日昇天ノ盛運ヲ見タル
唐宋明時代ヲ經テ夕陽落日ノ感切ナルガ如シ。是ニ反シ歐
米ノ科学文明ニ依テ培養サレシ本草学的藥学ハ維新以後年
二月ニ進歩ヲ遂シ、明治ノ中期ニハ早クモ進歩セル科学的
藥学ノ体系内容ヲ有スルニ至リ、改ホニ依ヒテ藥化学、分析

化学調劑学、生藥学、藥用植物学等ノ諸分科並起独立シ、各職テ
内容ノ充實ニ努カシ以テ日本藥学ノ基礎ヲ造レリ。其恩入
ハ池田慶三、下山順一郎、柴田承桂、高橋秀松、丹波敬三、長井長義、
丹羽藤吉郎（五十首順）諸博士ニシテ其功績ハ不滅トスフ
ベシ。

以上ノ中生藥学ト藥田植物学トハ内容実質ニ於テ本草学
ヲ継承セシモノナレド、其科学的組織体系及分類ハ全ク西
洋式ナルヲ異ナリトス。而シテ本草学ハ漢方及漢方臣ト共
ニ大正中期ヨリ昭和ニ至リテ本草学及漢方ノ再吟味ヒラレ、
民族的優秀性ヲ認定セシレ再興隆ノ氣運ヲ生ズル迄ハ衰退
其極ニ達シ、学界並社界ヨリ殆其姿ヲ没セルハ時勢ノ結果ニ
シテ一時的非運ト云フベシ。明治十九年六月「日本藥局方」
第一版ヲ内務省令ヲ以テ発布シ、全廿三年全衛生局ハ日本
藥局方註釈ヲ發行セルハ特筆ニ價ス。

其後藥学中ニ衛生化学、裁判化学、植物化学、織造藥品化学、香粧
品化学等ハ増設独立セラレ、各専門諸博士並各研究者諸氏
ノ努力ニ依リ漸次翻譯時代ヨリ独自研究發展ノ時代ニ移リ、
藥学ノ研究範圍ハ文化ノ進歩ト共ニ拡張セラレ、昔日ノ如
キ醫藥關係ノミニ止ラズ諸工業、醸造業、農林業、衛生、兵器等文
化必須ノ科学トシテ社會各方面ト密接ナル關係ヲ有スルニ
至リ、藥学ノ應用ト多忙トハ極リナカラントス。

第二章 藥(藥品、藥劑)及藥ノ種類

第一節 藥(藥品、藥物)及關係事項

○ 藥(くすり、藥品、藥物、藥劑)ノ定義 藥物ノ定義ハ產出及應用範圍ノ廣狹ニ依リ、時代ト共ニ變遷セリ。即チ次ノ如シ。

I) 原始時代ノ定義 現今ハ藥品ノ種類ハ極メテ多ク其範圍ハ甚広ケレドモ、古昔ハ人類ノ醫療藥ニ限リテ藥ト稱シ、以テ病ヲ癒ス本草(最狹義ノ即藥草、藥木ノ總名)ヲくすり(藥)ト云フナル定義ヲ有セリ。

II) 上中古時代ノ定義 其後藥物ヲズク天產物ニ求メ、採藥ヲ人類ニ限ラズ畜類ニ及ボセシハ、既ニ同時代ニ獸醫ノ存在センヨリ明白ナレバ、定義ハ廣義トナリ、人畜ノ疾病ヲ治癒スル天產物(動植物)ヲくすリト云フニ變更セラレタリ。而シテ藥ハ凡テ草根木皮ヲ主トセル生藥ナリキ。

III) 近世及現代ノ定義 天產物ニ洗滌、乾燥又不純物除去等ノ外獲難ナル人ニヲ加ハセル古來ノ生藥(草根木皮ヲ主トシ、鳥獸虫魚並金石等ノ天產物)ハ、近世化学及藥物化学ノ發達ニヨリ、從來ノ生藥ヨリ盛ニ有効成分ノ抽出ニ成功シ製藥ノ業ハ益々興隆シ、製藥材料ハ自然物全体ニ亙リ、應用ハ敢テ人畜ノ疾病治療ニ限ラズ愈々複雑多方面トナレリ。サレバ其ノ定義モ狹廣ノ別ヲ生ゼリ、如次。

i) 狹義藥物ノ定義 藥物トハ人畜ノ疾病治療、豫防、診斷等ニ使用セララルル天產物又其化学的製品ヲ指シ、其特有ノ偏

性ヲ利用シ、生物体ニ藥物的作用又生理的作用ヲ惹起セシメ、以テ病的傾向ヲ矯正セシムルモノヲ云フ。是ニ生藥ト製藥ノ別アリテ專ラ醫療用藥品ナリ。

ii) 廣義藥品ノ定義 藥品トハ人畜ノ疾病治療及豫防並診斷等ニ用ヒル外、化学、工業、土木、衛生、消毒、化粧、農林業、戰爭等各方面ニ種々ノ目的ニ向ツテ使用スル天產物及其化学的製品ヲ總稱シ、之ニ利用厚生ノ目的ニ使用スル物ヲ言フ。

○ 藥品關係事項 藥品(藥物) *Medicine, Arzneimittel*ニ直接關係アル重要事項ハ次ノ如シ。

I) 處方 (*Preparation, Verordnung*) 人畜ノ疾病ニ對シ醫師又獸醫ノ適藥調製又調合ノ指示ヲ處方ト言フ。

II) 處方箋 處方ヲ主体トシ是ニ必要ナル事項ヲ併記スル紙片ヲ處方箋 *Prescription, Receipt, Rezeptzettel*ト言フ。

III) 藥劑師 處方箋ニ依テ藥品ヲ適正ナル調形トナシ、其用法ヲ明示シテ患者ニ授與スル法定免許狀ヲ用スル人ヲ藥劑師 *Apothecary, Pharmacist, Apotheker, Rezeptar*ト言フ。又次ノ定義ヲ共フル人アリ。藥劑師トハ醫療藥品ノ形態ヲ明カニシテ其精粗眞贋ヲ鑑別シ、之ヲ調製調合シ、之ヲ分析シテ有効成分ヲ究メ、藥理作用ヲ究明スル等藥品ニ關スル一切ノ事項ヲ取扱フ職業ニ従事スル者ヲ言フ。以上ハ昔ハ醫師ノ仕事ナリシヲ、明治初年ヨリ漸次藥劑師ノ仕事トシテ分離スルニ至レリ。其理由ハ診察ト授與トフ一人ニテ兼ヌルヨリ起ル弊害ヲ除去センガためナリ。

IV) 調劑又調劑術 藥劑師ノ本業ヲ調劑又調劑術 *Pharmaceutics, Receptierkunst*. ト言フ。

V) 調劑学 調劑術ヲ修得スル学科ヲ調劑学 *Pharmacy, Receptur* ト言ヒ重要ナル藥学ノ一科ナリ。古来「調劑」ハ藥学ノ終局目的ナリト稱セラレ、實際ニ調劑ニ従事スルニハ数多ノ基礎藥学ノ修得及其実習ヲ絶対必要トシ、實ニ容易輕卒ノ業ニ非ザルコトヲ銘記スルヲ要ス。

第二節 藥品ノ種類(分類)

○ 藥品ノ分類 現代ノ藥品ハ頗多ク種類ハ多岐多端ナル故、是ヲ記憶スルニハ適當ニ分類整理スルヲ要ス。

I) 名称上ノ種類

i. 人畜治療ニ使用スル場合ノ名称、凡次ノ12種アリ。

1. くすり(藥) 2. きぐすり(生藥) 3. おくすり(御藥) 4. おつく(小児ノ称呼) 5. 藥物 6. 藥品 7. 藥劑 8. 藥種 9. 醫藥 10. 醫藥藥 11. 医用藥物 12. 医用藥品

ii. 人畜以外ニ使用スル場合ノ名称、凡次ノ6種アリ。

1. 藥劑 2. 藥品 3. くすり(藥) 4. 農用藥 5. 農林藥 6. 工業藥

II) 産狀及賣買上ヨリノ種類 次ノ3類ニ大別ス

i. 生藥 生藥 (*Drogen*) トハ元来きぐすりノ音讀ニテ、藥用動植物(主ニ植物)ノ全体又一部或其分泌物等ヲ採集シ、其外又洗滌乾燥或ハ不純物ヲ除去シ又適當ニ加工或粗

製精製シタル醫藥藥品ヲ言ヒ、加エ少キ製セル草根木皮其大部ヲ白ム。

a. 植物生藥 凡15類アリ。

1. 隱花植物生藥 2. 樹皮(木皮)生藥 3. 木部(幹部)生藥 4. 根莖生藥 5. 根(部)生藥 6. 葉(部)生藥 7. 花(部)生藥 8. 果部(果実)生藥 9. 種子生藥 10. 草卉(草本)生藥 11. 藻類及糖類生藥 12. 樹脂生藥 13. 乳膠生藥 14. 越發斯生藥 15. 析未性生藥

b. 動物生藥 種類少ク別ニ分類セズ

ii. 製藥 製藥 (*Präparate*) ハ別ニ製劑、洋藥、化學藥、化學製劑等ノ稱アリ、大別シテ2類トス。

a. 化学的製劑(化学的製藥) *Chemische präparate* トハ生藥成分ヲ化学的ニ抽出セシメ、又合成化学的ニ製スル無機及有機藥品ヲ總稱ス。

b. 藥学的製劑(藥学的製藥) *Pharmazentische Präparate* トハ生藥又化学的藥品ニ比較的簡單ナル操作ヲ施シテ製スル丁錫類・シロップ類・越發斯類等ノ所謂 *Galenische Präparate*。ガレヌス製劑及調劑ニ依テ製スル諸種ノ内用藥及外用藥ヲ云フ、如次。

1. 丁錫劑(藥) 2. シロップ劑(藥) 3. 越發斯劑(藥) 4. 合劑(藥) 5. 散劑(藥) 6. 元劑(藥) 7. 錠劑(藥) 8. 坐劑(藥) 9. 膏劑(藥)

iii. 賣藥 以上 i. ii. ヲ藥種商及賣藥商人ニ依テ賣買サルハ

薬品ノ總称ナリ。

Ⅲ) 藥制上ヨリノ種類 次ノ3類ニ區別ス。

i. 局方薬品 (局方薬) *Officinelle Mittel*. 以上ノ薬品中ニテ薬局方 *Pharmacopoea, Arzneibuch*. ニ登録セラレシモノヲ言フ。

ii. 局方外薬品 *Nichtofficinelle Mittel*. トハ(日本)薬局方ニ登録セラレザル薬品ノ總称名ナリ。

iii. 舊薬 *Obsolete Mittel*. トハ嘗テ薬局方ニ登録セラレシコトアルモ、現行薬局方ヨリ削除セラレシ薬品ヲ言フ。

Ⅳ) 性能上ヨリノ種類 次ノ3類ニ區別ス。

i. 毒薬 *venena, Medicamenta venena*. トハ薬物的作用峻烈ヲ極メ、生体ノ同量及用量範囲ハ極小ナル薬品ヲ言フ。

ii. 劇薬 *Separanda, Medicamenta fortiorae*. トハ薬物的作用ハ毒薬ニ近テ劇烈ナリ、從テ用量並用量範囲モ亦毒薬ニ近テ小ナル薬品ヲ言フ。

iii. 普通薬 (尋常薬) *Milde, Medicamenta communis*. トハ毒劇薬ニ比シ作用一般ニ緩和ナリ、從テ中毒等ノ危険少ク用量並用量範囲ノ最大ナル薬品ヲ言フ。

Ⅴ) 適用上ヨリノ種類 薬品ノ使用ハ凡テ適用部ヲ考察選択シ、局所作用、接觸作用、吸收作用、副作用等ノ如何ニ依リ全身、内臓、皮膚、粘膜、創面、切開部、腔物等ノ患部ノ状態ニ依リ薬品ヲ適当ナル形状トシテ使用スルコト所要ナリ。是ヲ次ノ如

ク區別ス。

i. 内用薬 (内服薬). のみぐすり、概爾又胃腸ヨリ吸收セシムル又ハ消化管ニ直接作用セシムル散薬 (こぼぐすり) 又水薬 (みずぐすり) ノ類ニテ、食前又空腹時或食後 (胃壁ヲ侵ス患アル場合) ニ用フ。副作用ヲ考慮スベシ。頓服薬ノ如キモ其一ナリ。

1. 合剂 (調合剂、液薬、水薬) 2. 濁剂 3. 液置合剂 4. 清涼剂 5. 飽和剂 6. 抽出薬 (浸薬、煎薬等) 7. 煉薬 (銜剂、おりぐすり) 8. 散薬 (内服散剂) 9. 茶剂 (煎茶抽出シ) 10. 漿剂 11. 丸薬 12. 錠剂

ii. 外用薬 i. ノ飲下スルニ反シ、是ハ凡テ身体外部、概皮膚ニ使用ス。大別シテ次ノ2類アリ。

a. 塗布薬 (塗擦剂) のりぐすり、つけぐすり、種々ノ濃度ヲ異ニセル薬液ニテ、筆刷モ、指等ニテ塗擦ス。磁丁、墊劑又脂肪油、グリセリン溶劑ナリ。

1. 塗布剂 2. 油薬 (おぶらぐすり、液膏剂) 3. 泥膏剂 4. 軟膏剂

b. 貼付薬 (膏薬、こうやく、はりぐすり) 粘糊性薬ヲ布地ニ塗布シ皮膚ニ貼ル藥劑ニテ、吸出膏薬、ちらし膏薬等其一也

1. 硬膏薬 (膏薬) 2. 已布 (已布) 薬

iii. 罌法薬 (罌瀉剂) 薬品溶液ヲ收斂、防腐、刺激、消炎ノ目的ニテ使用ス。冷罌法ト温罌法ノ二種アリ。

ii. 吸入薬 火力ニ依テ水薬ヲ氣體又氣狀トナシ、之ヲ粘膜

又肺胞ニ作用セシムル藥品ナリ、呼吸器系統ノ病症ニ使用ス。

V. 灌腸薬 水薬、浸剤、煎剤、乳剤等ヲ使用ス。食道・胃ニ故障アル場合ニ直腸ニ灌入シ吸収セシムル藥品ニテ、直腸自体ノ病変或ハ便秘等ニ使用ス。

1. 泻下灌腸剤 2. 止泻灌腸剤 3. 薬物灌腸薬 4. 滋養灌腸薬

VI. 注射薬 薬品溶液又アンブル *Ampullae* 内注射液ヲ使用注射ス。効果最迅速ナリ。食塩、ワクチン、血清、ホルモン注射等種々ノ場合アリ、滅菌ヲ絶対必要條件トス。

1. 皮下注射薬 2. 筋肉注射薬 3. 静脈注射薬

VII. 撒布薬 外用粉剤ニテ患部ノ分泌制限、乾燥、防腐、消毒、収斂、消炎、鎮痛、殺菌等ノ目的ニ使用セヨル。

VIII. 含嗽剤 水薬ニテ口腔咽喉頭ヲ洗滌スル薬品、収斂性ナリ。

1. 洗口剤(口腔) 2. 咽雷剤(咽喉頭)

IX. 眼用水剤 点滴用又洗滌用ニテ収斂、消炎等ヲ目的トス。

1. 点眼薬(さしぐすり) 2. 洗眼水(薬) 3. 眼用巻法(巻瀉)

X. 洗滌薬 防腐、収斂、殺菌、消炎、清潔等ノ目的ニテ皮膚、粘膜(鼻腔、外耳道、膣、子宮等)ヲ洗滌スル水薬ナリ。

XI. 坐薬 乳房状、円錐状、球状、卵円形、小楕子状、棒状等ヲ呈スル練硬薬ニテ、体温ニテ溶解シ接触面ニ作用ス。肛門、尿道、膣、子宮、鼻腔、外耳道等ニ使用ス。

1. 肛門坐薬 2. 尿道坐薬 3. 膣坐薬等。

XII. 筆薬(楸子薬) 外皮、粘膜等ニ局限的ニ作用スル筆状薬ニテ形質共ニ坐薬ニ近似ス。

XIII. 浴湯薬(浴剤) くすり 種々ノ生薬又化学薬ヲ浴湯中ニ溶解セシメ療湯ヲ作ル。概布ニ包ミ又袋ニ入レテ湯中ニ沈ム。假湯泉也。

VI) 習慣上及研究上ヨリノ種類 局方薬及局方外薬ノ外ニ習慣及研究上ヨリ次ノ如キ分類ハル。

i. 漢薬(漢方薬) 漢薬、漢方医学ノ研究ニ係リ漢方医(明治維新前後以前ハ概本草学者)ノ使用スル藥物ヲ云ヒ生薬ヲ主トシ、古クハ純支那産ナリシガ、徳川時代即チ漢方医学復興時代ニハ同日本産又近似代用品モ併称セシ故、必ズシモ支那産ヲ意味セズ。日本ニテハ昔支那産ハ之ヲ舶来又舶載ノ者或漢波リ、唐渡リト称シ、日本産ヲ和薬ト称シ漢薬ト區別セリ。又薬名ニ漢ヲ冠スルハ和産ニ係リ、漢産ニ類似スルモノ；漢種ト称セシハ支那ヨリ移植セシ薬草薬木ナリ。漢薬ハ大正昭和ニ至リ復興セリ。

ii. 和薬(和方薬) 和薬トハ漢方医ノ使用スル日本産ノ藥物ヲ言フ。殊ニ支那産ト品種(生薬)其基源ヲ異ニスル我國ノ代用藥物ヲ言フ。

iii. 和漢薬(皇漢薬) 主ニ漢方医学ノ研究ニ係リ古来漢方医ノ使用スル生薬ナルモ、現今ハ洋医モ之ヲ使用スルニ至レリ。即チ支那産及日本産ノ生薬(草根、木皮、果、花、種子及分

泌物、動物、植物、毒ノ廣義ノ本草ノ總稱名ナリ。是ヲ広義ニ解スレバ民間薬モ包含シテ總稱ス。近時ハ皇漢薬トモ稱セラレ單味使用少ク概複方ナル特徴トシ、洋(方)薬ノ如ク有害ナル副作用ヲ併起スルコトナク、安全緩和東洋人ニ恰的ナル薬方ナルハ近時明白ニセラレ、和漢薬ノ聲價ヲ高メツツアルハ注意スベキ事實ナリ。計300種以上ニ達ス、適用ニハ浸劑、煎劑、茶劑(振出し)ヲ主トス。

IV. 民間薬 民間薬トハ日本其他ニ於テ數百年内外ノ經驗ニ基キ、民間習俗ノ間ニ傳來シ使用セラル、本草ヲ稱シ、専門医家ノ使用セヌ藥物ニテ科学的ニ成分薬効等未闡明セラレズ、單ニ民間素人ノ經驗ニ基キテ使用スル自然物ヲ原料トスル一切ノ藥物(概生薬ニテ昔ノ本草ニ相当ス)ヲ言フ。右ノ中藥草藥木其大部ハ古メ就中藥草其主要ナルモノ故、民間薬ハ民間藥草ヲ以テ代表セラレ代名詞ノ如クナレリ。民間薬ノ主ナルモノニセンバ、リ、ゲ、ん、の、し、よ、う、こ、ど、く、だ、み、す、み、せ、ん、等々アルガ、其薬効ノ確實顯著ナルモノ多ク、漸次研究セラレ和漢薬、新薬等ニ昇格スルモノ年々不尠。

V. 流行薬 流行薬トハ新聞雑誌其他ニ依テ藥効ヲ誇大ニ又針小株大的ニ喧傳セラレ、比較的短年月間即一時的ニ民間ニ流行スル草根木皮ノ類(生薬)ニテ、恒久性ナキカ又藥効ノ確實性乏シキモノヲ言フ。例ハバ、た、ら、こ、ぎ、か、し、ゆ、う、は、ま、ぎ、さ、ひ、の、実、等ノ如キ之ナリ。

VI. 洋薬(洋方薬、西薬) 洋薬トハ洋医即西洋医学ノ研究ニ

依リ、洋医ノ使用スル藥品ヲ言フ。例ハバ、さ、ぶ、ら、ん、か、み、つ、れ、け、れ、き、な、こ、か、し、な、よ、も、ぎ、ち、ぎ、た、り、す、等ノ如シ。計150種以上アリ。藥効ノ確實ナルハ言フ迄モナシ。廣義ニ解スレバ無論生薬ノ外ニ多數ノ化学薬ヲ含ムコト言フ迄モナシ。

VII. 新薬(新製劑) 新薬トハ日ニ月ニ新規ニ製出セラル、新製劑ニシテ、新発見ノ成分ヲ含ミ又新配合ニ成ルモノ多シ。例ハバ、ニ、共、ノ、ユ、ゴ、ール⁷ Jugol (妊婦嘔吐治療、くるみ原料)、は、グ、リ、ン⁷ Juglin (腺臭利、原料全)、ス、ピ、ナ、キ、ン⁷ Spinacin (分泌増進及造血、ほうれんそう原料)、エ、ン、フ、シ、ン⁷ Enfusin (鎮痛特神経痛及腰痛、えんこさく原料)、武田ノロ、デ、ア、リ、ン⁷ Rodealin (強心利尿、原料おもど)、ク、リ、ア、タ、ール⁷ Crystal (治淋、原料すぎ油)等其一ナリ。

VIII. 舊薬(舊製劑) 舊薬トハニ種ノ意義アリ、一ハ嘗テ舊昔使用セラレシ藥品ガ現時全ク廃用ニ帰シタルモノヲ指シ、他ハカツテ局方薬トシテ薬局方ニ登録サレシモ現今ハ現行薬局方ヨリ除去サレシ藥品ヲ言フ。前者ヲ廢薬又廢止薬ト稱シ後者ト區別スル方可ナラン。

IV) 處方上ヨリノ種類 處方調劑ニ當リ所用ノ目的ニ從ヒ(處方箋ニ記載スル)次ノ4種ニ分類ス。

i. 主薬 Basis 主薬トハ疾病ニ對シ主効ヲ奏スル(真正ノ治意ヲ期待スル)藥品ヲ言フ。

ii. 佐薬 Adjuvans. 佐薬トハ主薬ノ治効ヲ補助シ、又其副作用或併発症ヲ除去スル目的ニ使用スル藥品ナリ。

iii 賦形藥 (成形藥) *Constituens*. 賦形藥トハ主藥又主藥
及佐藥ニ対シ特得ノ形ヲ賦其スルニ使用スル藥品ナリ。
例ハバ液狀藥 (水藥) ニ用ヒル水、酒精、膏藥ノ基礎トスル樹
脂類、脂肪、丸藥製造ニ用ヒル結合藥ノ如キ是也。

iv 矯正藥 *Corrigens*. 矯正藥トハ味覚又嗅覚ニ不快ノ感
ヲ與フル藥品ニ對シ、其臭味ヲ佳良ニ矯正スル目的ニ使用
スル藥品ナリ、2種ニ區別ス。

1. 矯味藥、味ヲ佳良トラシメ使用上ニ快感ヲ與フル藥
品。

2. 矯臭藥、臭氣ヲ掩蔽又ハ交換シテ快臭ヲラシムル藥品
注意：一以上四種ハ常ニ同一処方ニ伴フモノニ非ズ、又同
時ニ調製セラル、モノニアラズ、時ト場合ニヨリ組成ニ変
化多シ。

III) 使用上ヨリノ種類 1. 百藥 2. 藥石 3. 諸藥 4. 煎藥
5. 符藥 (符病ニ對シ常時携帯スル藥) 6. 消毒藥 7. 殺菌藥
8. 解毒藥 9. 驅虫藥

IV) 効果上ヨリノ種類 1. 神藥 2. 靈藥 3. 仙藥 4. 良藥
5. 妙藥 6. 奇藥 7. 珍藥 8. 秘藥 9. 秘方 10. 通藥 (あ
いぐすり)

V) 應用上ヨリノ種類 (人畜治療以外藥) 1. 化學藥
2. 工業藥 4. 農林業藥 (殺虫藥) 5. 肥料 (主ニ化學肥料)
6. 化粧藥 (香粧品) 7. 消毒藥 (殺菌藥) 8. 洗滌藥 (洗粉、石
鹼等) 9. 塗料劑 10. 火藥 11. 毒瓦斯及毒液 12. 顔料 (繪具)

XI) 調製セル藥劑ノ形状 (劑形) ヨリノ種類

i. 合劑 (水藥又液藥、兩藥混濁合劑、清涼劑又リモノナーテ、飽和
劑)

ii. 抽出藥 (浸劑、煎劑、浸煎劑、4煎浸劑、漿劑)

iii. 乳劑 (被乳化藥、乳化藥、溶解藥)

iv. 燻藥又紙藥 V. 散藥 VI. 茶劑 (煎藥又抽出藥)

vii. 囊劑 viii. 丸藥 ix. 錠劑 x. 撒布藥 xi. 含嗽劑 xii. 吸入
藥 xiii. 眼用水劑 (点眼藥、洗眼水藥、眼用蓋法劑) xiv. 膏法劑

xv. 巴布劑又膠布藥 xvi. 洗滌藥 xvii. 灌腸藥 xviii. 塗布藥又塗
藥劑 xix. 油藥又搽劑又液膏劑 xx. 泥膏劑又ペースタ劑又糊泥
劑 xxi. 軟膏劑 xxii. 硬膏劑又硬膏藥 xxiii. 坐藥 xxiv. 筆劑又挺
子劑 xv. 注射藥 xvi. 浴湯劑又浴劑又藥湯劑

xii) 治療及疾病治療上ヨリノ分類

i. 生理ヲ根據トスル種類 生理作用ヲ補助増進スル藥物

1. 興奮(藥劑) 2. 中枢神經系興奮劑 3. 消化劑 4. 健腦
劑(藥) 5. 強壯劑 6. 滋養強壯劑 7. 強精藥(劑) 8. 強壯強精
劑(藥)

9. 麻醉劑(藥)又麻藥 10. 吸入麻醉劑 11. 局所麻醉劑(知
覺神經ニ作用スルモノ、運動神經ニ作用スルモノ) 12. 交感神
經麻痺藥 13. 消化促進劑 14. 消化殺菌劑 15. 強壯補血藥

16. 緩和強壯劑 17. 強壯補精藥 18. 催乳藥 19. 通經藥 20. 清
血藥 21. 補精藥

ii. 化學作用ヲ根據トスル種類 体内ニ於テ化學作用ヲ惹
起スル藥品。

1. 解毒劑 2. 中和(藥)劑 3. 清涼劑

iii. 矯正ヲ主トスル種類 矯味矯臭緩和着色等ニ關係スル藥品。

1. 矯味藥 2. 矯臭藥 3. 調味藥 4. 緩和(藥)劑 5. 芳香藥 6. 不劑 7. 着色劑 8. 矯味矯臭藥 9. 薰香藥

iv. 疾病ヲ根據トスル種類 各種疾病ノ主藥トナル藥物

1. 腦病藥 2. 神經藥 3. 脚氣藥 4. 肺病藥 5. 呼吸器病藥 6. 眼病藥 7. 耳鼻藥 8. 胃腸藥 9. 肝臟藥 10. 痔疾藥 11. 癌病藥(癌毒藥) 12. 心臟藥 13. 腎臟藥 14. 泌尿器藥 15. 皮膚病藥 16. 婦人病藥 17. 淋病藥 18. 黴毒藥 19. 性病藥(花柳病藥) 20. 齒痛藥 21. 糖尿病藥

v. 病理ヲ根據トスル種類 各種疾病ノ症候ニ応ジテ使用スル藥物。

1. 皮膚系病藥 消炎(藥)劑, 收斂(藥)劑, 鎮痛劑(藥), 乾燥消炎藥(劑), 瘡病藥, 腐蝕劑, 脫色劑, 生毛藥, 脫毛藥, 皮膚刺戟劑(藥), 栄養促進藥, 洗滌藥, 血行促進劑, 痱癩藥(劑), 乾泡劑, 殺菌劑, 殺虫(驅虫)劑, 化粧藥(香粧品)

2. 運動器系藥 鎮痛劑, 鎮痙劑, 消炎劑, 鎮痙鎮痛劑, 洗滌藥, 消毒藥, 打撲鎮痛藥(劑), 痲風藥

3. 消化器系病藥 消化劑, 消化促進劑, 殺菌消化促進劑(藥), 消化殺菌劑, 鎮痙藥, 鎮痙藥, 鎮痙鎮痛藥, 健胃劑(苦味・芳香性・辛性・芳香性・苦味鎮痙健胃藥等數種アリ), 下劑又瀉下劑(緩下劑・下劑峻下劑等), 止瀉藥又制瀉劑又下劑止藥(粘滑藥・腸收

斂藥等) 收斂藥, 止血收斂藥, 健胃驅風劑 催吐藥(劑) 制吐藥(劑) 解毒藥, 中和藥, 驅虫藥(回虫・蟻虫・十二指腸虫・條虫等ニ依テ各種効藥アリ), 殺菌劑, 洗滌藥, 灌腸藥, 痔疾藥, 止血性止瀉藥, 黃疸藥, 肝臟病藥, 解熱劑, 止血藥, 苦味健胃發汗劑

4. 呼吸器系病藥 含嗽(藥)劑, 消炎劑(藥), 收斂藥, 鎮痙藥, 祛痰藥, 鎮痙祛痰藥, 解熱劑, 止血藥, 解熱祛痰藥, 補精藥, 強壯補精藥, 驅虫藥, 殺菌藥, 清血劑, 呼吸中樞興奮藥, 呼吸鎮靜藥

5. 循環器系病藥 強心(藥)劑, 心臟病藥, 補血藥(劑), 止血收斂劑, 補血強精劑, 止血劑(藥), 引赤藥, 強壯補血藥, 血管擴張(大)藥, 止血解熱藥。

6. 泌尿系病藥 利尿劑(藥), 尿消毒藥(劑), 消毒(藥)劑, 收斂劑, 消炎藥(劑), 洗滌藥, 水腫藥, 鎮痛利尿劑, 尿酸症藥。

7. 生殖器系病藥 消毒(藥)劑, 消炎藥, 洗滌藥, 收斂藥, 鎮痛劑, 鎮痙劑, 鎮痛鎮痙劑, 止血劑(藥), 鎮痛止血藥, 治淋藥(劑), 驅黴藥, 性病藥(花柳病藥), 婦人病藥, 通經劑(藥), 緩性通經藥(劑), 緩和通經劑(藥), 清血通經藥, 通經強壯藥(劑), 通經解熱藥(劑), 驅虫劑(藥), 催乳藥(劑), 乳汁分泌促進藥(劑), 乳腫藥, 催淫藥(劑), 制淫藥(劑), 子宮堅縮劑。

8. 介産出産藥 陣痛促進(藥)劑, 鎮痛劑, 消毒劑(藥), 子宮堅縮劑, 止血劑。

9. 神經系病藥 興奮劑, 中樞神經系興奮劑, 鎮靜劑(藥), 鎮痛劑, 鎮痙劑, 鎮痛鎮痙劑(藥), 神經病藥, 神經強壯劑, ヒステリー藥, 催眠(藥)劑。

10. 五感器系病藥。收斂劑, 收斂止血劑, 鎮痛劑, 鎮痙劑, 鎮痛

鉄補鎮痛劑、洗滌藥、毒法藥、消炎藥、止血藥、催眠劑、(鐵)頭痛藥

11. 全身症藥及代謝機能障害藥 痲瘋藥、發汗劑、(藥)痲風藥、
驅風劑、解熱發汗劑、毒汗驅風藥、(劑)解熱劑、鎮痛解熱劑、解熱強壯
劑、毒汗清涼劑、清涼劑、清涼解熱劑、制汗藥、(劑)即發汗制止劑

12. 保健強壯強精藥 強壯劑、緩和強壯劑、滋養強壯劑、滋養
緩和劑、強壯補血藥、強壯補精藥、強精藥

第三章 藥品須知及藥劑並藥令

第一節 藥品須知

○ 藥品須知 藥品使用ノ際須知ノ事項ハ次ノ如シ。

I. 藥品ノ作用 藥品ノ作用ハ組織ト藥品トノ親和力ニ依
テ生起ス。

i. 組織ト藥品ノ親和力ニ依テ起ル藥品作用

1. 一般作用 親和力強大ナル藥品 (例ハバ強酸強アル
カリ)ハ作用モ從ツテ強大ニシテ隨意ノ組織ニ作用スルヲ云
フ。

2. 選擇作用 親和力微弱ナル藥品ハ是ト特殊ノ親和力
ヲ有スル組織又ハ一定ノ臟器トノ間ニ僅力ニ反應ヲ起ス作
用ヲ云フ。

ii. 局所又遠隔臟器ニ及ス作用ト藥品

1. 局所作用 トハ適用部ニ發生スル変化ニシテ、通常
一般作用ヲ有スル多少強烈ナル藥品ヲ使用ス、例ハバ多ク

ノ外用藥又外部局所ニ使用スル藥品ノ如キ是ナリ。

2. 遠達作用(吸收作用) トハ吸收セラレテ遠隔ノ臟器ニ
及ボス作用ニシテ、一般ニ選擇作用ヲ有スル藥品ヲ使用ス、
例ハバ多クノ内用藥ノ如キ是ナリ。

iii. 治療的作用ト副作用 多クノ藥品ハ作用強強ニシテ所
看ノ臟器ニノミ無害的必需作用ノミヲ惹起セシムルモ、ニ
非ズ、往々副作用或中毒ヲ起サシム。

1. 治療的作用 トハ藥品ガ患部又病體ニ對シ其治療ニ
必要ナル作用ヲ云フ。

2. 副作用 トハ治療ニ必要ナラザル寧ロ有害ナル(強ク
ノ程度アリ)作用ヲ云フ。

3. 毒作用 トハ藥品ノ使用ニ當テ局部又全身ニ有害ナ
ル反應ヲ起シ、健康ノ障害セラレ、(強クノ程度アリ)作用ヲ
云ヒ、此ノ現象ヲ中毒 *venenation; Intoxikation* ト云フ。

II. 藥品ノ性質 藥品ニハ注意スベキ次ノ三大性質アリ
(漢方ニテハ藥ニ寒熱溫涼平ノ五性アリテ其適用ヲ異ニス
ト稱セラル)

1. 蓄積作用 藥品ハ体内ニ於テ分解セラレ、力又其終極
産物セラレ、ガ、其所需時間ハ藥品ニ依テ不齊ナリ。一般ニ
分解又排泄ノ速キ藥品ノ使用ヲ持續スレバ、從々ソレガ体内
ニ蓄積シ、突然其ノ藥効ヲ一時ニ暴擲シテ不良ナル結果ヲ
招来ス、此現象ヲ蓄積作用ト云フ。

2. 習慣性 藥品ハ連續使用ニ依テ効力ハ漸次遞減スルノ

性ヲ有スル故、用量ヲ漸増セザレバ無効トナル、此現象ヲ藥品ノ習慣性トイフ。

3. 禁止現象 習慣トナレル藥品ノ突然禁止ニ依テ起レ不良ノ症状ヲ藥斷現象又禁止現象ト云フ。モレヒネ等ニ於テ此好例アリ。

Ⅲ) 藥品ノ用量 内用ト外用ノ別アルモ其ニ適當量ヲ標準トス。

i. 内用ノ場合 用量ノ過不足ニ依テ次ノ如ク分類ス。

1. 無効量 所期ノ効果ヲ現ハサヌ過少量

2. 藥用量 (適當量) 藥効ヲ現ハス一定量。然モ之ハ入ニ依リ年齢ニ依テ異ナル。即チ患者ノ体重ト肥瘠ノ度ニ依リ用量ヲ斟酌シ、年齢ノ低下ニ依テ用量ヲ递减ス。

3. 極量 危険ナク用ヒラル、最大限量。

4. 中毒量 極量ヲ超過シテ中毒ヲ惹起スル量

5. 致死量 中毒量ヲ超過シ死ニ至ラシムル量

ii. 外用ノ場合 皮膚又粘膜ニ使用スル場合ハ特ニ用量ヲ内用ノ場合ノ如ク嚴重ニ秤定セザレドモ、其吸収セラル、結果ヲ考慮(藥品ニ依テハ吸収ニ依テ中毒ヲ起スモノアリ)セザルベカラズ。即使用藥品ノ濃度並ニ使用面積ヲ検討スル必要アリ、依テ用量ヲ加減スベシ。

iii. 藥品ノ定式用量 (定式療法) トハ同一藥品ノ使用ヲ繼續スル場合其習慣性並禁止現象ヲ防止スル爲メ、最初無効量ニ準シキ少量ヲ用ヒ、漸次递增シテ極量ヲ遙カニ超過ス

ル最大量ニ到達セシメ、次ニ之ヲ逆ニ递减セシメシ、此危險ノ用量ニ還元シテ治療スル合理的用藥法ヲ言フ。以上ハ内外用共ニ適用シ得ベク、一般藥品、概此性質ヲ有スルモノアレバ常ニ此法ニ依ルモノニ非ズ、往々使用セラレレバ。

○ 藥品使用ニ関スル諸注意

I) 賣藥使用上ノ注意 昔ノ賣藥ハ政府ノ取締モ緩ニシテ無害無効藥多カラザリシ故、一服飲ムベキヲ二乃至三服ヲ一回ニ飲ムニ中毒ニ陥ル場合殆無之カリシ故、此惡習ハ臣藥(アンテヒリン劑等)ヲ一回ニ三服飲用シテ中毒又ハ死亡セシ例ヲ生ゼリ。然レニ現今ノ取締リハ嚴ニシテ無害有効主義ナレバ、必ズ指定サレシ用法・用量ニ從ヒ嚴守スルヲ要ス、然ラザレバ賣藥ノ中毒ヲ起スベシ、宜シク昔ノ無謀ナル考ヲ一掃スベシ。

II) 服用時及服用法ノ注意

i. 服用時ノ注意 人ニ依リ藥ノ服用時ヲ適宜視シ、食後30分トアレバ正30分ニ飲ザレバ無効ナル如ク思惟スルアリ、スレバ食後ニトアルヲ食前ニ飲用シテ平然タルハ何レモ藥ニ對シテ無害ナルニ起因ス。要ハ食後30分トアルモ正30分後ノ必用ナク、大抵胃ヲ刺激シ又ハ消化ヲ害スル藥物ハ食後ニ、又其ノ藥ノ早急吸收ヲ要スル場合ハ食前又空腹時ニ飲用セシムル必要アルヨリ食前食後ノ別ヲ生ズルナリ。例ハ肝油ノ如キ胃ニ害アレハ食後 宜シマテ 空腹時ニ飲ムハ有害ナリ、又 サントニン、セメソニンノ如キハ迅速吸收ヲ要スル場

合及口服血脈疾病等ハ空腹時服用ヲ最良トスルガ如シ、要
ハ医者ノ指示ニ從ハバ可ナリ。

ii 服用法ノ注意 鉄剤等ノ如キハお茶ニテ飲ムコトハ避
クベキモ、他ハ水ニテモお茶ニテモ差支ヘナシ。医薬ニハ
粉劑藥ト水藥トハ必附物ノ如シ考フルハ誤リニテ、元來水ニ
不溶性ヲ粉劑トシ又粉ノ依ニテハ貯蔵不能者或ハ粉ノ依ニ
テハ不都合者ヲ水藥トシ服用ノ使ヲ計リシニ過ギズ、粉水
ニ真心殺藥トハ限ラズ。例ハバ沃皮加豆調合藥ハ水藥ノ方
ハ飲ミ易キ故水藥トシ、又解熱劑ハ粉劑飲用ヲ適當トスル故
散藥トシテ其フルガ如シ。又ニ糖ノ藥ヲ一糖ニ其フルハ、
例ハバ風邪ヲ癒ス場合ニ解熱藥(粉劑)ト共ニ其胃腸障害ナ
ル副作用ヲ除去スル目的ニテ胃腸藥(水藥)ヲ共フルモノナリ。
III) 藥形ト藥効 藥形ニ散藥、丸藥、錠劑、水藥等種々アレ、就
中最藥効ノ大ナルハ散藥ヲ第一トス。他ハ凡テ賦形藥ヲ混
入シテ不純ナルガ、唯攜帶ニ便ナルカ又服用ニ好都合ナルノ
特徴アルノミ、故ニ可成散藥ヲ使用スルヲ可トス。例ハバ
クレオソートハ飲ミ難キ故丸藥トスルモ、健胃劑、消化劑等
ハ然ラザル故丸藥、錠等ヨリモ散藥ノ方便カニ有効ナリ。又
塩酸キニーネ(散藥)ヲ飲用セバ丸藥、錠劑等風邪藥ヨリ其有
効ナルガ如キ此一例ナリ。

IV) 藥量ト藥効 藥効ノ大小ハ其分量ニ關係アルハ勿論ナ
レモ分量多キ程効果大ナルモノニ非ズ、世間ニハ胃散等ヲ飲
食物ノ如ク多用スル人不少ハ惡習ト云フベシ。

元來藥物ハ概疾病ヲ治癒スル及面生体ニ多少有害ナルモ
ノニテ、藥効ヲ現ハスハ適當量ヲ使用スルガ爲ニ外ナラズ、
若シ量ヲ過セバ危險立所ニ及ブハ必然ナリ、「藥即毒、毒即藥」
又「養藥愛ジテ藥トナル」等ノ言深ク詭味スベシ、彼ノ「モル
ヒネ」ノ如キ毒藥ガ適當用量ニ依テ至大ノ高價藥トナルガ如
キ此例ナリ。要ハ醫師ノ指示セル藥用量ヲ遵守スルヲ最良
ノ法ト心得ヨ、世間ニハ解熱劑又通經劑ヲ過用シテ落命セ
シ实例アリ、警戒ヲ要ス。尚他例ヲ示サンニ驅虫劑ナル「サ
ントニン」ハ蛔虫ニ有害ナルト同時ニ人体ニモ有害ナルガ唯
蛔虫ヲ驅除シ得ル最小量ヲ適量トシテ始テ藥効ヲ現スナリ。
又「サレバルケン」(驅微藥)ハ「スピロヘータ」ヲ死滅セシムルト同
時ニ人体ニ有害ナリ、故ニ長ヲ過用セバ人間ヲ死亡セシム。
サレバ何藥タリトモ適當ナル藥用量アルト共ニ過量ニ依レ
中毒重アル道理ニテ、普通藥、毒藥、劇藥等ノ區別モ唯其藥用
量ト中毒量ノ距離ノ大小ニ依テ決定スルノミ。要之藥物ハ
元來人体ニ存スル自然長能ヲ補助シ、或ハ治癒セシムルタメ
ノ方便トシテ使用スルモノニテ、凡テ健康体ニハ宜シキモ
ノニ非ズ多少ノ毒作用ヲ有ス、特ニ漢方ノ下藥ト稱スル一
群ハ殆凡テノ洋藥ト共ニ使用上慎重ナルヲ要ス、但シ上藥
ハ滋養強壯延命壽ヲ旨トスル故此限りニ非ズト雖モ、過用
ハ勿論有害ナルハ言ヲ俟タズ。

V) 藥ノ正シキ服用法 藥名服用ニ際シ服用時、分量等ノ諸
注意ハ既ニ講述セシ故以下他ノ必要ナル注意ヲ述フベシ。

i. オブラートヲ使用スベキ薬トスベカラザル薬 オブラートニ薬ヲ包ミ飲ミ易クスルハ健胃消化促進ノ目的以外ニ薬ヲ使用スル場合ナリ。健胃劑ニオブラートヲ用ヒルハ有害無益ナリ。其理由ハ苦味強キ健胃劑ノ有効ナルハ苦味其物ニシテ味覺ヲ刺激シ反射的ニ胃ノ活動ヲ治癒ナラシムル原動力ナレバナリ。サレバオブラート包トシテ飲下セバ殆ド無効トナル理ナリ。

ii. オブラートノ良否鑑別 オブラートノ質不良ニシテ胃中不溶解性ノモノヲ使用セバ、高價藥ニ無効ノ体排泄セラレ改良品ヲ選択スベシ。良品トハ酢ニ浸シテ穿孔スルモノヲ言ヒ、然ラズシテ革ニ軟化スルノミナルハ不良品ト知ルベシ。

iii. 解熱劑ヲ用フベキ場合ト然ラザル場合 患者ノ発熱セシ場合、素人判断ニテ直々ニ解熱劑ヲ用フルハ宜シカラズ。

凡ソ発熱スルハ其熱ノタメニ有害ナル細菌ヲ死滅セシムル作用又血行ヲ盛ナラシムル等ノ必要アルニ依ル。特ニ傳染病、例ハバチルス等ノ場合ニ解熱劑ヲ用フレバ却テ経過ヲ悪化セシムルコトアリ。又解熱劑ニテ発熱ヲ抑制スレバチルスノ診断ヲ不能ナラシムルコトナキニ非ズ、発熱及其高サニ依テ病氣ノ診断ヲ容易ナラシムル場合モ少ナカラズ。凡ソ解熱劑ヲ用ヒル場合ハ発熱非常ニ高ク熱其物ノ害ヲ受クル懼レアルトキ、或ハ体質弱ク心臓ノ作用憂慮ナルトキ、或程度迄熱ヲ下降セシムル場合或ハ長期高熱ノ持

續ニヨリ食慾減退セル時、或ハ期間丈熱ヲ下ケテ体カノ回復ヲ図ル場合等ナリ。高熱ニ依テ細菌ノ繁殖ヲ抑制スルコトアル故解熱劑ニ解熱劑ヲ使用スベカラズ、是ヲ用ヒテ却テ病氣ヲ悪化スルコトアリ。微毒ノ発熱療法又淋病患者ガマラリヤ病又肺炎等ヲ併發セシ爲メ全快スルコトアルハ体面ガ熱ニ対スル抵抗ノ弱キガタメニ基因ス。

第二節 藥制及藥令

○ 藥制 医藥制度中藥制ニ關係アルハ藥劑師ノ養成ト藥劑ノ製造及販賣ナリ。医藥ニ関スル教育ハ文部省ニシテ司リ、免許・社会施設・保健・衛生其他ノ取締ハ厚生省ノ司ル處ナリ。

I) 藥劑師ノ養成 首位ヲナスハ東大医学部ノ藥学科ニシテ卒業者ハ藥学士ニシテ藥劑師ナリ。次ハ官立・公立・私立ノ藥学專門学校及医科大学附属藥学專門部若ハ医学專門学校藥学科卒業ノ藥劑師ナリ。次ハ藥劑師試験ニ合格セル藥劑師及外國免許ノ藥劑師ナリ。以上ノ中最多數ヲ占ムルハ官立・公立・私立專門学校出身藥劑師ニシテ其校數ハ十校ニ達シ私立ノミニテモ十校以上ニ及ビ、就中女子藥専校ハ九校ヲ數フベク千六校ハ東京ニ他ノ三校ハ近畿地方ニ介布セリ。

II) 藥品製造販賣 藥品ノ製造ハ主トシテ民間諸会社ニ於テ行ハレ、製造所ハ東京・横浜・大阪・京都・名古屋・神戸等ノ大都市ニ多ク地方ニハ至ツテ少ナシ。古来ノ賣藥製造ハ越中富山ヲ初メ大和地方・四國ノ讃岐等ニ多カリシガ、現今ハ各地ノ

製造会社、製薬ノ多量且ツ新式ナルニ压倒サレテ衰退ノ一
路ヲ辿リツツアリ。販賣方法ハ以上ノ製薬ヲ主ニ日本全国
ニ介布スル各薬局及賣薬店ニ配介販賣セシムルモノナルガ、
此他ニ行商的賣薬業者アリテ日本全国ニ出張販賣セシムル
方法アレド漸次衰退シツヒアリ。

Ⅲ) 賣薬 賣薬トハ法令ニ從ツテ製造サレシ藥品ニシテ、民
衆ノ誰モガ購求服用シ得ルヤウニ調合セシモノナリ。故ニ
毒薬及劇薬等危険ナル藥物ハ一切之ヲ調合セズ、男老幼
ノ別ナク使用シ得ルベク、分量ニ於テモ医藥程ニ嚴重ナルモ
ノニ非ズ、全国ノ薬局及賣薬店ニ常備販賣スル民衆的藥品
ヲ言フ。

Ⅳ) 藥物及藥用植物ノ研究及試験 此任務ヲ遂行スルハ厚
生省衛生試験所ニシテ、其藥用植物栽培試験場ハ東武線柏
登駅附近ニアリテ内外(和漢洋種ノ中洋種最多シ)ノ藥用植
物ヲ栽培試験セリ。此他官公私立藥学専門学校ニハ各附屬
藥草園アリテ研究ニ供セリ。尚中央地方ノ製薬会社所有ノ
藥草園及藥用植物栽培園(例ハ天津村研究所附屬藥草園、星
製薬会社ノ台湾ノ規那樹栽培園等)ハ所々ニ分布セリ。

○ 藥令 医藥ニ関スル法令中藥学藥業ニ関係アルモノ次
ノ如シ。

I) 藥品營業並藥品取扱規則 1. 藥劑師 2. 藥種商 3. 製
薬者 4. 藥品取扱 5. 罰則ノ五章ヨリ成リ、別ニ附則アリ。

i. 藥品營業並藥品取扱規則第廿六條第廿七條及第廿七條

ノ三ニ依ル命令

ii 藥品營業並藥品取扱規則第廿五條ニ依ル毒藥劇藥品目、

iii 藥品營業並藥品取扱規則第廿八條ノ三ニ依ル藥品指定、

II) 藥品巡視規則 衛生官吏警察官吏及藥劑師ヲ以テ監視
員トナシ薬局及藥店ヲ販賣又製造スル場所ヲ巡視セシメ、
或ハ病院ノ薬局ニ臨ミ藥品調劑録藥品貯藏所等ヲ検査シス
藥品ヲ帶帰スル等ハ條アリ。

III) 賣薬法 廿六條ヨリ成リ賣薬業者トシテノ心得ヲ詳記ス。

IV) 賣薬法施行規則 廿三條及附則ヨリ成リ、賣薬販賣免
許ノ申請ヨリ向業販賣業者等ニ関シテ詳記ス。中略

V) 麻藥取締規則 廿六條アリ。

VI) 毒物劇物營業取締規則 廿條及附則アリ。

VII) 阿片法(十七條及附則)及阿片法施行規則(廿七條及附則)

VIII) 何レノ薬局ガ一モ記載セサル藥品又製劑取締ニ関スル
件、三條及附則アリ。

IX) 藥劑師法 十八條及附則ヨリ成リ藥劑師ノ定義及心得
罰則等ヲ記ス。

第一條 藥劑師トハ醫師齒科医又ハ獸医ノ處方箋ニ依リ調
劑ヲ爲ス者ヲ謂フ。

(註一 藥品及藥劑ノ製造モ可能ナリ)

第二條 藥劑師タラムトスル者ハ厚生大臣ノ許可ヲ受ケ藥
劑師名簿ニ登録ヲ受クベシ、前項ノ免許ヲ受クルニハ左ノ
各号ノ一ニ該當スル資格ヲ有スルコトヲ要ス……

第五條 藥劑師ニ非レバ販賣又授與ノ目的ヲ以テ調劑ヲ爲スコトヲ得ズ。……藥局ニ於テ之ヲ行フベシ。

第六條 藥劑師ニ非レバ藥局ヲ開設スルコトヲ得ズ、但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此限ニ在ラズ。其他……

五) 藥劑師法施行規則 廿二條及附則ヨリ成リ、藥劑師ノ免許及登録ヨリ藥局ノ建築制限及常備藥品(日本藥局方第一表藥品)、調劑録記載事項、科料ニ関スル仕様ヲ記ス。

○ 藥局及藥局方(日本藥局方)

I) 藥局 藥局トハ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル場所ヲ謂フ、但シ調劑ハ國法ニ從テ藥劑師之ヲ行フ。藥局ト藥店(賣藥店、藥舖、藥屋、生藥屋)トハ異リ藥店必スシモ藥局ヲ有セス。藥局ハ藥店ノ外ニ各病院、醫院、並各匠家ニ存在シ、一人以上ノ藥劑師之ヲ授當ス、法定常備藥其他ヲ備ヘ日本藥局方ノ指示スル處ニ從ヒ醫師ノ處方ヲ調劑ス。藥劑師ニシテ藥種商ヲ兼ヌル者不抄モ藥劑師無免許ノ藥種商ハ調劑ヲ許サズ。

II) 藥局方(日本藥局方)

i. 定義 藥局方トハ藥局ノ方劑指針法令ノ謂ニシテ醫療藥品處方調劑ノ規程ヲ示セル簡法書ナリ。各文明國ニ存シ多少ノ差アリ、如乙藥局方(獨局方)、英國藥局方(英局方)佛蘭西藥局方(佛局方)米國藥局方(米局方)等ノ如ク日本藥局方(日局方)又單ニ局方ト稱ス)アリ。

ii. 日本藥局方 日本藥局方トハ日本帝國々法ノ制定セル藥局方ニシテ、日本醫師及藥劑師必携ノ國定方劑書ナリ、

處方調劑規程之ニ基據セシム。其第一版ハ明治廿年七月ヨリ施行セツレ、後略十年毎ニ改訂シ昭和七年六月第五版(第五改正日本藥局方ト稱ス)ヲ發行スルニ至レリ。其内容ハ1~16頁ハ日本藥局方沿革略記、17頁以下本文トナリ324頁迄ハ藥品各論ニシテアセトアニリド(アンケフェブリン) *Acetanilidum* (*Antifebrinum*)ニ始マリ吉草酸亜鉛 *Zincum valerianicum*ニ終ル。藥品總數636種ヲ記述シ藥局常備藥普通藥毒藥劇藥ニ區別シ、羅典名ヲボ名トシ和漢名ヲ次記ス。各品種記載ノ順序ハ(1)製法、(2)形狀、(3)性質、(4)主要部成分ノ含量、(5)實性反志、(6)效驗法、(7)貯法ノ7項ニ分記シ本卷ノ主要部占ム、325~337頁迄ハ試藥 *Reagentia*ヲ列記シ、337~343頁迄ハ定規液 *Solutiones volumetricae normales*ヲ列記シ、343~349頁迄ハ第一表……常備藥表第二表……毒藥表、第三表……劇藥表、第四表……極量表第五表……重要ナル原素ノ記号及原子量表ノ五表ヲ附シ、最後ニ日本藥局方藥品索引 1~13頁及羅典語索引 *INDEX NOMINUM* 1~16頁ヲ附ス。附録トシテ第五改正日本藥局方藥品應用一覽表及「醫藥關係法令集」アリ。

iii. 藥局方制定ノ必要 一國家トシテ處方製劑上ニ一定ノ標準ナケレバ調劑施藥上危險多ク、名實紊亂射利和託ヒ針小標大ノ公告ハ跋扈シ、藥九層倍等ノ諸弊百出スルニ至ラン。是等ノ弊害ヲ防遏スルノ途ハ藥局方制定ニ如クハナン。是ニ依テ不良藥品ヲ排除シ、醫藥ノ純良ヲ保持シ、藥價ヲ

低廉ナラン、且ノ秘密ヲ少ナカラシムル作用アリ。

IV. 日本藥局方調査会 第五改正日本藥局方ハ同第四版ヲ基礎トシテ本会ノ調査改訂スル処ニ係リ、会長也口慶ニ藥博以下委員16人臨時委員6人幹事1人ヨリ成立シ、中主査委員ハ林医博、西崎全、近藤藥博、渡辺全、高橋全、慶松全、朝比奈全、磯野全、服部全、緒方全、10人ナリ。

V. 日本藥局方註解 本書ハ前記「日本藥局方」ノ註釈解書ナリ、説明記述詳細ヲ極メタル要書ニシテ藥学研究ノ宝典ナリ。其ノ第一版ハ明治廿三年内務省衛生局ノ発行ニ係リ、以後局方ノ改正毎ニ出版シ最新ハ第五版ナリ。

第四章 藥學及藥用植物學並生藥學

第一節 藥學

○ 藥學ノ定義・範圍及分科

I. 藥學ノ定義

i. 一般定義 藥學(藥物學) *Pharmacy, Pharmacology, Pharmakologie*. ヲ一般的ニ解セバ、*「藥學トハ藥物ノ性狀ニ就テ考究スル科学ナリ。而シテ或物質ノ治病作用ト其物質ノ化学的性質トノ間ニ存スル一定ノ關係ヲ悉見スルコトヲ現代藥學ノ主要目的トシ、是ガ悉見ハ藥品製造ノ基礎トナル」*

ii. 狹義ノ定義 又狹義ニ解セバ *「藥學トハ人畜ノ疾病治療ニ使用スル藥劑ヲ研究スル学科ナリ」*トナル、從ツテ調

劑ハ藥學ノ真髓ニシテ終局ノ目的ナリトシ、他学科ノ修得ハ是ヲ行フ道程ニ過ギズト考ヘヲレタリ。現在ニ於テモ元ヨリ調劑ハ藥學ノ主要目的ノ一タルニ相違ナキモ、文化ノ進歩悉達ニ伴ヒ藥學ノ範圍ハ如此狹義的解決ニ満足シ得ズ、學術的ニ応用的ニ一層積極的ニ廣義ニ解スル必要ト機運トヲ生セル現況ニアリ。

iii. 廣義ノ定義 即チ *「藥學トハ理化学的及生物学的の研究ヲ基礎トシ、保健衛生上産業上必要ナル物質ヲ研究シ、其學理ト応用トヲ闡明スル科学ナリ」*トナル。

II. 藥學ノ範圍 親近藥學ノ範圍ハ甚広ク人畜ノ疾病治療ニ使用スル藥品ノ研究ハ勿論、飲食物、營養物、嗜好品、化粧品、塗料(工業)、農林駆虫劑ノ研究モ亦藥學ノ範圍ニ屬シ、洗粉、漂白粉、石鹼、ペンキ等ニ至ル迄莫ニ廣汎ナル領域ヲ保健衛生上及産業上ニ占ムルニ至レリ。藥品ノ製造ノ目標モ亦單ニ疾病治療ニ満足セズ、強壯、強精、長壽、延命、若返リ(回春)ノ新目標ニ對シテ研究ヲ進メツ、アリ。(次ハ大學藥学科ノ学科目ハ元ヨリ其他モ掲出セルガ、大學ニテモ殆各科毎ニ其實習ヲ課セリ)。

III. 藥學ノ諸分科 現代ノ藥學ハ少クモ次ノ諸分科ヨリ構成ス。

i. 生物学的藥學 生物学的の研究ヲ主トス。

1. 藥用植物學 2. 藥用動物學 3. 生藥學

ii. 化学的藥學 化学的研究ヲ主トス。

1. 藥化学 (有機無機化学) 2. 藥品分析化学 3. 藥品試驗法 4. 植物化学 5. 製藥学 (藥品製造学, 有機無機) 6. 臟器藥品化学 7. 衛生化学 8. 裁判化学 9. 動物化学

iii. 調劑学的藥学 藥品ノ處方調劑ノ研究ヲ主トス。

1. 調劑学 2. 藥理学 (藥物ノ医療的効果ヲ論ズル學問) 3. 新藥学

iv. 應用的藥学 上記以外ノ応用ヲ主トスル藥学

1. 醱酵化学 2. 膠質化学 3. 電気化学 4. 色素化学
5. 脂油化学 6. 蛋白質化学 7. 機械化学 8. アルカロイド化学
9. 細菌学 10. ヴイタミン化学 11. 兵器化学 (毒ガス及防毒等) 12. 藥学的鉍物学 13. 放射能作学 14. 製藥機械工学

第二節 藥用植物ト藥用植物學

○ 藥用植物ノ定義及範圍

I) 藥用植物ノ定義及種類

i. 定義 藥用植物 (藥草) *medicinal (Medical) plant*, (*Medi. herb*), *Medizinal Pflanzen*. トハ植物体ノ全部又其一部ヲ藥用ニ供シ, 又醫藥製造原料ニ供スル植物ヲ言フ。而シテ直接醫藥ニ供セザルモ, 人類ノ害虫ナル蚊蠅其他ノ害虫並ニ寄生虫ノ驅除ニ用ヒル植物亦此ノ中ニ包含セシム。(藥用植物ノ藥用部分即根葉果實種子及花蕾全草等ヲ採集洗淨(洗)シ乾燥セシモノヲ生藥ト言フ)

ii. 種類 藥用植物ハ其用途用法等ニヨリ (1) 医療藥用植物 (2) 和藥用植物

3. 民間藥用植物ノ三種 (又ソレ以上)ニ區別ス, 其詳細ハ第二章第二節ノ(VI)ニ記述セリ, 其項参照。(1)ハ西洋醫藥ノ原料ナリ。

II) 藥用植物ノ範圍 藥用植物ノ範圍ハ藥物ノ定義ノ広狭ニ依テ異ナル, 即狹義ニハ医療藥ニ使用スル植物ナルモ、廣義(第二章第一節ノIIIノii参照)ニハ種々ノソレ以外ノ草木ヲ包含ス, 例バ塗料殺虫劑化粧品原料等ノ原料ヲ供給スル植物モ亦此ノ中ニ入ルナリ。

III) 採藥 昔漢方医ガ藥用植物ヲ採集スル爲ニ諸國ノ山野ヲ跋涉セシコトハ諸書ノ記録ニ明白ナルガ、此行爲ヲ採藥ト称セリ。現今ノ植物採集ノ一種ニテ、水谷豊文ノ木曾採藥記小野兩山ノ中仙道採藥記等ハ其一ナリ。現今ハ主ニ畑地ニ藥草ヲ栽培シ、自然生ヲ採集スルハ概民間藥ニ其例多シ。

○ 藥用植物学ノ定義及範圍

I) 藥用植物学ノ定義 藥用植物学トハ藥用又藥品製造ニ供セザル藥用植物(狹義或ハ廣義ノ)ノ形態生理分析分類成分藥効等ヲ講究スル学科ニシテ其構成体系ハ次ノ如シ。

緒論

上卷 藥用植物学總論

第一編 植物器官学 (植物形態学)

第二編 植物解剖学 (植物細胞及組織学)

第一重編 植物細胞学

第二編 植物組織学

第三編 植物生理学 (或ハ省略スルコトアリ)

下巻 薬用植物学各論

第一編 薬用植物分類学總論

第二編 薬用植物分類学各論

II) 薬用植物学ノ範圍 ハ以上ノ如キモノナレド生薬学トノ關係上並本科ノ研究ノ進展スルニ從ヒ、薬用植物生態学及薬用植物分布学(地理学)ノ二編ヲ増加スルノ期アルベト信ス。

第三節 生薬ト生薬学

○ 生薬ノ定義及範圍 生薬 *Dry-drug, Drogem.* ノ定義及範圍ニ就テハ既ニ第二章第二節藥品ノ分類, II) i, ニ詳記セル故其項参照。而シテ生薬学ノ構成体系ハ凡ソ次ノ如シ。(但、生薬学ハ往時ノ本草学ノ一部乃至大部ニ相当ス)。

I) 生薬学ノ構成体系 植物(生物)学的生薬学ト藥理学的生薬学ノ二種アリ。

i. 植物(生物)学的生薬学 ハ生薬ヲ主ニ植物器官及分泌物ノ種類ニ依テ分類シ、薬用成分含有部ノ形態就中組織及成分ノ検討範疇ニ重点ヲ置ク、次ノ体系内容ヲ有ス。

A. 分類綱目 ニ部十六類トスルコト次ノ如シ。

Q. 植物生薬 凡次ノ15類アリ。

1. 隱花植物類(孢子植物類)生薬 2. 樹皮類(皮類)

生薬 3. 木材類(木類)生薬 4. 根莖類 5. 根類生薬
6. 葉類生薬 7. 花類生薬 8. 果実類(果類)生薬 9. 種子類生薬
10. 草本類(草芥類)生薬 11. 蕨類及糖類生薬 12. 樹脂類生薬
13. 乳液類生薬 14. 越後斯性生薬

b. 動物生薬 複類至テ少ナク別ニ分類セズ。

B. 各種記載ノ順序 以上ノ各部類ヲ更ニ各種ニ分類シ各種ニ生薬学的記載ヲナス。其順序ハ次ノ如シ。各種題目(和漢名ト羅漢名即生薬学名)ノ次ニ

(1) 基原(植物和漢名, 植物学名, 所屬科名, 産地, 分布, 系歴等ヲ記ス) (2) 形質(形状性質即外部形態, 詳細) (3) 構造(内部形態即組織, 詳細) (4) 成分(化学的成分ヲ詳記ス) (5) 應用(藥理的應用ヲ記ス) (6) 類似生薬(本品ニ近似セル種類ニ就テ識別点其他ヲ記ス)。

ii. 藥理学的生薬学 ハ藥理ヲ主トシテ薬用植物ヲ分類シ重点ヲ藥草ノ藥理及藥効ニ置ク。次ノ体系内容ヲ有ス(村上師壽氏ニ據ル)

A. 分類綱目 次ノ十六類ニ大別ス

1. 中樞神經ニ作用スル藥物 i. 鎮痛藥 ii. 鎮靜藥
ハ中樞神經系興奮藥 ii. 吸入麻醉藥
2. 体温調節ニ作用スル藥物 i. 解熱藥
3. 末梢神經ニ作用スル藥物 i. 知覚神經ヲ麻痺セシムル藥物(局所麻醉藥) ii. 運動神經ヲ麻痺セシムル藥物
4. 植物性(自律)神經系ニ作用スル藥物 i. 副交感

神経興奮薬 □副交感神経麻痺薬

5 呼吸器系ニ作用スル薬物 イ呼吸中枢興奮薬

□呼吸鎮静薬 ハ鎮咳薬 ニ祛痰薬

6 循環器系ニ作用スル薬物 イ強心薬 □血管拡大薬

7 消化器系ニ作用スル薬物 イ健胃薬 □瀉下薬(下劑) ハ制瀉薬 ニ催吐薬(吐劑) ホ制吐薬

8 泌尿器系(腎臓機能)ニ作用スル薬物 イ利尿薬

9 生殖器系ニ作用スル薬物 イ子宮収縮薬 □催淫薬 ハ制淫薬

10 血液及造血臓器ニ作用スル薬物 イ補血薬 □止血薬

11 新陳代謝ニ作用スル薬物 イ受質薬 □尿酸症薬 ハ滋養強壯薬

12 病原ニ作用スル薬物 イ特殊消毒薬 □駆虫薬 ハ尿消毒薬

13 皮膚ノ機能ニ作用スル薬物 イ催乳薬

14 皮膚及粘膜ニ作用スル薬物 イ消毒薬 □收斂薬 ハ皮膚刺激薬 ニ被覆薬

15 特別ノ作用ヲ有セザル薬物 イ矯正薬

16 臨床以外ニ使用セラレ、薬物 イ農林用殺虫薬 □洗滌薬(料)

B. 各種記載ノ順序 前記各種(1~16)ニハ凡テ一般薬

理ヲ説キ、次ニ各類下ニ数多ノ薬用植物ヲ列記シ、各種ハ次ノ順序ニ記載ス。

(1)別称(和漢名) (2)学名(植物、種與学名) (3)科名 (4)産地(生育地及分布) (5)生薬(薬用ニ供スル部分) (6)成分、(7)薬理(有効成分、治病作用及反応等) (8)主効(主ナル薬効) (9)應用(單味トシテノ適用量及使用法並複合劑トシテノ處方例) (10)参考文献

第四節 薬用植物學ト生薬學トノ關係

○ 薬用植物學ト生薬學トノ關係 ハ双方ノ連絡点ト區別点ノ考究ニアリ。

I) 薬用植物學ト生薬學ノ關係連絡点 甲ノ學的体系ハ前節ニ掲出セル如ク薬用植物ヲ對象トシテノ植物學的並ニ藥學的の研究ニシテ、頗ル廣汎且多岐ニ亘リ、生薬學ヲ學ブ者ノ基礎的智識ヲ供給スルニ及ビ；乙ハ甲ヨリ遙カニ藥學的ニ傾キ、植物分類學、植物細胞組織學、植物化學及藥理學ノ上ニ健ツテ昇リトス。

II) 薬用植物學ト生薬學ノ區別点 甲ハ學問トシテノ科學的組織体系ヲ嚴存スルニ對シ、乙ハ學的組織体系ヲ缺クハ重要ナル區別点ナリ。抑是ハ何ニ依テ然ルヤヲ檢セバ乙ハ現今學トシテ獨立スルガ如キモ實ハ古昔ノ本草學現今ノ薬用植物學ノ一部ニシテ甲ヨリ全然分離獨立スバキモノニ非ズ。即チ甲ノ條得ナクシテ乙ハ解スヘカラサルコト。

乙ニハ豫備智識トナル總論ヲ缺キ甲ヲ以テ其總論ト見做スコト、乙ハ藥物原料個々ノ記載ニシテ藥用植物分類学ノ再檢討ノ觀アルコト準ハ之ヲ證明シテ餘アリ。

Ⅲ) 結論 以上ニ依テ生藥学ハ昔ノ本草学ノ一部ニシテ比較的醫藥ニ關係深ク藥効ノ明白ナルモノヲ講究スル特殊藥用植物分類学ト亦シ得ベク、藥用植物学ノ延長ニ過ギザルモノト云フベシ。

故ニ藥用植物学ト切り離シテ考フベキモノニ非ズ、又切り離シテハ独立セル學問ヲ成ササルモノト云フベシ。而シテ其ノ使命ハ藥用植物学ノ成セル粗略研究ヲ更ニ精密ニ藥学的ニ成就スルニアリ。

第五章 漢方醫學及皇漢醫學大意

第一節 漢方醫學ト漢方

○ 漢方醫學ト漢方 先ヅ第一章ヲ熟讀セヨ。

I. 漢方醫學

i. 漢方醫學トハ何カ 漢方醫學トハ古來又耶ニ發達セル醫學ニシテ、漢時代ニ大ニ發達シ、傷寒論金匱要略等ノ大著ヲ遺シ以テ漢方醫學ノ基礎ヲ築ケリ。其後支那及日本ニ於テ研究セル理論ト實際トヲ應用シ、以テ疾病治療ヲ行フ東洋ノ代表的醫學ナリ。

ii. 治療ノ根據 其根據トスル學理ハ疾病ハ總テ食毒・水毒・血毒等一種ノ中毒ヨリ發生スルモノナルヲ以テ、醫術トハ

其毒ヲ排除スルヲ以テ主眼トナス。其排除法トシテ汗・吐下・和ノ理ニ照シ、其病毒ノ所在ニ応ジ、或ハ發汗・或嘔吐・或瀉下・或中和ニ依テ之ヲ行フモノニテ、他ニ内攻及瘀血ノ理ヲ根據トス。

iii. 治療法 漢方治療ハ汗・吐下・和ノ四法アリ。汗ハ發汗ニシテ病毒身體ノ表面ニアルトキハ桂皮・麻黃ノ如キ發汗劑ニテ病毒ヲ汗トシテ去ル。吐ハ嘔吐ニシテ病毒胸間ニアルトキハ吐劑ヲ用ヒ、下ハ瀉下ニシテ病毒腹部ニアルトキハ下劑ヲ用フ。和ハ中和ニシテ汗吐何レヲモ使用不能ノトキハ之ヲ用フ。而シテ疾病ニ投藥スルニ當リ、方劑ニシテ病證ニ適中センカ病毒ハ其潛伏ノ場所ヲ奪ハルルニヨリ、是ヲ最捷徑ヲ選ニ或發汗シ、或嘔吐シ、或瀉下ニ依テ排出ス。而テ何レヲトルヤハ至難ノ業ニシテ、例ハバ盲腸炎ノ初期ニ大黃牡丹皮湯ヲ與レバ、此方ハ大黃芒硝ヲ有スル瀉下劑ナルモ、場合ニ依リ甚シク嘔吐スルコトアリ、此場合嘔吐ハ必ズンモ豫期セル所ニ非ズ、如此病毒ノ迅速作用ヲ漢方ニテハ瞑眩トイフ。此外疾病ノ内攻(内陷)ニ關スル豫防及治療法ヨリ、瘀血ヲ以テ疾病ノ原因トナルモノ多クアリテ、其研究ハ至レリ甚セルモ省略ス。

iv. 投藥診斷 ヲ證(証又症)ト云フ、證トハ或疾病ノ種々ナル症候中ヨリ撰擇セル症候群ニシテ、漢方ハ之ヲ目標トシテ方劑ヲ撰スルモノナリ、例ハバ葛根湯ノ證ト云フガ如シ。西洋醫學ニテハ症候ヲ見テ病ノ所在ヲ知り、病名ヲ診

断スルヲ最大目的トシ、治療法ハ第二段ニ置クト置セ；漢方ニテハ先ヅ以テ何藥何方劑ヲ用フベキヤヲ考究ス、換言スレハ何方劑ノ證(能)ナルカヲ見ルヲ診斷ノ主要目的トシ、證ニシテ確定セシカ方劑ハ直ニ確定スベシ。然レモ西洋医学ニテハ病名確定スルモ藥劑ノ確定不十分ニテ十入十色ノ方劑ヲ標打的ニ使用スルコト多ク甚ダ適確ヲ缺ケリ、尚洋医ハ主ニ化学藥ノ單味藥ヲ使用スルモ、漢方ハ主ニ複方ヲ使用シ單味使用稀ニ且ツ煎藥多シ。

Ⅴ. 漢方ト洋方ノ比較 漢方ハ優秀ナル東洋独特ノ医術ナルモ、明治以來洋医ニ心酔尙從セル結果ハ之ヲ輕蔑シ來レルガ、現今科学進歩ノ結果ハ是ガ再檢討ノ必要ヲ生ジ、遂ニ内科治療ニ於テハ却テ西洋医学ニ優レルヲ尙見セリ。西洋医学ノ優秀ナル特徴ハ寧ロ細菌学及消毒ヲ基トスル内科及外科医術ノ發達ニアリ、一般内科ノ治療ハ依然トシテ半暗黒ナリ。

Ⅵ) 漢方 漢方トハ正シクハ漢時代ノ方劑(処方調劑)ノ意ナルモ、現今ハ時代ニ拘泥セズ漢方医学ニテ使用スル方劑ノ意ト解スベシ。但シ別使用方ニ依リ漢方・洋方等ノ名称ニテ医術ヲ論ズル時ハ、漢方トハ漢方医術又漢方医学ノ異名又代名詞ト解スベシ。

○ 皇漢医学(和漢医学)ト和漢方(和漢藥方皇漢藥方)

Ⅰ) 皇漢医学 ハ和漢医学トモ稱シ、漢方医学(前記)ト同意義ナレド、我徳川時代ノ本草医家ノ總合努力ニ依テ研

究復興セラレ、之ニ和方ト和藥ヲ加フル等日本的研究ヲ加ヘ、更ニ現今進歩セル科学的研究ニ依テ再檢討セラレ、我國近代學者ニ依テ其理論ヲ闡明シ補足シ益々其ノ優秀性ヲ確認セラレ、進歩向上シツ、アル東洋医学ナリ。故ニ皇漢医学(和漢医学)ハ漢方医学ヲ基礎トシ、之ニ日本徳川時代並現代ノ研究ヲ加味シ、西洋医学ト併立スベク研究進歩中ノ東洋医学ト稱シ得ベシ。

Ⅱ) 皇漢藥方 一名和漢藥方トモ稱ス、皇(和)漢藥ニ對テハ既ニ第二章第二節(Ⅵ)ニ詳記セリ、漢藥一名漢方藥ト大差ナン、藥方ハ其処方調劑ヲ言フ。

第二節 和漢医学(漢方医学)ト西洋医学トノ比較

○ 和漢医学(漢方医学)ト西洋医学トノ比較 双方ノ優劣利害得失ハ次ノ如シ。

Ⅰ) 和漢医学ハ内科ニ優リ西洋医学ハ外科ニ優レ、和漢(皇漢)医学ハ細菌学的研究ニ進マザリシハ顕微鏡ヲ持タザリシ結果ニシテ、從ツテ消毒殺菌ニ缺クレ處アル故、外科方面ニ於テ尙ルハ明白ナルガ、内科ニ於テハ却ツテ進歩ノ跡ヲ見ルハ前述ノ如シ。

Ⅱ) 處方投藥及藥効ノ比較 洋方ハ主ニ化学製劑ノ單味主義ナルニ反シ、和漢方ハ主ニ多數藥品ノ混和使用即チ多味主義ナリ。甲ハ概抽出精製藥ナルニ反シ乙ハ概生藥其係ヲ

使用ス、換言スレバ甲ハ單味純粹的ニシテ作用概直達激甚ナルニ反シ、乙ハ總生藥然多味調劑ナルヲ以テ含有諸成分ノ微妙ナル總合的藥理作用ニ依テ毒藥ト虽モ緩和サレ危險ヲ伴ハザルハ勿論作用概漸達緩和藥効的確ナルノ差アリ。此外ニ洋方ニハ毒藥劇藥多ク往々作用激烈ニシテ多少ノ副作用ヲ伴フニ反シ、和漢方ハ毒劇藥少ク大部分ハ普通藥ニテ作用緩和然モ副作用ヲ伴ハザルノ利アリ。

Ⅱ) 單味藥物ト生藥多味處方トノ優劣 生藥其供ヲ用ヒシ場合ト、其生藥中ノ有効成分ト稱スルモノヲ抽出シ單味トシテ使用スル場合ト、其効果ニ於テ差又大差アリト稱セラル。現今ノ藥品ハ單味藥トシテノ研究ハ最早行詰リツ、アルニ反シ、一方單味トシテハ平凡ナル藥品モ是ヲ配伍ニ依テ優秀ナル特効藥ヲ調劑シ製造シ得ルコト明白ナル今日、生藥トシテ多味トシテ使用スルコトノ優秀効果的ナルハ抑モ何ニ依テ然ルカ、此原理ヲ追究闡明スルハ重要項目ト云フベシ。蓋シ藥味配合ノ妙ハ漢方醫學ノ精華ト稱セラレ、現今ノ醫學ヲ示唆スルコト大ナリ。

Ⅳ) 生藥ト合成藥トノ比較 世間ノ輕薄者流ハ往々今後製藥ノ目標ハ宜シク成分ノ合成ニ置キ、殆合成藥方能ナルガ如ク吹聴シ、生藥ヲ輕視輕賤スルモ大イニ誤レリ。嘗テ下山博士モ誠メラレシ如ク今日ノ貴重生藥ノ殆ト全部ハ人工合成ニ期待スルコト能ハズ、自然力ノ偉大微妙ナルハ到底人力ノ企圖シ得ル處ニ非ズ、今日ト虽モ最小最下等ノ生物

サハモ人造不能ナルニ、早クモ自然ノ製作ニ係ル簡單ナル有機物ヲ分解シ、之ガ組成ヲ模倣シ以テ合成劑ヲ劑學シタレバトテ、直チニ人工合成藥方能ヲ夢想スルガ如キハ冒瀆ノ態度ト云フベシ。今日ノ合成劑ノ如キハ自然生藥又抽出成分ニ比シ凡牛ノ一毛ニモ足ラザルニ非ズヤ、宜シク自然力ノ幽玄ニ叩頭師事シ敬虔ナル態度ヲ以テ研究スベキモノナラン。

Ⅴ) 漢方醫學ノ理想ト西洋醫學ノ理想 元來和漢方ハ洋方ノ如ク疾病治療ヲ以テ最大目的トシ醫藥ノ理想此處ニ在リトスルモノニ非ズ、和漢方ニ於テハ疾病治療ハ抑ホニシテ其主眼トシ理想トスル處ハ強壯強精・保健・長壽ニアリ。故ニ藥ノ分類モ滋養強壯藥・保健藥等ヲ以テ上藥ト稱シ第一位ニ置キ、疾病治療藥ヲ以テ下藥トナシ最下位ニ置クハ甚哉今日緊急問題トシテ喧傳セル、豫防醫學・保健醫學ヲ以テ治療醫學ヨリ緊急且ツ先決問題ト叫バル、トコロト其主義主張ニ於テ全ク合致スルモノニ非ズヤ。科學ノ進歩熾熟セル今日ニ至ッテ始メテ洋醫ガ豫防醫學・保健醫學ノ緊急必要ヲ説キ地位向上ヲ叫ブ前ニ於テ業ニ既ニ漢方醫ハ之ヲ説キ是ヲ究ムルコト數千年ノ久シキ一及ベリ、然モ東洋人ノ身體習慣ヲ基礎トシ千古ノ經驗ニ基キテ研究セリ。東洋醫學ノ優秀ハ此處ニ於テモ見出サル、豈唯ニ先覺者タルノミナランヤ。和漢藥ハ其治療效果ハ緩和適確ニシテ洋方ノ如ク探打的ナラザルノミナラズ、藥物ハ極メテ常識的・普遍的・民衆的ナ

レバ貧民ニモ適スル医療法ナリ。

第三節 東洋医学薬学ハ何ヲ根柢トシテ 研究スベキヤ並皇漢医薬学ノ東洋 医薬学トシテノ復興

○ 東洋医学薬学ハ何ヲ基礎トシ何ヲ目標トシテ研究スベキヤ。昭和ニ至リ漢方医学及漢方薬ノ再吟味ニ依リ其優秀ニシテ最東洋人ニ合適スルヲ確認セラレタル今日、ハニ其研究上ノ根柢ト目標ニ就テ述ブベシ。

I) 東洋人ハ東洋ノ風物及東洋人ヲ基礎トシテ医薬ヲ研究スベシ。日本ノ医薬学ハ明治大正迄ハ主ニ欧米ニ範ヲトリ、模倣ト翻譯ニ依ッテ日本医薬学ノ基礎ヲ建設セシハ蓋シ止ムヲ得ザルニ出ツルコト他ノ諸科学ト同様ナリ。然レモ之ハ欧米人並ニ欧米ノ風物ヲ對象トシ基礎トシテ建設アレシ。欧米人ニ適スル医薬学ニシテ、東洋ノ風物並ニ東洋人ヲ除外セルモノタルヲ忘ルベカラズ。彼ノ農林学等生物ノ實際科学ガ明治或大正迄專ラ翻譯ト模倣ニ終始セシク夫敗ヲ重不弊害ハ獲出シ、止ムナク此ニ離然主義ヲ更ハ日本ノ氣候風土並生物ノ詳細ニシテ根本的ナル研究ヲ開始シ、是ヨリ得タル理法ヲ學術ト實際ニ応用セシ故、昭和以来農林学ノ飛躍進歩ハ著甚ナルモノアリテ全ク面目ヲ一新セリ。異ナレル氣候風土ノ上ニ建設サレシ学理ト實際ヲ以テ日本ヲ開拓セントスルハ、他人ノ禪ニテ自カヲトル如ク木ニ依

テ魚ヲボムルヨリモ成功不能ナルハ言ヲ俟タズ、同生物ヲ研究ノ對象トスル医薬学ニ於テモ亦同一原理ノ支配ヲ受タルハ極テ當然ナリ。即ケ研究ノ專ラ東洋人並東洋ノ風物ヲ對象トシ、材料ヲ主ニ此範圍ニボメ、人体解剖及生理等ノ基礎医学並藥用植物学及生藥学的ノ基礎的藥学ノ研究ヲ東洋的ニ完成シ、東亞地方ニ共通スル原理原則ヲ悉見シ応用ヲ自任ナラシムルコソ研究者並實際家ノ眞ノ使命ナリト云フベシ。

II) 皇漢医薬学ヲ東洋医薬学トシテノ復興...今後東亞ノ情勢ヨリ察スルモ産業学術等凡テ吾人ハ日漸反テ一國トセル東洋ノ振興ト世界的飛躍トヲ目標トスベキモノタルハ異論ナカレバシ、医薬ノ大道ニ於テモ同様ニシテ吾人ハ東洋ニ基礎ヲ置キ東洋人ヲ對象トシテ研究シ益々欧米ノ長ヲ採リ短ヲ補ヒ、以テ確固不動ノ東洋医学薬学ヲ建設スルヲ要ス。是ガ爲メニハ須ク漢方医学ト漢方薬ノ研究吟味ハ先決問題ト云フベシ。此ノ意味ニ於テ「國譯本草綱目」(春陽堂版洋装全15冊)ノ出版ノ如キハ喜ブベキ現象ナリ。

第四節 和漢薬ノ採集・製法・用法・貯藏法 並處方例

○ 和漢薬ノ製法・用法並貯藏法

I) 和漢薬ノ採集法及製法

i) 和漢薬ノ採集法 藥草藥木ヲ採集スルニハ先ヅ其産地

及小布ヲ明白ニスルヲ要ス、次ニ其形態ト識別法トヲ知ルヲ要ス、鑑定ニシテ誤アラバ万幸無効ナルカ又頗ル危険ヲ生ズ、概ニ臨ミ最注意ヲ要ス。

次ハ藥用部ヲ明知スルヲ要ス、即チ全草ナルカ根カ莖カ葉カ花カ將又蕾カ果カ種子ナルカヲ承知シ置キ、概ニ臨ミテ採集部ヲ誤ラザル様、無用ノ手数を掛ケザル様心掛クベシ。次ハ採集時期ニシテ種類ニ依テ採集時期ヲ異ニスルモノナルガ、大抵ハ全草ヲ使用スル藥草ハ開花期又其前後ヲ適期トシ、根又根莖ヲ用ヒルモノハ成分ノ最多量ニ蓄積セル秋季ヲ最良トシ、莖ヲ用ヒルモノハ夏期最繁茂ノ時期又其前後ヲ最良トシ、莖及樹皮ヲ用ヒルハ其最盛期又秋季ニ、花ヲ用ヒルハ開花期ニ採集シ、果及種子ハ夏秋ノ候其成熟期ヲ選ブベシ。然レモ藥用植物ヲ山野ニ於テ實地ニ見スルニハ花果ヲ目標トスルヲ最捷徑トスル故、兎角開花期ニ採集悉極スル場合多キハ止ムヲ得ザルニ出ヅ。然シ理想的ニハ藪ノ其形質(幼壯老)ニ形態)ヲ知悉シ置クカ、又生育地(産地)ヲ檢シ置キ秋末枯損セルニ臨ムモ選擇ヲ誤ラザルヤウニ十分ノ注意アルヲ要ス。例ハバ、どくだみげんのしようこくさのわう等ノ全草使用者ハ其開花期ニ、いたどり、はしりどこわりんだう等ノ根又根莖使用者ハ秋季草立ノ枯レタル時期ニ、しろもも、すひかづらうつばぐさ等ノ如ク蕾又花部ヲ使用スル者ハ蕾又其前花期ヲ選ブベシ。

ii. 和漢藥ノ調製法、概生藥ナレバ調製簡易ナリ、即花及

蕾等ハ採取セシ後直ニ陰干シニシ、庭中密閉貯藏ス。根又根莖等ハ土砂等ヲヨク洗ヒ落シ、清潔ニシ陰干シ袋入トシテ貯フ。莖及樹皮ハ塵埃ヲ除去シ、陰干シ袋入トス。果実ト種子ハ其後乾燥スベシ。以上ノ中水洗セシ場合ハ初メ日光ニテ陽干シスルモ差支ヘナシ、又ありバノ如キハ莖ヲ輪切リトシ乾燥スベシ。ざしざしノ如ク根ヲ生ノ体直ク使用スルモノハ枯潤乾燥スベカラズ、其他絞汁、生葉等ヲ使用スルモノハ直チニ用フベシ。

ii) 和漢藥ノ調劑及處方並服用法 漢方ニハ單味藥少ク概伍藥ヲ用ヒルヲ常トスルハ一大特徴ナリ。神農本草經ニ藥性ハ丸ニ宜キ者、散ニ宜キ者、水煮ニ宜キ者、膏煎ニ宜キ者有リ、又一物ニシテ兼テ宜キ者アリ、亦湯酒ニ入ルベカラザル者有リテ茲ニ草性ニ從ヒ、遠越スルコトヲ得ザルモノナリトアリ。

i. 和漢藥ノ調製法及處方 和漢藥ニハ普通ニ煎藥、浸藥、散藥、丸藥、膏藥等ノ別アリ、其ノ調製法ハ次ノ如シ。

i. 煎藥 煎藥ノ材料ハ根、莖、葉、果等種々アレモ、種子等小ナルモノ以外ハ適當ニ切刻ミ又崩落シ、是ヲ其後調製土瓶(其他工器、銀瓶、アルマイト器等)ニ入ルカ或ハ布袋中ニ納メ(種子又細カク切刻ミン生藥ノ場合、或粘液質ノ生藥ノ場合等)、炭火ニテ徐々ニ煎出スヲ法トス。生藥ノ分量ハ大人一回四匁(15瓦)、一日十二匁(45瓦)ヲ平均量トシ、多少ノ藥ノ性質(緩劇ノ程度ニ依リ)ニ依テ加減スルカ又ハ病狀ノ輕重ニ依テ多少ノ増減アルモ、普通ハ大人一日40匁至50匁ヲ越

ニルコト勿レ。時ニ必要ニ応ジ一回ハ又(30瓦)内外ヲ用
フルコトアルモ医者ト相談ヲ要ス。水ノ量ハ一日量ニ合
(300瓦)ナレバ、薬ト共ニ徐々ニ煎出スコト暫時ニシテ水
量略半減シテ一合(150瓦)内外ニ達セルヲ度トシ、3回ニ分
テ服用スベシ。但シ小児ハ年齢ニ依テ加減スベキモ大人ノ
半量ヲ標準トスベシ。以上ハ規準ヲ示セルモノナルガ、藥
量ノ増減ニ依テ水量モ増減スベク、適宜多少ノ加減ヲ加フル
モ差支ヘナシ。服用ノ度数ハ一日三回朝・昼・晩ヲ規準トシ、
時ハ食前又食後或ハ食間ナリ。服用日數ハ一週間連服十日
連服ニ週間連服スソレ以上等アリ。使用スル生藥ハ民間藥
ニ單味多ケレバ、賣藥ハ凡テ複方ニテ毎四分ニ區別シ何日分
ト明記セリ、故一圓ノ錠量ハ略六月至七月(100瓦)ニテ可
ナリ。煎劑・浸劑共ニ濾過ノ温服スルヲ法トス。尚詳シクハ
第三章第一節ノ○藥品使用ニ因スル諸注意ノ項ヲ精讀セヨ。

2. 散藥 散藥ハ充分ノ乾燥ヲ必要トスル故、先ヅ生藥ヲ
日光又炭火ニテ乾燥セシメ之ヲ細切シ、次ニ藥研ニテ細粉
トシ是ヲ絹篩ニテ篩過シテ使用ス。散藥ノ一回量ハ1匁乃
至2匁(4~8瓦)ヲ適量トス。

3. 丸藥 粉木トセン藥品ヲ澱粉糊ニテ練リ合セ細長棒
狀トシ、之ヲ適度ノ長サニ細切シ丸藥器ニテ丸藥ヲ製ス。其
大サハ種々アリテ梧桐子大・大豆大・小豆大・大麻子大等アリ。
乾燥シテ貯フベシ。

ii. 服用法ノ諸注意 膏藥ノ如ク皮膚面ニ貼布スルモノハ

別トシ、煎劑・浸劑等ノ服用ニ於テ現在醫師ノ治療ヲ受ケ服
藥レツツアルモ、注射ヲ行ヒツツアルモ、和漢藥ヲ併用シテ
差支ヘナク又副作用ヲ起スコトナシト云ハルハモ一方醫師
ニ相談スル方可ナルベシ。次ニ煎藥ノ中芳香性ノ藥ハ單ニ
熱湯ヲ注グカ又短時間(3分~5分間)煮沸ニテ可ナリ、長
煮ハ害アリ、失香減値トナル。此外せんぶり劑等浸出迅速
ナル生藥ハ煮沸セズニ最初數回ハ熱湯ヲ注グノミニシ、後
ニ煮沸服用スベシ。煎藥ニハ往々毒成分アル故分量ノ規準
ヲ超ユルコト勿レ(南天實・朝鮮朝顔・茄皮等)。浸劑ニハ
強壯藥多ク酒浸漬トスルモノニテ分量ニ注意スベシ。

III) 和漢藥ノ貯藏法 第一要件ハ乾燥ナルガ概陰干ヲ法ト
シ直接日光特ニ強光ニ曝スハ宜シカラズ、散藥トセルモノ
ハ濕氣ヲ呼ビ易キ故初メ長ク乾燥シ瓶中ニ密封貯藏スベシ。
其他ノ生藥モ細小ナルモノ又ハ濕氣ヲ含ミ易キモノハ瓶中
ニ、其他ノモノハ厚紙ノ空氣ノ流通セザル袋中ニ、又ハブリキ
罐中ニ貯藏スベシ。以上ニハ凡テ藥名ト使用病名ト採收年
月ヲ明記スルヲ要ス。時ニ乾燥ヲ完全ニシ香味ヲ佳良ナラ
シムルタメニ藥品ヲ炮烙ニテ騎火ニカケ十分乃至十五分間
熟リテ後使用シ又斯フルコトアリ、之ヲ炮法ト云フ。生藥
ハ概新鮮ヲ賣グ故一ニ年位ニテ交代セシムルヲ良ントス。

○ 和漢藥ノ處方及處方例、數百ノ處方例アルモ單ニ數例
ヲ示スベシ。

I) 和漢藥ノ處方 二種アリ、甲ハ藥劑ノ形態ヲ以テ分類セ

レモノ、乙ハ疾病ヲ基ニシテ分類セルモノ是ナリ。

i. 薬剂ノ形態ニ依ル種類

a. 補薬方 滋養強壯・強精補腎ヲ初メ内科一般ノ薬剂ヲ包含ス。1. 丸剂 2. 丹剂 3. 散剂 4. 湯剂 5. 飲剂 (4, 5共ニ煎剂ノ一ナリ) 6. 酒剂 (浸剂ナリ、全ク投服ス) 7. 煎剂 (蒸薬ナリ)

b. 理經薬方 婦人病血ノ道薬, 主トシテ通經剂 1. 丸剂 2. 丹剂 3. 散剂 4. 湯剂

c. 産婦薬方 産科婦人科ニ関スル薬剂 α 妊娠時薬 1. 丸剂 2. 散剂 3. 湯剂 4. 飲剂 β 産後時薬 1. 丸剂 2. 丹剂 3. 散剂 4. 湯剂

d. 性病薬方 性病即花柳病薬ナリ。1. 丸剂 2. 丹剂 3. 散剂 4. 湯剂 5. 飲剂 6. 膏(霜)剂 7. 餅剂 8. 膠剂

ii 疾病ニ依ル分類

1. 神經(系統) 病薬方 (腦病・精神病・神經痛・リウマチス・ヒステリー等)

2. 呼吸器病薬方 (寒胃咳嗽・痰喘・喘息ヲ含ム)

3. 消化器病薬方 (胃腸病其他一切)

4. 血行器(循環器) 病薬方 (心臓病・血液病・血管ノ疾病等)

5. 泌尿器病薬方 (腎臓病・膀胱ノ病尿ノ病等)

6. 生殖器病薬方 (生殖器各部ノ諸病)

7. 性病(花柳病) 薬方 (梅毒・淋病・消渴・下疳等)

8. 産婦人病薬方 (産科・婦人科ニ関スル一切ノ薬)

9. 耳鼻咽喉病薬方 (耳・鼻・咽喉ニ関スル病)

10. 肛門病薬方 (痔疾一切ヲ含ム)

11. 眼病薬方 (眼疾一切ヲ含ム)

12. 小児病薬方 (小児科ノ疾病一切ヲ含ム)

13. 皮膚病薬方 (皮膚科病一切、寄生虫病ヲ含ム)

14. 外科病薬方 (打撲症一切・骨折・腫物一切ヲ含ム)

15. 其他ノ諸病薬方 (出血・肥・盗汗・催眠・不老・延命・強壯・中毒其他)

II. 處方例. 数字ハ瓦, 水量ハニ合(300瓦)トス(1瓦ハ3.75瓦, 4瓦ハ15瓦ナリ)

(1) ヒステリー (婦人神經衰弱) 薬 大棗 5, 紫蘇実 5, 吉草根 5, 甘草 1,

以上四味大人一日分三四分煎服, 毎食間服用

(2) 神經衰弱薬 人蔘 1, 茯苓 5, 龍眼肉 5, 木香 1.5, 当歸 3, 柴胡 3, 遠志 3, 山梔子 1.5, 白朮 3, 黄耆 3, 現耶皮 5, 甘草 0.5

以上十二味大人一日分三四分煎服, 毎食間服用

(3) リウマチス (急性・慢性) 神經痛薬 麻黄 5, 桂皮 3, 白朮 5, 杏仁 3, 薏苡仁 10, 防己 5, 黄耆 5, 大棗 3, 芍薬 3, 附子 0.1, 甘草 1

以上十一味大人一日分三四分煎服, 毎食間空服時服用

(4) 感冒薬(其一). 熱アリ, 発汗セス, 呼吸苦シキヲ治ス。

赤黄…5 杏仁…3 大棗…2 生姜…2 葛根…5
甘草…1

以上六味大人一日分三四分煎服，每食間空服時服用（禁入湯）

(5) 感冒藥(其二) 頭痛アリ，熱アリ，発汗不_レナ_レル時。桂皮…8 大棗…4 芍薬…4 生薑…2 甘草…2

以上五味大人一日分三四分煎服，每食間空服時服用(同上)

(6) 感冒藥(其三) 有名ナル「葛根湯」是也 葛根…8 赤黄…6 桂皮…6 芍薬…6 大棗…2 生薑…3 甘草…1.5

以上七味大人一日分三四分煎服，每食間煎服用（禁入湯，要安靜）

(7) 鎮咳失音藥 馬兜鈴…3 遠志…3 杏仁…5 半夏…5 麥門冬…5 弟切草…5 甘草…5

以上七味大人一日分三四分煎服，每食間煎服用（外出ニ
ロスク使用，酒煙草餅油食・星芋・藪ノ子・入湯ヲ禁ジ，屢湿布
スベシ）

(8) 胃病藥(其一) 胃虚率吐アルトキ。半夏…5 桔梗…3 檳榔子…4 枳實…2 吳茱萸…1.5 竹節人參…2 生姜…1 小茴香…1.5

以上八味大人一日分三四分煎服，每食前約三分煎服用
（不消化物・脂肪性・刺激性飲食物・酒・餅・藪ノ子禁）

(9) 胃病藥(其二) 消化不良，醱酵，胸痞ヲ治ス。半夏…2 陳皮…1.5 神麴…1.5 麦芽…2 茯苓…2 連翹…1.5 黃連

…12 山楂子…3

以上大人一日分三四分煎服，每食前略二十分煎服用（注
意同上）

(10) 胃病藥(其三) 葛根湯證ニシテ嘔氣アルモノ。葛根加半
夏湯。處方(6)ノ第一乃至第四ヨリ各1ヲ減ジ，半夏…5ヲ
加フ。服法前同。

(11) 胃病藥(其四) 胃擴張，胃弛緩，嘔吐性腹痛，瀉腹（渴欲水，尿
利少）ヲ治ス。

茯苓沢瀉湯。茯苓…6 沢瀉…3 桂枝…1.5 生薑…3
朮…2.5 甘草…1.5

以上六味大人一日分三四分煎服，食前又食間煎服

(12) 補氣強壯藥 人參健脾胃 人參，白朮(土炒)，陳皮，麦芽(炒)
各8匁，山楂(去核)4匁，枳實12匁。

以上六味ヲ研末トシ，麴糊ニテ丸藥トス。大人一回分服
用シタ

(13) 補血補精藥 (精血枯涸・喘熱ヲ治ス)。大補地黄丸。生地
黃30匁，熟地黄，黃蘗各40匁，當歸，乾山藥，枸杞子各30匁，知
母，山茱萸，肉桂，白芍藥各20匁，肉蓯蓉，五苓各10匁。右十一味ヲ
研末ニシテ密ヲ和シ，梧桐子大トシ，大人一回七八十丸ヲ空服時
淡塩湯ニテ服用，或臥時温酒ニテ服用。

(14) 補氣補血不老長壽藥 不老丹。生地黃，熟地黄，人參，天門
冬，麥門冬各30匁，茯苓，地骨皮各50匁，何首烏80匁。右八味ヲ
研末トシ，密ヲ和シ，梧桐子大丸藥トス。大人每服30~50匁

ヲ清晨時ニ温酒ニテ服用。一日乃至十日ニシテ効ヲ奏ス。
 (15) 心身衰弱症薬。六神散、人參、白朮、茯苓、白扁豆、黃耆、甘草、
 右六味各半斤ヲ研細末トシ、大人毎服量二匁、清水半盞ニ生薑
 一片大棗一個ヲ加ヘ三分ニ煎シ、詰メ隨時服用ス。

第六章 植物及藥物ノ名称ト學名

植物ノ名称ニハ俗名、國名、學名等アリ、是等ニ就テ次ニ説明スベシ。

第一節 名称總説(植物ヲ代表トス)

○ 俗名 俗名ハ又普通名 *Common name* ト稱ス。

I) 俗名ノ定義 俗名 (*vulgarly name*) トハ世界各國ニ於テ其各地方ヲ介布範圍トシテ使用ケル、方言ノ一種ニシテ、國家的統制ヲ受ケサル地方的名称ヲ云フ。故ニ俗名ハ各國其國語ヲ以テ表ハシ各國ニテ異ルバ勿論、一國內ニテモ郡村等ニ依テ方言アル如ク、同一植物ニテモ名称ノ異ル場合少カラズ。例ヘバ普通おぼほこ (和名) ト稱スルモノハ、俗名即チ方言トシテハ、東野ノ置賜地方ニテハオボトリぐさ、仙台地方ニテハかいあつば、信州ニテハおんほこヌんハニト稱スルガ如キ是ナリ。

II) 俗名ノ價值 俗名ハ方言ナレハ通用範圍狭ク、學術的根據ナク、國家ノ統制ヲ受ケサルニヨリ一般學術上ニ使用シ得ズ。單ニ地方的ニ通用スルノ、ナリ。故ニ是ハ學術ノ

進歩トモニ卷止シ、統制ナレタル規格名 *和名*ニ改メラルヘキハ言ヲ俟タズ。

○ 國名

I) 國名ノ定義 國名 (*National name*) トハ世界各國各其國ノ國語ニテ表現シ、其國全体ニ通用スル名称ニシテ多少ノ國家的統制ヲ受ケ、一定セル國家的名称ヲ云フ。故ニ國際的ニハ通ゼサレバ、其國內ニテハ學術其他一般ニ通用ス。國名ニハ各其國号ヲ冠シテ國名相互間ヲ區別ス、例ヘバ和名、漢名、英名、独名、佛名等是ナリ。

II) 國名ノ價值 國名ハ其國內ニ普遍的ニ通用スル名称故國語トシテ一國ノ教育上、學術上、産業上凡テ此名称ヲ標準トスベキモノナレバ、一般的重要性ニ於テ學名ニ優リ第一位ヲ占ムモノト云フベシ。

III) 國名ノ例、國名ハ其數多ケレバ普通ハ次ノ教條ナリ。

i. 和名 (わめい, わみょう)

1. 和名ノ定義及表記法式 和名トハ日本ノ名称ヲ云フ。例ヘバ、日本共通(學術、産業、會話、文章等凡テ)ノ名称タルさくら、うめ、まつ、すぎ、ひのき、さわら、おぼほこ等ノ如シ。其表記法式ニハ片假名式、平假名式、ローマ字式ノ三態アリ。甲ハ応用最モ廣ク見易ク讀易ク文章中ニ於テ見易シ、乙ハ字体優美ナルモ非科學的ニテ効用ガレモ片假名交リ文中ニ使用シテ使ナリ、丙ハ概ネ歐文中ニ挿入セラル、ヲ常トス。

例、サクラ さくら *Sakura*

2. 和名ノ正シキ表現法 和名ノ表現法式ニハ3態アレ
 此是ヲ正シク表現スルハ容易ナラズ、故ニ學者ニ依テ意見
 ヲ異ニシ、目下日本ハ國家的ニ統一サレシ規準ヲ見ズ、即
 従来ノ假名使ヒヲ嚴守シ古来ノおうとむぎ、じゆうもんじれだ、
 につくわううつぎ、いちりんさう、りんどうヲ其終トスルニ対
 シ、長等ヲ凡テ音讀式(発音通り)ニ改良セントスルハお
 ーとむぎ、じゆうもんじれだ、につこううつぎ、いちりんさう、
 りんどうト書クコトヲ主張シ；又全体ヲ假名ニテ表現セント
 スルニ対シ、假名ノミニテ表セバ字義現ハレザル故誤解起
 ルコトアリ、依テ漢字ヨリ名トスル方法即しまかんぎく・し
 まだけ・しすすきヲ夫々島かんぎく・縞だけ・縞すすきト書ク
 ベシ、以テ島ト縞ノ同音異義ノ混雜誤解ヲ防グベシトスル
 主義ニ対シ、誤解ノ起ル場合ハ少キニヨリカ、ル名称ニ限
 リ漢字ヲ適當ニ挿入シしまかんぎく(島寒菊)・しまだけ(縞
 竹)・しすすき(縞薄)トセバ假名文字統制ヲ破壊スルコトナ
 ク一舉兩得ナリトスル主義アリ。

要之現今並此後ノ東亞ノ情勢ニ鑑ミレバ、音讀式ヲ採用
 シ誤解シ易キ名称ニハ漢字ヲ挿入シ、綴ノ間ニハハイフンヲ
 入レル、ヲ以テ最時宜ニ適セル万人向ノ表現法ト云フベシ。

即チおーとむぎ、じゆうもんじれだ、につこううつぎ、いちり
 んさう、りんどう、しま-すすき(縞薄)、しま-かんぎく(島寒菊)等
 ノ如シ。但シしま(島)ハ概ネ台湾島産ニ附セシレタルが早田
 博士ハしまヲ皆たいわんト訂正サレシ故此要ハ消失スベシ。

3. 和名採用ニ学名ノ如キ一定ノ規約ニ據ルノ可否
 是ハ大ニ其必要ヲ痛感スレモ未ダ其規約ナク、昔ヨリ習慣
 的ニ傳承スルニ適ギズ、故ニ同物異名・異名同物・一物數名等
 ノ弊害百出シ、且人ニ依リ地方ニ依リ往々名称ヲ異ニシ、
 或ハ表現ノ方式(前出)ヲ異ニセル等統制サレシ規格ヲ見ザ
 ルハ、各方面ヨリ觀テ不都合極マレルコト、云フベシ。一
 日モ早ク統一シ、規準ヲ示ス必要切ナルモノアリ。當中
 イ、一物一名ヲ原則トスルコト、口音讀式ヲ採用スルコト、
 ハ一名中ノ形容詞ト名詞トノ間ニハイフンヲ入レ讀ミ易
 クシ且誤解ヲ防グコト、ニ以上ニ依テモ誤解ノ恐レアル
 場合ハ括弧ヲテ漢字ヲ挿入スルコト、ホ、名称決定ニハ徒ニ
 古キ名称ニノミ依ル必要ナキコト、是ハ不都合ナク古クヨ
 リ使用シテ普及セシ名称ハ其終トスルコト、ハ非科学的
 名称(一物二名以上アル場合)ハ之ヲ廢スベシ、ト、正名ア
 ルヲ知ラズニ後ヨリ追加セン名称ハ總テ異名トシ、又ハ之
 ヲ廢棄シ簡潔ニ整理スベキコト

等ハ和名決定ノ重要條件ナルベシ。

4. 和名ニ一々出典ヲ記入スル可否 和名ハラテン学名
 ノ如ク名称ニ命名者ヲ附記セザル故此ノ必要ナクラン。

或人ハ、

あぶらちやん一名ごわはら…美濃池河方言(草木図説)

ひのき一名そばのき…物品識名拾遺

ふぢもどき一名さつまふぢ…柳菴集

等ノ如ク出典及方言等ヲ附記スルコトヲ提称セシガ、是モ可ナレバ尙多クシテ幼小ク、且古書ノ入手困難ナル今後ノ人々ニハ殆不可能事ナリ。

ii. 漢名 (かんめい, かんみょう) 是ハ支那ノ名称ト解スヘキモノナレバ、日本ニテ使用スル爲合ハ彼我共通英産ノ植物ニハ共通ニ使用シ得ベシ。然レモ支那ニ産セズシテ日本ニ産スルモノハ、別ニ漢名ヲ作テ命名セザルベカラズ。而テ古来特ニ徳川時代ニ漢名ヲ多数輸入センモ、其鑑別同定即鑑定ニ於テ不当ノモノ不鮮、即似テ非ナルモノ頗多ク於テ現今不当不正漢名ハ多クアルヲ知ラザルベカラズ。故ニ漢名ヲ書ク場合、和名アルモノハ和名ヲ併記シ且出典ヲ記セバ學術的ニテ考證學上必要ナリ。即

壽星桃 (あめんどら) ... 汝南園史 鷓豆 (のまめ) ... 救荒本草
佛瓜豆 (けいとうまめ) ... 授時通考 溫杉 (やわらすぎ)
... 物理小織

ノ如クスルヲ可トスルモ、是モ中々今後ノ人々ニハ容易ノ業ニ非レベシ。

iii. 英・独・佛名其他 各國夫々異ナレル名称アルコト次如。

1. 和名 すずらん (すみかげさう) ハ英名ヲ *Lily of the Valley* ト称シ、独名ヲ *Maiglöckchen* ト称シ、漢名ヲ鈴蘭ト云フ。

2. 和名 ひのき ハ英名ヲ *Japanese cypress*、独名ヲ *Sonnen Cypressse*、佛名ヲ *Cypres japonais*、伊名ヲ

Cipresso giapponese、漢名ヲ扁柏 (檜) トイフ。(実ハ支那ニハのきナク扁柏ハ似非、別種ナリ、而シテ檜ハ和製漢名也)

3. 和名 こくたん ハ印度名ヲ *Ebans*、英名ヲ *Ceylon ebony or Bombay ebony*、独名ヲ *Ebenholz*、佛名ヲ *Ebene*、漢名ヲ烏木ト称ス (黒檀ハ和製漢名ナリ)。

○ 學名 (學術名)ノ定義及種類 一名ヲ羅典名 (*Scientific name or Latin name, Wissenschaftlicher Name*) ト称ス。次節ニ詳記スベシ。

I) 學名ノ定義 學名トハ語ノ科学的構成ヲ根據トシ學術上國際的即世界共通的ニ使用スル國際名稱 (*International name*) ニシテ、動植物名・生藥名・藥品名等ニ使用セラル。而シテ動植物學名ノ命名ニハ特ニ万国植物 (動物) 命名規約ヲ設ケ此ノ規約ノ指示スル處ニ從ツテ命名スル様ニ規定セラル。學名ハ國名 (和名等) ノ如ク平易ニ通用シ難ケレドモ一定ノ科学的規則ニ從テ命名センモノ故、甚正確ニシテ混同・誤解ニ流ル、憂ナシ。

II) 學名ノ種類 科學上一定ノ構成形式ヲ有シ學名ト認ムベキモノニ3型4種アリ。即(1)植物學名 (2)動物學名 (3)生藥學名 (4)藥品學名是ナリ。

第二節 植物ノ學名

○ 植物學名ノ構成及命名ノ歴史

I) 植物學名ノ構成 (組立) 植物ノ學名ハ所謂リンネス

Linné (Linnaeus, 1707-1778)ノ創定セルニ字命名法
 又ニ名命名法(略シテニ名法, 二名式 Binomial nomen-
 clature, B. system, Binäre Nomenklatur)ニヨル
 モニシテ, 属名(Generic name)ト種名(Specific
 name)トヨリ成リ, 是ニ命名者名(Name of nomenclator,
 author)ヲ附記スルヲ定法トス, 或ニ学名ハ……属名+種
 名+命名者……ノ3要素ヨリ構成スルモノト云フベシ。学
 名ハ原則トシテラテン語ヲ用ヒ; 頭語ノ属名ハ名詞ヲ用ヒ,
 次語ノ種名ハ形容詞ヲ用ヒ, 最後ノ命名者名ハ各自ノ姓名ノ
 中ノ姓ヲローマ字綴ニテ記スルヲ法トス。

和名(日本共通) 学名(世界共通)

	属名	種名	命名者
例. よしのさくらノ学名ハ……	<i>Prunus</i>	<i>yedoensis</i>	Matsum.
あかまつノ学名ハ……	<i>Pinus</i>	<i>densiflora</i>	Sieb. et Zucc.
くろまめのきノ学名ハ……	<i>Vaccinium</i>	<i>uliginosum</i>	L.

附言: 一 和名ハ略テ日滿反ニ廣布スベキ重要性アリ。

以上ノ中 Matsum. ハ Matsumuraノ略ニテ松村任三
 博士, Sieb. et Zucc. ハ Siebold 及 Zuccariniノ略, L.
 ハ Linnaeusノ略ナリ。

学名ハラテン語ヲ用フルヲ原則トシ, ラテン語以外ノ高
 語ヨリ取りタル語ハ習慣ニ依ルモノノ外ハラテン語ノ語尾
 ヲ附スルヲ定規トス, 然レモ学名中ギリシヤ語ヨリホリシ
 モノ可ナリ多ク是等ハ其綴リト語尾ハラテン語化シ或ハ其
 ノ語尾ノミラテン語化セリ。

学名ノ書キ表シ方ニ次ノ三法アリ。

- α 連記式 やまざくら *Prunus donarium* Siebold
- β 區切り式 やまざくら *Prunus donarium*, Siebold
- γ 畧記式 やまざくら *Prunus donarium*

以上ノ中αハ最廣ク行ハル、型式ニテ3要素ハ連続不可
 介且不可缺ノモノト考フル書式ニテ, 介類學内學者ハ概此
 型式ヲ使用ス。βハ命名者ヲ附属物視スルモノニテ, 介類
 學者以外ニ往々使用セラル、ノミ。γハ略式ニテ完全ナル
 学名ニ非ズ, 煩ヲ厭フ場合カ, ス介類學ノ初學者或ハ直キ
 ヲ置カザル人ニ使用セラル。

II) 學名命名ノ歴史 Linnéノ *Genera plantarum*ノ
 第一版ハ1737年ニ出デ *Species plantarum*ノ第一版ハ
 1753年ニ出デ此ニ二名式植物学名ノ確立ヲ見タリ。而テ
 1758年ニハ有名ナル *Systema naturae*ノ第十版ニ於テ
 動物界ニモ之ヲ適用セリ。爾來生物學者ノ處ク遵奉スル處
 ナルハ偉大ナル功績ト云フベシ

○ 植物学名ノ三要素 属名種名命名者名ノ三ヲニフ。

I) 属名 Genus, generis, n. (属ノラテン語) Generic
 name, Genus; Gattungsname, Gattung.

i. 属名ノ一般規則. 1. 属名ハラテン語又ギリシヤ語ノ單
 数主格(一格)ノ名詞ヲ使用ス。2. 属名ノ頭字ハ必ず大文
 字ニテ記スベシ。

属名ハラテン語又ギリシヤ語ノ植物名, 又是等ノ國語ヨ

所ニ作リタル名詞、又著名ナル植物学者ノ姓名、或各因ノ地名、各因ノ植物名又方言ヲ用ヒ、其語尾ノニラテン語ノ主格名詞形トス。

3. 属名ハ名詞ナルモ、例外トシテ或名詞ヲ形容スルニ用ヒラル、形容詞ヲ名詞ヨリ離シ形容詞ヲ其終名詞トシテ使用スル場合不尠、例バ……ちぎたりす属 *Digitalis* 指袋、如キ……ナル形容詞ハ其終名詞トシテ採用セルハ、果ハ…… *planta digitalis* 指袋ノ如キ植物ノ意味ニテ唯 *planta* ヲ省略セルノミ。又つりがねにんじん属 *Adenophora* ハ *Aden* (腺名詞) + *phorus* (荷、接尾語) ニ依テ作ラレタル形容詞也。

ii. 属名ノ性ヲ知ルコト 之ハ新種命名上最必要事ノ一ナリ、概 *m.* ハ *-us*, *f.* ハ *-a*, *n.* ハ *-um* ナレド例外少カラザル外、語尾ノ変化頗多ケレバ属性一覽表ヲ調査スルヲ良法トス。(其他第六章名詞ノ性ト語尾参照)

iii. 属名使用ノ種々ナル場合

1. 本来ノラテン語植物名又後世充当セル或祖立タルラテン植物名ヲ用ヒシモノ…… *Lilium* ゆり属 *n.*; *Betula*、かんば属 *f.*; *Fraxinus* とりねこ属 *n.*; *Acer* かへて属 *n.*; *Impatiens* ほうせんくわ属 *f.*; *Prunus* さくら属 *f.*; *Rubus* さいちご属 *m.*; *Rumex* さしぎり属 *m.*; *Salix* やなぎ属 *f.*; *mitis* ぶどう属 *f.*; *Solanum* 有す属 *n.*; 祖立語…… *Sagittaria* くわぬ属 *f.*; *Chenopodium* おかざ属 *n.*; *Chrysanthemum* きく属 *n.*; *Alopecurus* すいめのつぼう属 *m.*

2. 本来ノギリシヤ語植物名又後世充当セルギリシヤ語植物名ヲ用ヒシモノ…… *Glycyrrhiza* かんざう属 *f.*; *Platycodon* さきよう属 *n.*; *Rheum* だいらう属 *n.*; *Rhododendron* れやくたけ属 *n.*; *Spiranthes* おらばな属 *f.*

3. 人名(概、性ヲトル)ヲ属名トスル場合

α. 人名綴ガ *-a* ニ終ルトキハ *-ed* ヲ附シ *-aeat* トス。例 *Shibataea* おかめささ属 *f.*

β. 人名綴ガ其他ノ母音 (*e, i, o, u*) ヲハ *-er* ニ終ルトキハ *-ia* ヲ附ス。例 *Scopolia* はれりどころ属 *f.*; *Makinoa* ささのこけ属 *f.*; *Keiskea* しもばしら属 *f.*

γ. 人名綴ガ子音ニ終ルトキハ *-ia* ヲ附ス。例 *Begonia* しうかいだう属 *f.*; *Fuchsia* しまくレヤ属 *f.*; *Sweetia* せんぱり属 *f.*; *Yoonia* しやうきらん属 *f.*

4. 植物ノ各因語又土語(其産地)ヲ其終或 *-ia* 又 *-ia* ヲ附ス…… *Taiwanica* たいわんすき属 *f.*; *Shea* ちや属 *f.*; *Ginkgo* いてふ属 *f.*; *Sasa* ささ属 *f.*; *Akebia* あけび属 *f.*; *Skimmia* しきみ属 *f.*

II) 種名 *Species, -cei, f.* (種ノラテン語) *Specific name, Species; Antname, Ant.*

i. 種名ノ一般規則 1. 種名ハラテン語又ギリシヤ語ノ單数主格(一格)ノ形容詞ヲ用ヒルヲ常トス、但シ旧属名・人名・各因語(土語)ヲ用ヒルキハ名詞・形容詞又名詞トス。2. 種名ノ頭字ハルズ小文字ニテ書キ記スコト、但シ旧属名・人名

各國語(土語)等ハ大文字ニテ書クコト。

ii. 種名ノ性数格ハ凡テ屬名ノソレニ從ヒ一致セシムルコト。例。いてハ *Ginkgo biloba* L.ハ *Ginkgo* (いてハ屬, *Subs., f. Sing. nom.*) *biloba* (ニ裂ク, *Adj. f., Sing. nom.*), L.

iii. 邦教主格形容詞ノ性ニヨル諸変化ノ一例

形容詞	性別	変化別		
	m.	f.	n.	
白	<i>albus</i>	<i>alba</i>	<i>album</i>	第一変化
黒	<i>niger</i>	<i>nigra</i>	<i>nigrum</i>	第二変化
緑	<i>viridis</i>	<i>viridis</i>	<i>viride</i>	第三変化

iv. 種名使用ノ種々ナル場合

[A] 形容詞又名詞形容詞ヲ用ヒル場合

1. 樹木ハ屬名ノ性ハ。例々其ハ *m.* 又 *n.* ナリトモ種名ハ概 *f.* トスル場合多シ。例ハバさくら屬(ほめさくら) *Prunus incisa* Thunb.; まつ屬(ほひまつ), *Pinus pumila* Regel; ぶち屬(ぶち) *Fagus crenata* Blume; かじ屬(かじ) *Quercus acutissima* Carr.; とねりニ屬(とねり) *Fraxinus japonica* Blume

2. ラテン語ノ形容詞ヲ用ヒル場合(普通)--- *Cassia angustifolia* (根葉); せんば, *Capsicum annuum* (一年生ノ); たうがらし, *Callitris quadrivalvis* (四穀片ノ); サンダラック, *Pigonea simplex* (草一); まくり, *Plantago major* (ヨリ大ナル) おほば *c. f.*

3. ギリシヤ語ノ形容詞ヲ用ヒル場合--- *prunus macrophylla* (大葉ノ) はくちのみ; *Evodia rutaecarpa* (ヘンルーダノ如キ) としゆゆ

4. 地名(産地・産見地等ノ固有名詞)ヲ形容詞化シテ用フル場合--- *Swertia japonica* (日本ノ) せんぷり; *Hydrastis canadensis* (カナダ産ノ), ひどらすちす... 地名ハ凡テ小文字ニテ書ク。他ニ *formosanus* (台湾ノ), *sendaica* (仙台ノ), *frigicola* (寒地生ノ) 等ノ諸型アリ。要之(α) 國名ハ *-icus, -a, -um*, (β) 小地名, 山名等ハ *-ensis, -e*ヲ, 其他ハ *-anus, -a, -um* ヲ使用スベシ。

5. 人名(固有名詞)ヲ形容詞化スル場合。但シ此場合ハ大文字ヲ用フ。---

A. 屬名即第二格ヲ用ヒル場合(名詞ヲ形容詞化シテ)ハ屬ノ性ノ如何ニ係ラズ語尾不変ナリ。

α. 人名ノ語尾 *-a* ノキハ *-e* ニ *-e* ヲ附ス--- *Matsumura* ハ *Matsumurae* トス。

β. *a* 以外ノ母音(*e, i, o, u*)ナルキハ *-e* ニ *-i* ヲ附ス--- *Nakai* ハ *Nakaii*, *Blume* ハ *Blumei*, *Makino* ハ *Makinoi*

γ. 人名ノ語尾 *-e* ヲナルキハ *-e* ニ *-i* ヲ附ス--- *Koempfer* ハ *Koempferi*。

δ. 其他ノ子音ナルキハ *-e* ニ *-i* 又 *-ii* ヲ附ス--- *Siebold* ハ *Sieboldi* 又 *Sieboldii*

B. 人名ヲ名詞形容詞トシテ用ヒル場合ハ語尾ニ

-anus ス -ianus ヲ附ス... *Makinoanus, Nakaianus,*
Maximowiczianus, Sieboldianus.

△注意:-- 敬意ヲ表スル場合ハ人名ヲ形容詞トシ, 採集
研究等直接ノ関係アル場合ハ名詞形容詞ノニ格トス。

β. 産地他ノ属名又植物名ヨリ取り其類似ヲ現ス時ハ

α. 属名又植物名ノ語幹ニ -odes, -oides, -oideus 等
ヲ附シテ形容詞(名詞形容詞)トス...

Allium ヨリ *alliodes, allioides, allioideus*... ねぎ
属ニ類スル。

Filix (*Filic-*) ヨリ *filicodes, filicoides, filicoideus*
レド類ニ似タル。

Rubus ヨリ *rubodes, ruboides, ruboideus*... いら
ご属ニ類スル。

β. 属名又植物名ノ語幹ニ -folius, -florus, -formis,
等ヲ附シテ, 其葉・花形等ノ類似ヲ現ハス, 但ニ概略台語
トヲ附入ス...

Ranunculus ヨリ *ranunculiflorus*... きんぽうけ
属ノ如キ花ノ

Rumex ヨリ *rumicifolius (-florus)*... きりぎ
し属ノ如キ葉(花)ノ

Prunus ヨリ *prunifolius (-florus)*... さくら
属ノ如キ葉(花)ノ

Pepo (*pepon*) ヨリ *peponiformis, -e*... 瓠果ノ如キ

形ノ

若シ属名又植物名ノ語尾 -a ノハ之ヲ -ae トシテ -foli-
us 等ヲ附ス。

Mentha ヨリ *menthaefolius*... はつかり属ノ如キ葉ノ
近赤此ノ區別ニ従ハズ總テ -i ニテ結合スルニ至レリ。但シ
Rubia, Rubus ハ *Carica, Carex* ト區別スルタメ -ae- ヲ
用フ。

Rubia ヨリ *rubiaeflorus, -folius* ハ *Rubus* ヨリ
rubiflorus ト區別ス。

Carica ヨリ *caricaeflorus, -formis* ハ *Carex* ヨリ
Cariciflorus 等ト區別ス。

7. 形容詞ノ語尾 -us, -er, -fer, -ger, -is, -ensis,
-ior, -ans, -ens, -ex, -ax, -ix, -ox 等(以上ハ凡テ m
ノミヲ掲グ)。

[B] 名詞トシテ用ヒル場合

1. 旧属名又植物ホ素ノラテン名, 及ギリシヤ名ヲ其共同
格ニ用フル場合之ハ大文字ヲ用フ。

α. ラテン語 *Matricaria Chamomilla* かみつね,
Ferula Asa foetida 阿魏あぎ, *Arctostaphylos Uva*
Ursi くまこけももウハワルシ, *Strychnos Nux vomica*
番木鱈・ホミカ, *Artemisia Lappa* こほう。

β. ギリシヤ語 *Prunus Amygdalus* 扁桃, *Urginea*
Scilla 海葱, *Artemisia Absinthium* にかよもぎ,

Cinnamomum Cassia 桂皮

2. 旧語尾ヲ其係保有スル爲メ語尾ノ性が屬名ト種名ト一致セヌモノ。

Artemisia (f.) *Absinthium* (n.), *Punica* (f.) *Gramatum* (n.) さくろ, *Cinnamomum* (n.) *Cassia* (f.), *Thymus* (m.) *Serpillum* (n.) せむびねむさう。

3. 土語(國語)ヲ其係単名ニ使用スル場合ハ一格トシテ其係用ヒ、綴リハ格発音ノ係又発音ノ係トシ、總テ大文字ヲ用フ。前全係性ハ區別セズ又語尾一致セズ。

Acacia Catechu あらびやびむ, *Panax Ginseng* トンギン

Piper Cubeba フベバ, *Theobroma Cacao* カカオ,

Magnolia Kobus コブシ, *Allium Cepa* ねぎ,

Glycine Soja 大豆, *Polygala Senega* セネガ,

Prunus Ume うめ, *Sapindus Mukurossi* むくろじ,

Zingiber Mioga めうが, *Paeonia Moutan* ぼたん,

Zea Mays とうもろこし, *Diospyros Kaki* かき

4. 形容詞ノ語幹又接頭語ニ名詞形接尾語(元来ハ名詞)ヲ組合セ單數一格トシテ用ヒルモノハ性ヲ區別セズ、即係変化語尾ニテ m. f. n. 皆同一形ナリ。例. *-lepis* 鱗片 *erythrolepis* 赤色鱗片 m. f. n. 總テ *-lepis* 形ナリ。

次モ全係ナリ。

-Calyx 萼 *adenocalyx* 腺萼 *-dens* 齒 *Crassidens* 大齒

-Ceras 角 *buceras* 牛角 *-odon* 齒 *Polyodon* 多齒

-botrys 房・總狀 *Chrysobotrys* 黄金色ノ房

-Cola 住者 *monticola* 山ノ住者 *-stachys* 穂
acanthostachys 刺穂

5. 種名ニ名詞ノ二格(屬格)ヲ使用スルモノハ二格其係トシ語尾ハ常ニ不変ナリ。例. *Bombyx* 絹(nom.)ノ二格ハ *bombycis* (gen.)ニテ m. f. n. 共ニ *bombycis* ナリ。是ニ單數ノ二種類アリ。

α. 單數ニ格(Sing. gen.)ヲ使用スルモノ……

nom.	gen.	字義
<i>boninsima</i>	<i>boninsimae</i>	小笠原島
<i>draco</i>	<i>draco</i>	龍
<i>matricaria</i>	<i>matricariae</i>	かみつね
<i>Pastor</i>	<i>Pastoris</i>	牧人
<i>oryza</i>	<i>oryzae</i>	米
<i>Thunberg</i>	<i>Thunbergii</i>	人名(トウソベルジュ)

β 複數ニ格(Plur. gen.)ヲ使用スルモノ……

<i>bambusa</i>	<i>bambusarum</i>	竹
<i>Cultus</i>	<i>Cultorum</i>	栽培者
<i>dumetum</i>	<i>dumetorum</i>	藪
<i>hortus</i>	<i>hortorum</i>	庭・畑
<i>nemus</i>	<i>nemorum</i>	森林
<i>oryzetum</i>	<i>oryzetorum</i>	稻田
<i>Pinetum</i>	<i>Pinetorum</i>	針葉樹林(松林)

officina officinarum 薬店

III. 命名者名 (著者名) *author* と同様ニテ当該植物学名ノ研究命名者ニシテ書式ニ種々ノ場合アルヒ既性ノミヲロニマ字著ニスルヲ法トス。

i. 姓ノミヲ記スル場合。例. *Matsumura* (松村任三博士ノ姓); *Makino* (牧野富太郎博士ノ姓); *Nakai* (中井敏之進博士ノ姓); *Siebold*; *Blume*; *Thunberg*; *Maximowicz* 等

ii. 同姓ノ植物研究者アリテ紛ハシキ場合ハ、名ノ略字ヲ加ヘテ白他ヲ區別ス。例. *T. Ito* (伊藤篤太郎博士ニテ伊藤姓ノ植物学者不尠); *M. Honda* (本田正次博士); *F. Maekawa* (前川文夫学士); *H. Koidzumi* (小泉秀夫、拙著者ノ姓名); *Asa Gray*; *Otto Kuntze*; *De Candolle* 等

iii. 著名ナル植物学者ノ子息(息子)ノ場合ハ親ノ姓ノ後ニ *filius* (息子)ノ略字ナル *fil.* 又 *f.* ヲ附加ス。例. *Linnaeus fil.* 又 *L.f.* (有名ナリンネノ子息); *Hooker fil.*; *Hiratsuka fil.* (平塚直秀博士ニテ父子二代病理学者時)

iv. 省略法 煩雑ノ爲メ又他ノ理由ニテ著者名ノ全部ヲ書カズ省略シテ其一部(1~2級)ヲ記スルコトアリ、然レモ正確ニハ全綴ヲ記スルヲ法トス。

例ハバ、上記ノ(i)ハ *Matsum*; *Sieb.*; *Bl.*; *Thunb.* 又 *Th.*; *Maxim.* 又 *Max.*; (ii)ハ *F. Maek.*; *H. Koidz.*; *A. Gray*; *O.K.*; *D.C.*; 等ナリ。

頁面目ナル研究ヲ志ス人ハ学名ノ著者名ヲ必ス記載スベキハ勿論、其学名ノ出典巻数年代ヲモ悉ク正確ニ記スルヲ法トス。例ハバ *Osmanthus aurantiacus Nakai*, *Trees & Shrubs Jap. I.P. 265. fig. 145. (1922)* ノ如シ。

同一学名(属・種名)ニテ命名者ヲ異ニスル場合屢有之故、考證学的研究ヲ必要トスル分類学者ハ輕視スベカラズ。例ハバ *Spiraea japonica* ナル同学名ニ五人ノ異ナレル命名者アリ、然モ之ハ各植物ノ種ヲ異ニスル場合ナル改竄カザルヲ得ズ。

○ 種以下ノ階級(種ノ小區分) 種以下ノ階級ニハ亜種、変種、変種、変形、変形、個体ノ五類アリ、前中2ト4ハ類同トシラレ。I). 亜種 *Subspecies*, 略語ハ *Subsp.* 又 *Ssp.* 種ヨリモ特征微小ク変種ヨリ多キモノヲ云フ、植物界中ニハ其例少ナシ。

例. *Ixeris chinensis Nakai, subsp. strigosa Kitamura* たかさごさう, (種 *Sp.* ハたいわん-たかさごさうナリ)。

II). 変種 *varietas*, 略語ハ *var.* 亜種ノ下ニアリテ変種ヨリ特徴少ク変種ヨリ多キモノヲ云フ。植物界中其例多シ。例. *Ixeris dentata Nakai, var. albiflora Nakai* しちばな-にがな, (種 *Sp.* ハにがなナリ)。

一種中ニ多数ノ *var.* アル場合ハ *a. b. c. ...* 又 *1. 2. 3. ...* ノ順ニ列記ス。

例. *Paraxacum longe-appendiculatum Nakai* 小ちば-たんぼ¹⁾

- var. a. *genuinum* H. Koidzumi つかがたんぼぼ
 var. b. *Nakaii* H. Koidzumi ほうろうたんぼぼ
 var. c. *Onodae* H. Koidzumi けまたんぼぼ
 var. d. *grabri squamatum* H. Koidz. はんかいつかがたんぼぼ
 var. e. *micranthum* H. Koidzumi こつかがたんぼぼ
 var. f. *minus* H. Koidzumi ひめひろはたんぼぼ

II) 亜変種 *Subvarietas*, 略語ハ *Subvar.* 変種ヨリモ特徴小ナルモノヲ云フ、其例少ナシ。

例. 1. *Acer Mono Maxim. var. nikkoense* Honda, *subvar. subtrifidum* Honda やぐねまかへで(まろばとうかへで)。(種 *Sp.* ハいたやかへで, *var.* ハうらげえんこうかへです)。

2. *Gentiana scabra* Bunge. *var. buergeri* Max. *subvar. angustifolia* Makino ほそばーりんたう。

IV) 変形 *Forma*, 略語ハ *form.* 又 *f.* 変種又亜変種ヨリ更ニ特徴少ク亜変種ニモ当ラザルモノ、植物界中ニ其例多ク特ニ園藝品中ニハ此例多ク品種ト称スルモノ是也。

例. 1. *Prunus Lannesiana* wils. *form. affinis* wils. じやうにほひ。(種ハさとぎくらナリ)。

2. *Taraxacum kondoense* Nakai, *var. corniculatum* H. Koidzumi, *form. glabellum* H. Koidzumi けなうつかがたんぼぼ(種 *Sp.* ハたんぼぼ正種, *var.* ハつかがたんぼぼナリ)

V) 亜変形 *Subforma*, 略語ハ *subform.* 又 *subf.* 変形ヨリ更ニ特徴小ナルモノニテ個体ニ近キモノヲ云フ。

例. *Prunus Lannesiana* wils. *f. erecta* wils. *subf. albida* Nemoto ちねはた(種ハ前々出、変形ハあまのがほナリ)。

VI) 個体 *Individuum*, 略字ハ *Individ.* 又 *Ind.* 介類ノ最低階級ニテ自然界ニ在ケル一箇々ノ個体ヲ云フ。

○ 學名ニ附帯スル用語並略語ノ解

I) 研究並新植物発見ニ関係アルモノ

i. *Sp. nov.* 又 *Sp. n.* = *Species nova* *n. Sp.* = *new species* 新種(新発見ノ種)

ii. *nom. nov.* 又 *nom. n.* 又 *n. n.* = *Nomen novum* 新名(新命名ノ名称)

iii. *Gen. nov.* 又 *Gen. n.* = *Genus novum* 新属。

iv. *Sect. nov.* 又 *Sect. n.* = *Sectio nova* 新節。

v. *Comb. nov.* 又 *Comb. n.* = *Combinatio nova* 新組合セ。

II) 考證ニ関係ノアルモノ

i. 學名ノ命名者ニ入ルモノ

1. *et-* ハ英語, *and.* 独語, *und-* ニテ以テ又並ナリ。

2. *&-* ハ *and.* ノ略字ナリ。

ii. 學名ノ直後ニ来ルモノ

1. *in-* ハ「...ニ」又「...中ニ」アリト云フ義ニテ次ノ如ク

使用ス。

例一 *Rhododendron Komiyamae Makino in Journal of Japanese Botany* III. P. 17. (1926). あれとかつっじ (愛鷹つっじ)

2. *in*-異名 (*Syn.*) の後ニモホル場合多シ、スハ 自己ニ字ハ雑誌又著書中ニ非ズシテ 他人ノ著書又何々雑誌中ニ記スノ意ナリ。

例. *Embryanthus Matsudai Komatsu in Matsumura, Icones Plantarum Koishikawensis* I. pl. 33. (1912).

3. *ex*-ハ某氏ニ依レバ又 某氏ノ研究ニ據レバノ意ニテ精確ナルヲ表ス。

例. *Taraxacum heterolepis Nakai et H. Koidzumi ex Kitayama in Bot. Mag. Tokyo* XLVII. P. 829. (1933).

4. *apud*-ハ某氏ノ説ニ據レバノ意ニテ不精確ノ意義

5. *pp.*-ハ *pro parte* = テ 一部分ノ義

6. *p. omn.*-ハ *pro omnino* = テ 全部ノ義

7. *maj. part.*-ハ *pro majoribus partibus* = テ 大部分ノ義

8. *p. min. part.*-ハ *pro minoribus partibus* = テ 小部分ノ義

9. *l.c.*-ハ *loco citato* = テ 引用セル處又 前記ノ (引用著書論文等)ノ義

10. *m. s. s.*-ハ *manuscript* = テ 手書ノ義ニテ 学名ノ

後又前ニ附ク、研究有所載ノ標本 (培養) 中ニ自ラ手書セルヲ云フ。

11. *excl. descrip.*-ハ *excluso descriptione* = テ 記載ヲ除クノ義。

12. *Sphalmate*-ハ 誤記ノ義

13. *in sched.*-ハ *in schedra* 又 *in schedula* = テ 標本ニ貼布セル Label 上ニ書テアルノ義

14. *non*-ハ 非ズノ義。是ハ 学名ノ種名ノ直後ニ附ク。

例. (*non Maxim*) Komarov, *Maximowicz* 氏ノモ、ニ非ズシテ Komarov 氏ノ爲セルモノノ義。詳クハ Kom. 氏ノ書タモノニ *Max.* 氏ノ命名セル字名トシテ発表ノアルモ是ハ誤即不当学名ナリトノ義

15. *nom. nud.*-ハ *nomen nudum* = テ 無名即名ノミニテ記載ナリノ義

16. *nom. seminud.*-ハ *nomen seminudum* = テ 半標名即十分ナル記載ヲ伴ハズノ義。

17. *in litt.*-ハ *in littera* = テ 手紙ニテ又 通信ニ據レバノ義。

18. *sub*-ハ 以下ノ次ニ又 以下ノ記事ノ下ニノ義

19. *Sensu div.*-ハ *Sensu diversa* = テ 異ナル意義ヲノ義。

20. *Sensu amp.*-ハ *Sensu amplificata* = テ 廣義

ニテノ義。

21. *Cum diagn. in adnot.* — *cum diagnosis in adnotatione* = テ附註中ニ記相文アリノ義。

22. *Cum* — ハレ……ト共ニ又レ……ヲ伴フノ義ニテ学名ト学名ノ間ニ入ルコトアリ。例。一種中ニ二種ノ植物形ノ現ハル、場合ノ学名

iii. 異名ニ関スルモノ

1. *Syn.* 又 *Synon.* — *Synonymum* = テ異名即同物異名ノ義。

2. *Syn. nov.* 又 *Syn. n.* — *Synonymum novum* = テ新異名即異名トシテハ新表ノ義。

3. *excl. syn.* — *excluso synonymo* = テ異名ヲ除クノ義。

○ 亜節〜屬 以上ノ分類階級ニ関スル學名 科以下、亜節以上、科以上ノニ群トス。

I) 科以下、亜節以上ノ分類階級名

i. 科名 植物ノ各科名 *Familia* = ハ其複數ヲ用フル故 語尾ニ *-aceae* ヲ附ス。即 *Planta liliacea* (一変化f.) ハゆり科ノ植物ノ單數ヲ *Plantae liliaceae* (一変化f. 複數), 即 *plantae* ヲ省略シテ單ニ *liliaceae* トス, 他科モ同様ナリ。

例外トセシ…… (1) しゆろ科 *Palmae* ハ *Arecaceae*, (2) いね科(禾本科) *Gramineae* ハ *Poaceae*, (3) なまこ科(あぶ

ね科, 十字花科, 十字科) *Cruciferae* ハ *Brassicaceae*,

(4) まめ科 *Leguminosae* ハ *Fabaceae*, (5) おどきりさう科(伏

ようやなぎ科) *Guttiferae* ハ *Hypericaceae*, (6) セリ科(楸

形科) *Umbelliferae* ハ *Apiaceae*, (7) しそ科(おどりこさ

う科辰形科) *Labiatae* ハ *Lamiaceae*, (8) さく科 *Compositae*

ハ *Asteraceae* = 改変サレタレバ現在ノ科名ノ語尾

ハ總テ *-aceae* 形ニ一定サレタルハ注意ヲ要ス, 而シテ和

名ニ現在ハ漢名ヲ正式ニ使用スルモノナク, 總テ假名文字

ニ改変サレタルハ全ク確典科名ノ統制ニ沿ヘル進歩ト云フ

ベシ, 但シ色々ノ都合上以上ノ8科又總テノ科名ニ対シ

しそ(唇形)科……ノ形式ニ漢名ヲ挿入スルコトアリ。

ii. 亜科名 科ノ下ニ位スル植物ノ各亜科 *Subfamilia*

ハ各其ノ語尾ヲ *-oideae* トス。例。めぎ亜科 *Berberid-*

oideae けし類亜科 *Papaveroideae*。

iii. 族名 各亜科ノ下ニ位スル族 *Tribus* ハ各其ノ語尾ニ

-eae ヲ附ス。例。めぎ族 *Berberideae*, けし類 *Pa-*

pavereae

iv. 亜族名 族ノ下ニ位スル亜族 *Subtribus* ハ各其語尾

ニ *-inae* ヲ附ス。例。さく亜族 *Chrysantheminae*。

v. 屬 屬 *Genus* ハ七章ニ節ノI) 屬名ニ詳記セリ, 語尾

一定セズ。

v. 亞屬 屬ノ下ニ亞屬 *Subgenus* アリ, 語尾一定セズ。

vi. 節(區) 亞屬ノ下ニ節 *Sectio* アリ, 語尾一定セズ。

Vii 亞節 (亞區) 節ノ下ニ亞節 *Subsectio* アリ、語尾一定セズ。

II) 科以上ノ分類階級

i. 亞目 (亞群) 科ノ上位ニ亞目 *Subordo* アリ、語尾ヲ各 *-ineae* トス。例、以ルカは亞目 *Convolvulineae*

ii. 目 (群) 亞目ノ上位ニ目 *Ordo* アリ、語尾ニ各 *-ales* ヲ附ス。例、ウリ目 *Cucurbitales*

iii 亞綱 目ノ上位ニ亞綱 *Subclassis* アリ、語尾一定セズ。

iv. 綱 亞綱ノ上位ニ綱 *Classis* アリ、語尾ニ各 *-ales* ヲ附スルモ一定セズ。

v. 亞門 綱ノ上位ニ亞門 *Subphylum* アリ、語尾不定。

vi. 門 亞門ノ上位ニ門 *Phylum* アリ、語尾不定。

別分類系ニ植物界 *Regnum vegetabile* ヲ部 *Divisio*、亞部 *Subdivisio* ト、其下ニ門以下ヲ配置ス。入アリ。

○ 万国植物命名規約 万国植物学会ノ會議ニ於テ決定セル命名規約ニシテ、本規約及修正規約ヨリ成ル。精確ナル分類研究ニヨリ新発見植物 (及其他ノ階級ニ)ニ新名称ヲ共ハントスル人ハ本命名規約ニ指道スル外、科学的經典文及公文法ニ無違スルヲ要ス。

第三節 生藥ノ學名

○ 生藥學名ノ構成及種類

I. 生藥學名ノ構成 生藥學名ハ前記植物學名ノ如ク概ニ

語ヨリ或ルニ名式ナレモ、字名ノ後ニ命名者 (著者名)ヲ附記セサルノ差アリ。普通ニハ藥用部分名 (根葉果等)ヲ初メニ置キ單數一格 (*nom.*)名詞トスルコト植物學名ノ屬名ノ如シ。次ニホル基原植物又動物 (即藥物ヲ生ズル原料トナル)ノ名称ハ單數ニ格 (*gen.*)名詞トス。而シテ藥用部分名ノ性ト其基原植物又動物名ノ性トハ概一致セサル点モ植物學名ト異ル点ナリ。其理由ハ是等ノ基原名即動物植物名ハ概其動物植物ノ學名中ノ屬名ヲ使用シ其屬名ノ性ハ其供第二格トシテ使用スルニ因ル。故ニ生藥學名ノ二語ハ概共ニ名詞ナルト單數ナルトノニツノ一數忌アルノミ。二語共ニ頭ハ大文字ニテ書ス。但シ學名ノ種名ヨリホル形容詞ハ小文字ニテ書ス (三語成立ノ場合等)。

II) 生藥學名ノ種類 凡次ノ三種アリ。

i. 二語ヨリ成立スルモノ、最もク藥用部分名 + 基原植物ノ屬名 (或種名又方言等)……ナル形式ヨリ成ル。

1. 第二語ヲ植物屬名ヨリ取ルモノ……例、*Cortex Cinnamomi* (桂皮ノ學名), *Lignum Guajacis* (喬木ノ學名), *Rhizoma Iridis* (イリス根ノ學名), *Radix Phytolaccae* (商陸根ノ學名), *Folium Scopoliae* (莨菪葉ノ學名), *Flas Tiliae* (菩提樹花ノ學名), *Fructus zanthoxyi* (山椒實ノ學名), *Semen Hydnocarpis* (大凡子ノ學名), *Herba Swertiae* (当藥ノ學名), *Resina pini* (松脂ノ學名)

以上ノ中 *Cortex* (樹皮)ハ單數一格 *m.* 又 *f.* 兩用名詞, *Cin-*

namomi ハ *Cinnamomum* (くす屬) ヨリ未リ其二格九名詞ナリ。 *Rhizoma* (根莖) ハ單數一格 *f.* 名詞。 *Iridis* ハ *Iris* (あやの屬) ヨリ未リ其二格 *f.* 名詞ナリ。以下略ス。

2. 第二語ヲ植物種名ヨリ取ルモノ……例。 *Lichen islandicus* (イスラント苔ノ学名), *Cortex Granati* (石榴皮ノ学名), *Lignum Sappan* (蘇方木ノ学名), *Rhizoma Serpentariae* (セルペンタリア根ノ学名), *Radix Ginseng* (人參ノ学名), *Folium Coko* (古加藥ノ学名)……等

以上ノ中 *Lichen* (地衣) ハ單數一格 *m.* 名詞, *islandicus* (イスラントノ地名) ハいすらんどごけノ学名 *Cetraria islandica* Acharius, 種名ヨリ未リ形容詞ナル故小文字トス。 *Cortex* (樹皮) *Granati*, *Granati* ハざくちノ学名 *Pumica granatum* L., *Granatum* ヨリ未リ名詞ニ格九ナリ。凡テ植物学名ノ種名ニシテ性別ノナキモノハ語尾ヲ其終ニ採用ス, *Ginseng*, *Koca* 等ノ如シ, 又頭字ヲ大文字ニ書クコトモ種名(植物学名)ノ規則ニ従フ。

3. 第二語ヲ植物学名ニ関係ナク方言・土語等ヨリ取ルモノ……例。 *Cortex chinac* (規那皮ノ学名), *Flas Koso* (コソ花ノ学名)……等。以上ノ中 *chinac* ハ *China* (南木土人ノ方言 *China-China* ヨリ)ノ第二格 *f.* 名詞ナリ。

ii. 三語ヨリ成立スルモノ。比較的少シ, 即…藥用部介名 + 基原植物ノ屬名(又種名或方言等) + 基原植物ノ種名(又説明形容詞等)……ノ形式ヨリ成ル。

1. 植物学名ノ中, 屬名及種名ノ二語ヲ取ルモノ……例。
(a) *Cortex Cinnamomi-Ceylanici* (錫蘭桂皮ノ学名),
(b) *Lignum Santali album* (白檀木ノ学名), (c) *Radix Gentianae scabrae* (龍膽根ノ学名), (d) *Folium pruni macrophyllae* (バクナ葉ノ学名)……等。

以上ノ中 (a)ノ第二三語ハ *Cinnamomum ceylanicum* Nees ナル学名中ノ屬名ト種名ヲ各單數ニ格九トシテ取リタルモノ, 但シ地名ハ大文字ニ書ク。(b)ノ第二三語ハ白檀ノ植物学名 *Santalum album* ヲ二格單數九トシテ取ル, 但シ *album* ハ形容詞故小文字ニ書ク。

2. 藥用部介名 + 植物ノ種名 + 形容詞……ノ型ヲ有スルモノ……例。(a) *Lignum Santali rubrum* (紫檀木ノ学名), (b) *Herba Cannabis indicae* (印度大麻草ノ学名)……等

以上ノ中 (a)ノ第二語ハ紫檀ノ学名 *Pterocarpus Santalinus* L. *fil.* ノ中ノ種名ヲ名詞九トシテ取リンモノ, 第三語ハ説明的形容詞ニテ赤色ノ意(故ニ赤檀木トモ云フ)ナリ。(b)ト第二語ハ大麻草ノ屬名ナルガ, 第三語ハ其變種ナル印度大麻草 (*Cannabis sativa* L. *var. indica* Lamark), 其種名ヨリ取リシモノナリ。

3. 主名、別名……ノ型ヲ有スルモノ……例。

(a) *Lichen islandicus, Cetraria* (イスラント苔ノ学名),
(b) *Crocus, Stigmata Croci* (サフランノ学名)……等

以上ノ中(α)ノ第一ニ語ハ主名、第三語ハ説明用ニテ属名、
(β)ノ第二ニ語ハ説明用ニテ「さふらん」ノ在頭ヲ兼ナリ。

iii 一語ノ生薬名ヨリ成ルモノ……少シ。

1. 属名ノ一語ヨリ成ルモノ……例。(α) *Digenea* (海人
草ノ学名), (β) *Lycopodium* (石松子ノ学名), *Fossypium*
(綿ノ学名)

2. 薬用ノ原料名ヨリ成ルモノ……例. *Manna* (マンナ),
Myrrha (ミルラ), *Olibanum* (オリーブ), *Benzoe* (安息香),
Gutta percha (ゴツカペルカ), *Kino* (キノ), *Catechu* (阿
伽樹), *Kamala* (カマラ), *Spongiae* (海綿)

第四節 藥物(薬品)ノ学名

○ 藥物即薬品ニハ化学薬品ト製剤(製薬)トノ別アリ。

I) 薬品学名(命名)ノ規定

1. 重要ナル名詞ハ總テ頭字ハ大文字ニテ書クコト。
2. 形容詞ハ總テ小文字ニテ書クコト。
3. 製剤ノ一般名称ハ總テ前ニ置クコト。
4. 薬品名ハ總テ單数ヲ用フ。但シ *Pilulae* (丸薬), *Sup-
positoria* (坐薬), *Tabulettae* (錠剤)ノ3類ハ複数トス。
5. 形容詞ハ名詞ノ後ニ置クコト。
6. 製剤名ニ薬名ノ第二格名詞ト形容詞トヲ共ニ附スル場
合ハ第二格名詞ヲ中間ニ挿入スルコト。

II) 化学薬品名 化学薬品名及命名ハ次ノ如シ。

i 塩基名 主ニ金属元素・アルカロイド(植物塩基)・砒基
等ノ名称ナリ、語尾 *-um* 又 *-inum* 又 *-ium* ノ中性名詞
トス。

1. 金属元素名 — *Aluminium* アルミニウム, *Ammo-
nium* アムモニウム, *Argentum* 銀, *Aurum* 金, *Bis-
mutum* 錒鉛, *Kalium* カリウム, *Calcium* カルシウム,
Natrium ナトリウム, *Alumen Kalicum* カリ明礬

2. アルカロイド其他塩基性物質名 — *Anilinum* アニ
リン, *Antipyrinum* アンチピリン, *Atropinum* アトロ
ピン, *Chininum* キニーネ, *Naphthalinum* ナフタリン,
Santoninum サントニン, *Cocainum* コカイン, *Mor-
phinum* モルヒネ。

3. 配糖体苦味質其他 — *Podophyllum* ポトヒリン,
Aspirinum アスピリン, *Salicinum* サリシン, *Glyce-
rinum* グリセリン, *Saccharinum* サツカリン, *Santo-
ninum* サントニン。

ii 酸名 酸根名ハ概形容詞トス(又第三変化形名詞 *-as*)

1. 正酸名(正酸根名)ハ語幹ニ *-icus* ヲ附ス、—
aceticus 醋酸(名詞ハ *Acetas*), *arsenicus* 砒酸,
nitricus 硝酸(名詞ハ *Nitras*), *sulfuricus* 硫酸,
(*Sulfas*).

2. 亜酸根名ハ *-osus* ヲ附ス…… *arsenicosus* 亜砒酸,
(*Arsenicis*), *sulfurous* 亜硫酸, (*Sulfis*).

3. 次亜酸根名ハ亜酸根名頭ニ *hypo*ヲ冠ス…… *hypo-phosphorosus* 次亜磷酸ノ, *hyposulfurosus* 次亜硫酸ノ

iii. 酸ノ命名 ハ初メニ *Acidum* ヲ置キ, 酸名ノ形容詞ヲ其次ニ置ク…… *Acidum sulfuricum* 硫酸, *Acidum arsenicosum* 亜砒酸

iv. 塩類ノ命名 ハ初ニ塩基名ヲ置キ, 次ニ酸根名ノ形容詞ヲ置ク…… *Natrium chloratum* ナトリウム, 食塩, *Kalium sulfuricum* 硫酸カリウム, *Morphinum hydrochloricum* 塩酸モルヒネ, *Argentum nitricum* 硝酸銀

v. 人名ヲ藥名ニ附スル場合ハ次ノ如クス…… *Liquor Lockei* ロック液, *Sal Seignetti* セニエツト塩, *Pasta Picis Professoris Dohi* 土肥教授タールバスタ。

III) 製剤名 製剤(製藥名)名及命名ハ次ノ如シ。

i. 一般規約 製剤名ハ製剤一般名ト原料名トヨリ成ル。(例. *Extractum Scopoliae* 莨菪エキス), 一般名ハ複數ナルモノト見做ス得ルモノハ複數ヲ用ヒ(例. *Pilulae Aloës* 蘆薈丸, *Suppositoria Scopoliae* 莨菪坐藥), 量ニテ測ルモノハ單數ヲ用フ(例. *Tinctura Gentianae* ゲンチアナ丁糖)。而シテ製剤ノ一般名ハ原料名(藥品ノ名称)ノ前ニ記スルヲ法トス。

ii. 製剤ノ一般名 主ナルモノ次ノ如シ。 *Acetum* 酸劑, *Alcoolatum* 酒精劑, *Antidotum* 解毒劑, *Aqua* 水劑, *Balneum* 浴劑, *Capsula* 膠囊劑, *Carbasus* ガーゼ劑,

Catoplasma 巴布劑, *Clysmma* 灌腸劑, *Decoctum* 煎劑, *Decotto-Infusum* 煎浸劑, *Emulsio* 乳劑, *Extractum* エキス劑, *Fomentatio* 罨法劑, *Gutta* 滴劑, *Infusum* 浸劑, *Inhalatio* 吸入劑, *Injectio* 注射劑, *Lavatis* 洗滌劑, *Aleum* 油劑, *Pessa* 挿入藥, *Pilulae* 丸藥, *Tabellae* 錠劑。

iii. 治療藥名 ハ中世名詞ナル *Remedium, n.* (治療劑)ヲ省略セルモノト見做ス故ニ *n.*トス。概複數形ヲ用フ。例. *Remedia narcotica* 麻醉劑……ハ *Remedia* ヲ省キ單ニ *Narcotica* トシテ使用ス。以下同様。

Acida 酸劑, *Antifebrilia* 解熱劑, *Adstringentia* 收斂劑, *Amara* 苦味劑, *Antidiarrhoica* 止瀉劑, *Cathartica* 緩下劑, *Digestiva* 消化劑, *Diuretica* 利尿劑, *Emetica* 吐劑, *Laxantia* 下劑, *Nervina* 神經劑, *Roborantia vel Tonica* 強壯劑, *Sedativa* 鎮靜劑, *vesicantia* 起泡劑

iv. 製剤命名法 主ナル場合次ノ如シ。

1. 原料名一個ノ場合。

(1) 一般名ヲ首位トシ原料名ヲ二格 (*gen.*)トシ次位ニ置ク…… *Aqua Nucum vomicarum* 番木鱈水, *Spiritus Camphorae* 樟腦精, *Tinctura Aloës* 蘆薈丁糖

(2) 前記次位ガ形容詞トナル場合…… *Aqua carbolicata* 石炭酸水, *Tinctura aloëtica* 蘆薈丁糖, *Spiritus Camphoratus* 樟腦精。

(3) 原料ヲ *de* (前置詞, カラ, *from*)ニテ結ブ場合……

Tinctura de Aloë Composita 複合蘆薈丁莖

II. 原料二個以上アル場合

(1) 共ニ名詞トスルコト

(2) *et* (接續詞及 *and*) ニテ結ブモノ… *Pilulae*
Alsés et Asae foetidae 蘆薈阿魏丸, *Tablettae Opii et*
Specuamhae 阿片吐根錠

(3) *Cum* (前置詞, ト共ニ *with*) ニテ結ブモノ… *Tinc-*
tura Camphorae cum Opio 阿片樟腦丁莖, *Infusum*
Sennae cum Manna センナマナ液.

(4) 複合名詞ヲ作ルモノ… *Pilulae Ferro-Chinini*
規那鉄丸

(5) 一ケヲ名詞他ヲ形容詞トス. 即一般名 + 名詞 (*gen.*)
+ 形容詞… *Pilulae Ferri aloëticae* 蘆薈鉄丸, *Tinctura*
Opii benzoica 阿片安息香丁莖

(6) 共ニ形容詞トシテ之ヲ並列ス… *Pilulae aloëti-*
cae ferratae 蘆薈鉄丸.

(7) 複合形容詞ヲ作ルモノ… *Aqua cupro-ammonia-*
cata 銅アンモニア水.

第七章 植物ノ分類

本章ニハ分類学・植物分類学・種及個体植物分類法及植物分
類学説ノ評論植物分類ノ實際等ニ就テ論述スベシ。

第一節 分類学トハ何カ及其重要性

○ 分類学トハ何カ 分類学ノ定義及重要性ヲ次記ス。

I) 分類学ノ定義及特徴 分類学 (*Taxonomy Systema-*
tik) トハ宇宙間ノ事物ノ單位 (生物学ニテハ種) ニ科学的
研究ヲ施シ, 其形態性能等ヲ闡明シ, 相互ノ比較研究ニヨリ
最近似シ最近縁アルモノヨリ順ニ諸特徴ニ依テ類似群團ヲ
造リ, 漸次特徴ノ大小ニ從テ之ヲ階級的ニ配列シ, 類縁ノ
遠近程度ニ依テ大小ノ部門 (生物学ニテハ種・屬・科・目・綱門
等) ニ綜合統括スル重要ナル科学ナリ。而テ是ヲ貫ク概念
及法則ノ如何ニ依テ種々ノ分類系 (又分類体系) ヲ生ズ。

II) 分類学ノ仕事 以上ニ依テ分類学ノ仕事ハ第一ニ事物
ノ單位ノ研究記載ニシテ, 其等ノ特徴 (因子又要素) ノ組
合式 (多少及程度) ヲ比較検討シ, 其特征ノ同・不同・多少・程
度並ニ是等ノ總合ヨリ成ル形態ノ類似近縁ノ程度ニ從テ
種類ヲ大小ノ網目的群團ニ總括スルコト。第二ハ以上ノ大
小ノ部類ヲ分類学的規約ニ從テ一定ノ順序 (網目式階級)
ニ配列シ, 以テ主義一貫セル分類体系ヲ組織スルコト是也

III) 分類学ノ目的及応用 ハ甚ダ広ク諸科学ノ研究手段方
法トシテ缺クベカラサル外, 凡百種ノ事物ヲ精確ニ了解
シ, 分類整理シ, 相互ノ関係ヲ容易ニ理解セシメ以テ裏中
ニ物ヲ探ル如ク容易且迅速ニ目的ノ事物ヲ検索シ又使用シ,
整理セシメ, 一絲紊ルコトナカラシムルニアリ。故ニ分類
学ハ人類ノ日常生活ニ於テ必要不可欠ノ智識必須不減ノ学

科ニシテ、社会全般ノ事物ノ施設・配合・出入・整理等ハ總テ分類学的智識及訓練ノ活用ニ頼ラザルハナシ。サレバ科学研究ハ勿論、社会全般ノ事物ハ先以テ各独特ノ分類法ニ從テ分類整理スレバ第一條件トセザルハナシ、以テ日常事物ノ乱雑ヲ防止スベク、秩序ヲ保持スベク、使用運管ヲ容易ナラシムベク、適物ヲ適所ニ配置スベク、頼テ以テ事物ノ活動・仕事ノ進行ヲ迅速円滑ナラシムベシ、如上ノ一絲不紊レザル推進力ヲ生スル根本ハ全ク分類整理ノ完璧ニ待タサルベカラズ。何人ト虽モ此理ニ通ジ此訓練ニ熟達セザレバ、学ヲ修メ業ヲ習フモ徒ニ時間ノ空費・仕事ノ滞滯・秩序ノ紊乱・事物ノ混雑・文章ノ乱脱等ノ弊害百出シ、其甚ル損害ハ蓋シ測リ知ルベカラズ。苟モ政治・経済・産業・教育等ノ施設・組織・運行等ノ強化ハ皆適切ナル分類組織及系統ノ確立ヲ基礎的條件トセザルハナシ。サレバ凡ソ社会ノ事物ニ組織的・分類的整理ナクシテ研究モ仕事モ成立セズ、泥ソヤ運転ニ於テヨセ。世ニ一配リニ仕事ニ整理トハ此條理ヲ説キシモノナラン。世上書冊ニ書籍ヲ探索シテ未だ発見ニ終リ、外出ニ當リ帶テ探シ紐ヲ索メテ半日ヲ空費シ、客ヲ待タセテ商品ヲ探ス人々ノ如何ニ多ク、演説文章・答察ノ内容ノ非組織的・予直・種着ニヨリ効果ハ半減シ又失敗ヲ招ク人々ノ不學ハ一ニ分類整理ノ拙劣ニ基カズンバアラズ。物品ノ配列・行政機構・分類整理等各方面ニ一貫ノ工夫ヲ要スルモノ取テ如上ノ例ニ止ラザランヤ。

要之分類学ハ人ヲシテ宇宙間ノ複雑ナル事物及現象ヨリ諸特徴(因子要素)ヲ抽出シ、分類シ、總括シ、以テ簡單化シ、類縁系統的ニ排列シ、事物ヲ検索シ易ク了解シ易カラシムル爲ニ設立セラレタル化学ナリ。

○ 植物分類学

I) 植物分類学ノ定義及特徴 植物分類学 *Systematic botany, Systematik der Pflanzen* トハ地球上ノ過去及現在ノ植物全体ニ就テ其形質・生理・生態・發生・分布等ニ関スル諸般ノ特徴ヲ比較考究シ、以テ詳カニ其異同ヲ辨別シ、生物進化ノ法則ニ基キ其類縁關係ヲ検討シ、分類学ノ示ス方法ニ從テ分類記載シ大トノ綱目ニ序列シ、以テ植物ノ發展進化ニ伴フベキ原始時代ヨリ現代ニ至ル植物進化ノ歷程ヲ示ス分類体系ヲ作ル学科ナリ、而シテ其分類方法目的亦用等ハ凡テ上記セル分類学ノソレニ等シケレバ茲ニ再記セズ、但シ其ノ範圍ヲ植物界ニ限定セルノ差アリ。

II) 植物分類学ノ目的 ハ上記セル外ニ尚特記スベキハ進歩セル現代ノ植物分類学ハ其基礎的・事業トシテ植物ノ各分類階級ハ元ヨリ特ニ種ニ對シ自他ヲ判然區別スベキ最正精確ナル定義的記載(特徴ノ集積)ヲ其ハ以テ總テノ種ヲ明確ニ區別スルコト、第二次的・事業トシテ各植物ノ利用厚生ニ関スル研究ニ邁進スヘキコトハ是ナリ。

III) 植物分類学ト植物系統学トノ區別、植物分類学ハ植物現象ノ簡單化・合理化ヲ主トシ、各特徴ヲ比較研究シ、識別・分

類序列スル学科ナリ。サレバ種類間ノ類縁ヲ探リ、系統ヲ考察スルハ本学ノ一面ニシテ附帶的仕事ニ屬ス。換言スレバ植物ノ系統ヲ知スハ分類学研究ノ一手段ニシテ目的ニ非ズ。従テ分類学ハ系統学ニ非ザルト同時ニ系統学ハ分類学ト異ナルハ論ヲ俟タズ（植物系統学ノ成立ノ可否ハ別トシテ）。

抑モ植物ノ系統ハ嚴トシテ存在スルハ現在ノ実験遺傳学及進化学ノ示ス處ニ依テ明白ナレド、現在ハ兎ニ前過去ニ遡レバ遡ル程化石材料ノ不足ト実験證明ハ不可能トニ依テ大部分ハ不明ト失望ニ終ルコトモ亦明白ナリ。カ、ル非科学的狀況ノ下ニ系統ヲ之クセノカ、ソレハ單ニ想像ヲ逞フスルニ過ギズ。例令ソレハ科学的想像ナリトスレモ、今日植物系統学ナルモノノ内容ハ從來ノ植物分類学ト毫モ異ルコトナク、唯其序列ニ系統的想像ヲ附加セルニ過ギズ。吾人ハ元ヨリ神ニ非ザレバ可能事ト不可能事トアルハ言フ迄モナシ、而シテ太古以來ノ植物ノ系統ノ詳細正確ヲ知悉セント志スガ如キハ人間ノ不能事ニ屬スベシ。而シテ吾人ハ今日以後ノ植物分類学ニ於テ如此系統ヲ知悉セザルモ何等不都合ナキモノニシテ、單ニ植物ハ下等ヨリ高等ニ簡單ヨリ複雑ニ進化シ、系統的ニ連續シ生命ハ無窮ナリトノ思想ノ下ニ植物界大綱目ノ系統ヲ推定シ、分類ヲ行ヒ系統ヲ稍明白ナルモノ又妄想ニ陥ラザル限リニ於テ系統論ヲ附記セバ事足ルナリ、敢テ不可能事ヲ企図スルノ要アラソヤ、尙植物記載学ト称スルモノモ分類学ノ一実行手段ニ命名セ

シモノニテ植物分類学ノ基礎ヲ成ス植物器官学ト毫モ異ナルナシ。計ニ植物分類学ニ記載ニ當リ器官学ヲ記載的（記載学的）ニ使用スレバ事足ルナリ。元ヨリ是等学科ノ獨立ハ不可能ナルベク、屋上屋ヲ重テ事ヲ繁カシムル必要ナカルベシ。世入迷フコト勿レ。

○ 藥用植物分類学 本学科ハ植物分類学ノ特殊ナル場合ニシテ其ノ目的方法手段學的体系其他凡テ斯学ト全一ナレド、唯材料ヲ植物全般ニ取ラスシテ主ニ藥用植物ナル範圍ニ縮小セルノ差アリ。故ニ研究方針及研究事項ハ多少ノ差ナキ能ハズ、即举例ノ植物ハ元ヨリ記号モ植物ノ成藥効其他應用並利用厚生關係ニ及ブハ寧ろ当然ナリ。

第二節 個体及種

○ 植物ノ個体 個体 (*Individual, Individuum*) 本頁ヲ明カニシ、個体研究ハ分類研究ノ基礎ヲ成ス所以ヲ説明セントス。(地球上ニハ次々ニ自己ト異同極ナル形體ヲ有スル個体ヲ遺傳スル生物ヲ以テ充タサレタル狀況ニアリ)。

I) 生物個体ノ本質ト其要素的構造

i) 遺傳因子ト其要素トノ關係 遺傳学ノ研究ニ據レバ生物ノ個体ハ受精卵中ノ染色体ヲ充テ遺傳單位即因子 (*gene*) ノ聚合協力ノ發展表現ノ現象ナリト云フ。故ニ個体トシテ遺傳因子ノ發展形質化セル物ニ外ナラズ。此等因子ノ形質化セルモノヲ形質要素ト称スベク、個体ノ内外ニ種々雜多

ノ器官又形質トシテ表現セラル、例ハバよしのざくらノ花ニ於テハ各部分ノ形態・色彩所作ハ總テ因子ノ形質的表現ニ因ラザルハナシ、即花萼ノ円筒形ナルモ花柱ノ有毛ナルモ皆カ、ル形態ヲ表現スベキ天性ヲ有スル因子ニ由來スルガ爲ナリ。是ト同様ニ他ノ如何ニ微細ナル或ハ粗大ナル形質トモ總テ同様ニ説明スベシ。

而シテ形態ヲ表現スル因子ヲ形態因子性質性格ヲ表現スル因子ヲ性質因子ト稱シ双方ヲ合シテ形質因子ト稱スベシ。

ii. 個体ノ本質ト個体的差異ノ起因 凡個体ハ同質一様ノ物ニ非ズ、是ヲ解剖分析スレバ各異ナレル ∞ ノ形質因子表現ノ聚積ヨリ成ル。即チ形態因子ヨリハ形態要素ヲ性質因子ヨリハ性質要素ヲ表現シ以テ個体ノ形質ヲ構成ス。故ニ個体ノ要素的構造ヲ有スルコトハ凡テ共通ナリ。然ラバ個体相互間ニ形質上差異ヲ認ルハ何故アルカ是皆構成的要素 (Structural element) ノ種類ヲ異ニスルニ因ラズンバアラズ。種類間ノ相違モ亦是ト同理由ニ原因ス。而シテ相互間ニ共通ナル形質ヲ共通要素又普遍要素ト稱シ、相違シテ區別ノ標準トナル形質ヲ識別要素又特徴要素ト稱シ、特徴 (Characteristic) ト稱ス。

II) 個体ノ分類学的構造 上述ノ如ク各個体ハ相異レル ∞ ノ形質要素ノ團結協カニ依テ構成セラレシモノナリ、換言スレバ ∞ 因子ノ團結表現ニ外ナラズ、是生物学的根柢現象ナリ。今因子ノ表現ニ因ル要素ノ進化発達ノ次第ヲ考察ス

ルニ、最初最下等生物ニ於テハ單純同類ノ要素ノ團結ナルベク、其構造ハ假ニ $a, b, c \dots$ ト考フベシ。次ニ漸次進化シテ組織ヲ造ルニ至レバ、二級内外ノ要素ヨリ構成セラレベク、假ニ $a, b, c \dots + a, b, c \dots$ ト考フベシ。次ニ尙進化シ分業的構造トナレバ、 $a, b, c \dots + a, b, c \dots + A, B, C \dots$ ト考フベシ。次ニ進化ニ伴テ要素ノ増加ハ殆無限トナリ、 $a, b, c + a, b, c + A, B, C \dots + a, b, c \dots$ 或ハソレ以上ト考フベシ。又一方ニハ突然変更ニ依テ異レル要素ヲ進化スベク或ハ雜交ニ依テ新組合セモ成立スベク ($Aa Bb Cc \dots + a, b, c, c \dots$ 等ノ如ク)、其要素的構造ハ甚複雑多岐トナルハ明白ナリ。故ニ植物ノ外部ニ表現サル、形質要素ニテモ、高等植物ニ於テハ實ニ無数ニシテ、之等ノ形質要素 (内外) ヲ一々研究吟味シ始メテ相互ノ異同ヲ辨別シ得ベク、其中ヨリ識別要素即特徴ヲ選出シ以テ分類ノ根據トスルモノナリ。如此個体 ∞ ノ要素ニ解剖分析シ得ル構造ヲ個体ノ分類学的構造ト稱シ特徴ノ複雑多岐ハ却テ分類ヲ可能ナラシムルモノニシテ分類研究ノ基礎ヲ成スモノナリ。

(一) 植物ノ種 (Species, Art) ノ本質ヲ明白ニシ、種ノ起源生成並ニ劣化ノ原因等ニ就テ説明スベシ。

I) 種並分類学的特徴

i) 種ノ定義及特徴 (種トハ何カ) 種 (Species f.) トハ分類学的單位ニシテ若干ノ個体ノ總称 (一屬一種一個体、如キ種無有ノ場合ヲ除キ) ナルガ; 其個体間ニ多少ノ差別アル

モ、相互間ニ近似点異別通点過カニ多ク、因体即個体群トシテ他種ノ個体群ト明確ニ區別スベキ若干ノ重要ニシテ共通ナル特徴即識別要素ヲ有シ、各畧一定セル範圍ニ收マル個体の集團名称ナリ。而シテ此特徴(識別要素)ハ先天的特徴即遺傳的特徴ニシテ、外界ノ原因又外界ノ情況ニ支配サレテ変化シテ消失スルガ如キ変化的特徴ニ非ズ、遺傳セル特徴即不變的特徴ナリ(分類學者ノ理想トシテ分類ニ使用スル如上ノ特徴ハ既遺傳シ不變ナレバケレドモ、絶対的ノモノニ非ズ、又見込違ヒ見当違ヒ非モアル外、塵白身モ亦多少ノ形質的動搖ナキ能ハサルベシ)。

種ノ概念ハよレのざくらトウヰガムざくら(又其他ノ對等ノ2種同ノ比較ニ於テ)トノ差別ヲ考察スレバ把握シ得ベシ。

ii 分類單位ト分類學的單位トノ區別 個体ハ分類學的ニ分割スベカラズ、故ニ分類學研究ノ基礎ハ個体ニアリ、而テ分類學研究ノ第一歩ハ個体ノ分類學的吟味(研究)ヨリ出ルベカラズ、故ニ分類學上ノ眞ノ分類單位ハ個体ニシテ種ニ非ズ;種ハ個体群吟味ノ後總合概念的ニ設ケラレシモノニシテ之ヲ分類學的單位(即植物學的單位)ト稱シ、個体ノ分類單位ト區別ス。

I 種以下ノ分類階級ニ就テ

i. 種以下ノ階級ノ分類原理ハ實際 個体ハ元ヨリ異種多標ノ形質要素ノ集合体ナレバ(既記ス)、相互間ニ大小ノ差

異即特徴アルハ言フ候タズ。而シテ如此個体ノ群團アル種ハ、ソレヲ組成スル個体數ノ多少及個体間ノ差異ノ大小並變化ノ程度ニ依テ、此個体群ヲ更ニ一乃至數階級ノ小群團(種群個体)即亞種・變種・亞變種・亞形・亞變形ニ分割シ得ルコトアリ。又以上五階級ノ1~2稀3種稀4~5ヲ區別シ得ルコトアリ、或全然區別スル必要ナキコトモアリテ一様ナラス。要ハ其種ニ對スル標本ノ蒐集ノ完不完(多少ノ意)及分布ノ新旧・廣狹・採集ノ難易・生育狀況(個体數ノ多少)等ニ至大ノ關係ヲ有スルモノナリ。而シテ分布廣ク生育旺盛ナル種ニ對シ、其少數又一部地方ノ標本ヲ基トシテ分類センカ、ソレハ分類學的ニ無謀ノ甚シキモノトイフベク斷ジテ完全ナル分類ハ期待スベカラズ、世人大半ヲ誤ルコト勿レ。其レ故ニ分類學研究ニハ實地標本ノ蒐集ト廣大ナル地域ニ於ケル莫大ナル標本ヲ第一根本條件トスルハ東西古今凡テ愈ルコトナシ。

ii. 種以下ノ階級ノ分類上ノ注意及定義並特徴 種以下ニハ次記ノ五階級及雜種階級アリテ、各特徴ノ大小輕重ニ依テ上位ヨリ下位ニ配列セラル。即特徴ノ大ニシテ重要ナルハ上位ニ置キ、其反對者ハ程度ニ從ツテ順次下位ニ配列セシム。而シテ特徴ノ大小輕重ヲ別ル尺度ハ各部類同一ナラズ、科屬種等ノ異ナルニ從ツテ異ルモノニテ其ノ向多少ノ差アルヲ要ス。詳細ハ第 節ヲ參照セヨ。

(1) 非雜種階級 次ノ五階級ニ區別ス。

1. 亞種 亞種 (*Subspecies, Subspecies, Race*) トハ種中ノ一大個体群ノ名称ニシテ、其有スル遺傳的特徴ハ稍重且大ナレモ、最近縁種並ニ同屬ノ他ノ諸種ノソレニ比スレバ稍劣リ、変種以下ノ諸変品ヲ其標準種ヨリ區別スル特徴ニ比シテ、ヨリ重大ナル特徴ヲ有スル場合ハ是ヲ亞種ト決定ス、亞種ハ分類學上实例少キモノナリ。全種中間々ニ以上ヲ含ムコトアリ。

2. 変種 変種 (*varietas, variety, varietät, Abart*) トハ種又亞種ヲ組成スル總個体群中ヨリ即標準種ヨリ、特ニ區別シ得ベキ稍甚ナル遺傳的特徴ヲ有スルガ爲メ、其個体ノ小群ヲ介離独立セシメタル時ニ、其小個体群中ニ命名セル名称ナリ。サレバ変種ハ一種中ニ一乃至五以上ニ達スルコトアリ。枝ノ全下鮮明ナル花色ノ变化者シキ葉形及花形ノ变化又数量的变化者甚ナル葉斑等ハ識別要素ナリ。而テ其有スル諸特徴ノ中ニハ遺傳ヲ中止シ、復元スルモノヲ出ズルコトナキニ非ズ、白花変種ノ或場合ハ往々之ニ屬ス。

3. 亞変種 亞変種 (*Subvarietas, Subvariety, Untervarietät, Spielarten*) トハ種中又變種中ノ個体ノ小群ニシテ、變種ヨリモ更ニ標準種ヨリ區別スベキ特徴ノ少ク且ツ輕キモノヲ言フ。而テ同一條件ノ下ニハ殆ド必現スル特徴ヲ有ス、從テ條件が異ルカ強弱ノ差アレバ或現レ或現レズ、例ヘバ樹態・葉色・花色・葉形・花形等ニ屬シテ現スル变化ヲ有スルモノヲ言フ。分類上实例少シ。

4. 変形 変形 (又亞種) (*Forma, Form, Forma, Spielformen*) トハ種又亞種中又變種中又亞變種中ノ個体小群ニシテ、變種又亞變種ヨリモ更ニ區別スベキ特徴ノ少輕ナルモノヲ言フ。而シテ是等ノ特徴ハ枝葉ノ葉斑・花色・花斑・葉又花柄ノ齒牙ノ深淺・種物体又器官ノ大小又色彩等ニ表現スル多少遺傳的特徴ニシテ、遺傳性ハ屢々不確實ナリ。又屢々復元ノ傾向ヲ生ズ。分類上实例甚多ク、特ニ園藝種ニ多シ。

5. 亞変形 亞変形 (*Subforma, Subform, Unterforma*) トハ變形ノ下位ニアリテ、變形ヨリ更ニ特徴ノ少輕ナル個体群ナリ、分類上实例少シ、概ニ園藝品ニ於テ本階級ノ設置ヲ見ルコトアルノミ、自然種中ニハ極メテ稀ナリ。諸般ノ形變ハ變形以下ニアリト知ルベシ、变化例モ亦畧是ト同一ナリ。

亞変形ノ下位ハ個体 (*Individium, Individual, Individuum*) (既記) ナリ。

b. 雜種階級 雜種 (*Hybrida, Hybrid, Hybrid*) ハ兩種トモ稱シ種又ソレ以下ノ階級、二個体ノ交配ニ依テ生ゼル生物ヲ云フ。雜種ハ両親ノ双方ノ形質ヲ有ス。雜種ニ關スル詳細ハ *Mendelism* メンデル氏雜種法則ノ研究ヲ見ヨ。

1. 雜種 雜種 (*Hybrid*) トハ異種ノ交配ニ依テ生ズル植物ヲ言フ。例、あかまつノ一種ニあいくろ(間黑)ト稱スルモノアリ、是ハくろまつノ花粉があかまつノ雌器ニ着合シテ生ズル自然雜種ノ一例ナリ。ヤブギ屬ハ自然ニ於テ

英種向又亞種又及種ト種向界ニ種雜ヲ生ズルヲ以テ著名ナル程物ナルハ、人工的ニ數多ノ人工種雜ノ造成ニ繼シテ知らレタルガ、其詳細ハ池野成一郎博士ノ研究ヲ見ヨ。天然種雜ニ就テハ木村有香氏ノ研究アリ、即チ *Salix ketoiensis* Kimura = *Salix aquilonia* Kimura × *S. tontomussirensis* Koidz. (けといやなぎ); *Salix koidzumii* Kimura = *Salix sachalinensis* Schm. × *S. Hultenii* Flod. var. *angustifolia* Kimura (からふと-ぼつこやなぎ)ノ如キ比例ナリ。以上ノ種雜學名ノ書式ハ正式ナルガ往々頭ノメト學名後ノ二トヲ省略シ、次ノ *Salix* ヲ *S.* ト畧記スルコトアリ、即 *Salix ketoiensis* Kimura (*S. aquilonia* Kimura × *S. tontomussirensis* Koidz.)ノ如シ。

2 半種雜 半種雜 (Mule)トハ及種ト亞種向或各ノ相互向ノ交配ニ依テ生ズル種雜ナリ、自然ニモアルベケド、園藝品ニ特ニ多シ。

是等ノ人工半種雜ノ造成ハ米國ノ バーバンクノ業績ハ特ニ著名ナリ。

III) 種ノ生滅 地史學及進化學ノ證明スル處ニ據レバ、地球上ニハ嘗テ生物ナカリシガ、始原代ニ於テ生物ノ祖先ヲ生セシモノト考ハラレ、其發現ハ水中ニシテ化學變化極メテ強烈ナル時代ト想像セラル。其發生ハ多元的ナルベク、古生代ニ至リテ始テ化石ヲ留メ、以後地層ヲ累ヌルニ從ツテ

化石ハ下等ヨリ高等ニ簡單ヨリ複雜ニ向上進化セシ種跡ハ歴然タリ。以テ今日ニ及ビ系統ハ連綿トシテ其跡ヲ絶タズ、生命ハ其連綿ヲ流レ滾タトシテ久遠ノ悠長ニ尽クルナシ。其間ニ於テ生存競争適者生存優勝劣敗ヲ繰リ返シ、或種類ハ消滅ニ歸シ、或種族ハ繁榮ヲ極メ數多ノ種族ニ分化發展セシハ既ニ明白ナリ。此悠久ノ繼、變遷ハ種ニ絶ユルコトナキ突然進化種交漸變等ニ依ル新種ノ發現ニ繼グニ旧種ノ滅亡ヲ繼グニシ、新旧個體ハ生死ヲ繰返シテ聊カモ停止スルコトナク、生滅ノ歴史ヲ現世ニ展開セリ。生物ノル人類モ亦此理ニ瀕ル、嘗ナシ、生物学ヲ講究スル者吾ノ生死ヲ大悟シ、超然タラザルヲ得ンヤ。畢竟生死トハ同一物ノ二面觀ニシテ、流転環ノ一元ニ相ニ外ナラス。

IV) 種類變化ノ原因 森羅万象ハ變転シテ止ム所ナク、有爲數變諸行無常ハ天地ノ常道ナリ、生物ヲ因縁スル環境既ニ如此、此間ニ處スル生物ハ不變ヲ希望スルモ豈得ハケンヤ。生物ノ變化ハ体ノ内外ニ原因ヲ悉ス。内的原因ハ不測ナルモ外的原因ハ環境ノ變化ニ因ル、而シテ根本ハ發精ニ依ル遺傳因子ノ組合セノ差ニ基クナリ。組合ニ依テ生セシ生物モ亦因子ノ隱顯出沒ノ現象ニ依リ、其表現ニ係ル形質ハ更ニ複雜ニ變化シテ極ル處ヲ知ラス。

第三節 植物分類法及植物分類學說

○ 植物分類法

I) 植物分類ノ目的・方針・方法

i. 植物分類ノ目的 ハ總テ、種類ヲ精細ニ比較研究シ、種類相互ノ關係ヲ知り、其要相ヲ究メ、大小 ∞ ノ群團ニ分テ階級的綱目ヲ造リ、之ヲ進化系統ノ順序ニ配列シ、檢索ヲ容易迅速ナラシメ、希望スル種ノ分類上ノ位置ト形質・分布・產地・効用等ヲ容易ニ知悉セシムルニアリ。

ii. 植物分類ノ方針 ハ如上ノ目的ニ叫フ様ニ過去(化石)及現在ノ大小ノ各一分布區域ノ種類ノ全体ヲ蒐集シ、之ヲ分類学的方法ニ依テ檢討(即總テノ種類ノ分類学上必要ナル形態・構造・生理・生態・分布等ヲ究メ、各種ガ有スル表現性要素ノ同不同ヨリ其組合セノ状態ヲ知悉シ、分類上ノ要・不要ノ各特徴ニニ分シ)シ之ヲ大小ノ群團ニ纏メ、分類学階級ノ輕重上下ヲ考究シ、然後是ヲ分類規約ニ從ッテ分類系ニ配列シ、以テ相互ノ關係(系統の・形質的・生理生態的・分布的等)ヲ了解スルニアリ。

次ニ是等ニ利用厚生的研究ヲ施スベキモノナリ。

iii. 植物分類ノ方法 植物ヲ種屬的ニ分類スルニハ先ツ外部形態ノ器官学的研究(肉眼的・ルーペ的・顯微鏡的)ヲ重要トス、次ニ必要ニ応シ其内部形態即解剖学的構造組織ヲ考究シ、分布ヲ調査シ、生理生態ヲ知ッテ分類学的位置ヲ決定スルモノナリ。大綱目ノ決定ニハ概然發生史即生殖法ノ如何ヲ以テシ、又内部構造(粗大ナレド長ク不變ナルニヨリ)ヲ参照スルヲ常トス。此他往々形態的區別不可能ノ

場合ハ生理的又生物化学的(成分色素其他)特徴ヲ考慮スベシ。

II) 植物分類ノ理想及分類ノ標準

i. 植物分類ノ理想 分類ノ理想ハソレガ自然ノ系統關係(類縁關係・系統變・系統發生)ヲ示スモノタルコト、即自然分類一名系統分類タルニアリ。然ルニ既記(第一節ノ終)セル如ク生物ノ系統ヲ知悉スルハ不可能事ニ屬スル故、今日ノ自然分類ニ依ル系統分類学即分類学ハ、其大綱目ニ於テ大略發生系統順ナリト檢定シ得ベキモ、科以下ノ序列ハ殆ド凡テ系統ヲ考慮セル人爲分類タルヲ免レズ。但シ現今ノ進歩セル植物器官学ノ精細ナル形態的研究ヲ以テスレバ、尚ほニ系統關係ヲ判定シテ大ナル錯誤ナキモノノ如シ。感リ而シテ分類ノ目的ハ檢索ノ至便迅速ヲ要望シ露ク突向ニ供スル故、配列ノ人爲的ナレハ或程度迄モ差支ヘナン。

ii. 植物分類ノ標準 植物分類ノ標準トシテ用ヒラルハモハ凡ソ次ノ如シ。

1. 植物器官学 植物体ノ諸器官ノ所有形態ニ就テ進化学的ニ考究シ、以テ其高下ヲ定メ分類ノ標準トス。

2. 植物解剖学 内部構造及組織ニシテ主義方法ハ同上。

3. 比較形態学及比較解剖学 同一起原ノ器官ハ同一形態及作用ヲ有スルモノトハ限ラズ、故ニ個体系生ヲ研究シ其相同(Homology, Homologie)及相似(Analogy, Analogie)關係ヲ知ルハ分類標準決定上重要事ナリ。又直接比

載法ニヨル推察ヲ必要トス、例ハバみかんノ葉ノ葉柄上部ノ翼ト関節ノ特徴ヨリ *Citrus* 屬ニ及ボシ、次ニ其近屬ヲ網ハ本亜科多数種ノ特性ナルヲ知り、其ノ本系ノ特徴ナルヲ以テ複葉ノ退化ト認ムル如ク、近縁ノ種ヲ比較研究シ本系ノ特性ヲ推知ス、又先祖通り(復元)ノ發現ニ依テ其種系ノ形態並系統ヲ推知スベシ、例ハバは右レヨウボノ六出雄蕊ノ如シ。

4. 化石植物学 之ニ依テ進化ノ経路ヲ知り、系統上ノ位置ノ確定セルモノ不尠、例ハバ蕨苔類ト羊齒類トノ関係羊齒類ト裸子類トノ進化関係ヲ知りタルガ如シ。

5. 植物化学 一定成分ノ含有若クハ缺如ハ、植物体内ノ同化合物ノ合成分解ニ至大ノ関係ヲ有スルモノニシテ、形態發生ヲ同フスルモノハ概成分モ同一ナル点ニ着目シテ分類方法ナリ。例ハバ、(1)らん科植物ニハ澱粉ヲ缺如シ、蕨苔類ニハ木質反応ヲ缺ク、(2)ヤシ科植物ニハ概 *Mannite* ヲ含有シ、おたね及けし科植物ニハ *Thyrosin* ヲ有スル細胞アリ、(3)ききよう科及まく科植物ニハ *Inulin* ヲ含有シ、(4)けし科ノ *Corydalin*、きぬ科ノ *Berberin*、ちす科ノ *Scopolin* 等ノ如キ此例ナリ。(5)灰像 (*Aschenbild*) ヲ造リテ有機石灰又矽酸等ノ多含有ヲいらくさ科、けし科等ニ於テ證明シ其灰像組織ヲ研究シ、以テ分類上ノ特徴トナスガ如キモ近代試ミラレ、盛ナリ。

6. 血清学的方法 植物ノ類縁関係ヲ知ル爲ニ近時使用

セル、生理的化學反応ナリ。

7. 植物生態学 植物生態ノ一致ハ屢々同一系統ニ屬スルヲ示ス故分類上ノ標準トナルコト不尠

8. 植物分布学 ノ応用ハ分類学上以外ニ重大ナル関係ヲ有スルモ、ニシテ植物發現ノ旧新ハ分布地感、大小ニ比列シ、分布ノ状況如何ハ發現ノ時代及發現ノ場所ヲ教ヘ、分布状態ニ依テ或植物ノ水平的並垂直的連絡並其起元ヲ教ヘ；又遺存植物 (*Relic plant*) ハ所謂生ケル化石トシテ分類上重要ナル暗示ヲ其フルコトアリ。例ハバ南米ノ西沖合ニアル *Tuan Fernandez* 島、*Thyrsopteris* ハ侏羅紀ニハ *Spitzbergen* 及英國ヨリ発見セヨレ、又カナル孤島ニ現存種多キハ (*Tuan Fernandez* 島ニ 38%、*St. Helena* 島ニ 61%、*Hawaii* 島ニ 78% 等) 植物ノ種類ノ形成即系統發達ヲ考察スル上ニ一途ノ光明ヲ其フルガ如シ。

9. 生態学 同一個体(又種)モ環境ノ如何ニ依テ其性質形態ヲ変化ス、生活形 (*Okotyps*) ハオクシテ生ゼシ一形ナリ。例ハバおたねのみすたでノ水陸ニ形ヲ異ヌル、さくらさうノ花ハ 15-20°C ニテハ常ニ紅紫色ナルモ、30-35°C ノ温室ニテハ白色トナルガ如シ。

10. 遺傳学 遺傳質(染色体中)ノ変化ハ内的原因ニ依テ变化スルモノナルガ、又外的原因モ変化ノ原因トナルガ如ク、甚大ナル外界ノ変化ハ遺傳質ニ变化ヲ其ヘ偶然変化 (*Mutation*) ノ原因トナル場合モアリ得ベク、漸變ノ同一

方向、累積モ亦新品種ヲ造成スベク、自然雜交ハ暗々裡ニ新種形成ニ與ルコト突然劣化ニ於ラザル場合モアリヌベシ。而シテ精密正確ナル形態学的研究ニ依テ分類セル結果ハ、実験遺傳学 研究結果 (染色体数ニヨリ近縁種及其系統ノ決定) ト一致スルハ怪ムニ足ラズ。

○ 植物分類ノ學說

I) 植物分類ノ歴史

i. 進化論以前 多數ノ植物ヲ一定ノ標準 (特徴)ニ從テ分類ヲ試ミシハ非常ニ古ク、既ニ紀元前後ギリシヤ・ローマ時代ヨリ行ハレ、ローマノ *Dioscorides* (紀元後64年生)ハ藥用植物600餘種ヲ分類記載セリ。次ニ *Caesalpinio* (1519-1602)ハ *De plantis* (植物書)ヲ著シ、種子及果實ノ形態ニヨリ、2000餘種ヲ分類記載セリ、之ヲ爲及分類ノ初ナリ。次ニ劃時代的ノ學者 *Carl von Linné* (1707-1778)ノ出現ニヨリ *Genera plantarum* ナル精細ニシテ檢索至便ナル人爲分類書ヲ完成セリ。

ii. 進化論以後 進化論ノ出現以前ハ種ヲ不変ナリト思惟セシ故、其分類ハ單ニ外觀ノ近似セルモノノ總括羅列ニ過ギザリシガ、進化論ニ依テ系統・進化・変遷ヲ考察スルニ至リ分類ノ意義・内容一変セリ。即チ系統的ノ自然分類ニ改マリシモノニシテ、アントアヌ・ド・ジュー (*A.L. De Jussieu*, 1748-1886), オーギュスト・ド・ガンドーレ (*A.P. De Candolle*, 1778-1841), エンドリッヘル (*Eendlicher*, 1804-1849)

ヲ經テ、1883年ニ至リ彼ノ有名ナルアイヒラー (*Eichler*)ノ自然系統分類ハ發表セラレタリ。

是ト前後シテ (1862-1883) 英、*Bentham & Hooker* 共著 *Genera plantarum* (植物屬鑑)ノ大看出テ、1908年 *G. Karsten*ニ依テ單子葉類ニ向上分類ノ是後即最高ノ位置ヲ與ヘ、1924年 *R. Wettstein* 其他 *Strasburger*, 池野博士ノ諸氏是ヲ襲用セリ。而シテ別ニ獨ノ *Prantl, Engler* 両氏ノ努力ニ依テ最進歩セル (1887-1909年 *Natürlichen Pflanzenfamilien*) 植物科鑑ナル系統分類學者 (目下第二版出版中)ヲ完成セルが就中 *A. Engler und G. Gilg* 共著 *Syllabus der Pflanzenfamilien* (植物分類全書)ヲ發表シ、1934年第十一版ヲ發行スルニ至レリ、本書ハ被子類・双子葉植物中ノさく科ヲ以テ最進歩セル高位科ト認定セリ。

II) 植物分類法ノ種類 大別シテ人爲分類法・自然分類法一名系統分類法ノ二種トス。

i. 人爲分類法 (*Artificial system, Künstliches system*) 是ハ天然ノ類縁關係ヲ察ク顧慮スルコトナク、任意ニ選定セル例ハバ花・果實・種子等ノ生殖器官ノ外形・配置・數値等ヲ標準トシテ分類スルモノヲ云フ。サレバ実用的ニシテ檢索至便ナルモ、各細目間ニハ系統的關係ナキ場合甚ダ多シ。本項ニハ前記 I)ノ iニ記セシ如ク種々アレドモ代表的ナルハ次ノ一種ナリ。

1. 花器(有性器・生殖器)分類法 (*Sexual system*)

1735年 C. V. Linné 氏が *Genera Plantarum* に於て発表セル人為分類法ニシテ林氏二十四綱ト稱スルモノ是ナリ。

ii 自然分類法又系統分類法 (*Natural system, natürliches system*) 是ハ生物進化学・遺傳学等ノ意義ニ基キ植物自然ノ親縁關係ヲ考察シ、單ニ生殖器ニ重点ヲ置カズ、汎ク各種ノ形態・生態・分布等ヲ参照シ比較研究シ、各種類ノ系統的關係 (*Phylogenic relation, Genetische Verwandtschaft*) ヲ表示序列スルヲ宗旨トス。其配列ニ二様アリ、一ハ向上分類式他ハ向下分類式是ナリ。本項ニハ凡ソ次ノ五種類アリテ大抵進化学及遺傳学ヲ以テ基礎ヲ鞏固ニシ根柢ヲ確實ニセリ。

i. 平面系統分類法(地圖式分類法) A. P. De Candolle (1778-1841) ノ提唱セル自然分類系ノ一種ナリ。彼ハ *Prodromus systematis naturalis* (自然分類前掲) ナル大著ヲ刊行シ、空前ノ大量植物記載ヲ試ミシ外、分類ノ原理ヲモ究究セリ。其要旨ニ曰ク分類法ハ主ニ植物器官学的特徴(器官ノ數及位置等)ヲ最重要視シ、生理的特徴ヲ不要トセリ。又原型ヲ認メニ變化ヲ説ク、一ハ適応性他ハ体制性ナリト、而テ体制性ノ變化ヲ一目瞭然タラシムルモノハ自然分類系ノ最大目的ナリト、此原型ヲ標準型 (*Typus*) ト稱セリ。而シテ自然分類系ハ原型ヲ中央トシ其周圍ニ之ト種々ノ關係アル變化型ガ連関スル如ク各種ヲ相互關係ノ

遠近ニ從テ平面的ニ配置シ、以テ各種ノ關係ヲ一目瞭然タラシムルニアリ。故ニ自然分類系トハ直線系表ホニ非ズンテ地圖狀平面表示ナラザルベカラズ、即各綱目科屬種ノ相互關係ハ恰モ道田即町村ノ如キ關係ニアリト云フ。

2. 系統樹式分類法(系統分類法) リンネノ人為分類以後今日迄出版發表サレシ分類学書ノ殆全部ハ是ニ屬シ、其根本原理トスルモノハ生物進化論ノ説ク生物ノ系統發生ノ進化即一大系統樹の分類ヲ以テ理想トナス。故ニ生物ハ原種 (*origins*) ヨリ發生シ、分沁發展發生セシモノトシ、概一元論ヲ根本トス(稀ニ二元極端ニ多元ヲ説ク人アルモ系統樹ハ一元ニ示セリ)。此発達ノ経路ヲ示ス型式ヲ系統樹 (*Phylogenetic tree*) ト稱シ、系統樹的進化發展ヲ總括シテ分類スルヲ系統樹式分類法又系統分類法 (*Phylogenetic method*) ト云フ。

3. 系統学的分類法 植物系統学ト稱スルモノ之ニ屬ス、分類方針及方法ハ前記2ト異ラザルモ唯各部類ノ系統的吟味ヲ力説シ、全卷ヲ通ジテ各綱目ヲ系統的ニ取扱ヒ、類縁ノ親縁論ヲ以テ主義一貫セルノ旨アリ。然レモ生物ノ系統ナルモノハ入カヲ以テシテハ到底解決不可能ナルハ何人モ疑フモノナク、敢テ企図スルニ於テハ妄リニ想像ヲ逞フン科学ノ域ヲ遠カルハ是非モナシ。然モ如何ニ系統ヲ云々スルモ今日ノ植物系統分類学ハ内容・主義・方針凡テ所謂植物系統学ト稱スルモノト同様ナレバ、植物系統学ハ特ニ系統ヲ力説ス

ル處ノ植物系統分類學トシテ植物分類學中ニ包含シテ是ニ
支障ナシ。即系統學 (Phylogeny) ノ獨立ノ要ヲ見ズ。

4. 動的分類 (綱目式分類法) 本分類ハ早田文藏博士
ガ1921年以來 (-1934) 没セラレ、遂、十余年間熱心ニ唱
道サレテ立體的ニシテ且動的ナル分類法ナリ。其論旨ハ遺
傳學的並ニ數學的ニシテ内容ハ可ナリ複雑深遠ナリ。其ノ
要旨ハ次ノ如シ。

先ヅ發表論文ノ主ナルモノヲ掲出スベシ。

B. Hayato — (1) *The Natural Classification of Plants
according to the Dynamic System, in Jc. Pl. Formos.*
X. (1921), P. 100; — (2) *Über das „Dynamische System“
der Pflanzen, in dem Berichtem der Deutschen
Botanischen Gesellschaft, B. 49. (1931) S. 344; —*
(3) *Le système dynamique des plantes fondé sur
la théorie de la participation (1931); — (4) On
some other Systems bearing a more or less Re-
semblance to the Dynamic System, in Bot. Mag.
(Tokyo) XLVI. (1931) pp. 361-365; — (5) 植物ノ動
的系統に就きて (岩波生物学講座, 第十四回, 第七冊別
項, 昭和六年三月, 1931); — (6) 分類學とは如何なるもの
か; — (7) 因子分配記に基いて組織せられたる植物の動的
系統に就きて, 植物分類學第一卷ノ初及附録 (内田老鶴
開, 1933); — (8) 分類學の体系を論ず, 植物分類學第二卷*

ノ初 (全上, 1935)。

以上ノ諸論文ハ皆全博士ノ力作ニ係リ、國ノ内外ヲ向ハズ
如何ニ論旨徹底ニ努カサレシカヲ知ルベク、死ヲ前ニシテノ
筆端ニ至ツテハ其熱烈眞摯ナル態度ニ自ラ頭ノ下ルヲ樂セ
ザランム。以上多數ノ文献中最推敵練成サレシハ全博士畢
生ノ努カノ結晶ト稱セシルル植物分類學第一卷ニ掲出セ
ラレシモノナレバ、是ヲ中心トシテ其論旨ヲ傳フベシ。(但
シ浩孤ノ中ハ余ノ註ナリ)。

論文界(6)ノ要旨ニ曰ク植物ノ分類法ハ化学ノ分類ニ比ス
ベキモノニシテ、因子ノ組合式ハ化学分子式ニ比スベク、
分子式ノ類似ニ依テ同類ヲ造リ、群間ヲ認メ、ハロゲン族化
合物等ヲ分類スルガ如ク、余ノ標榜スル分類學ハ是ト同様ナ
リ。即各種類ニ就テ其算ヲ構成スル因子ノ組合式ヲ決テ、
其因子ノ同、不同並組合式ノ類似不類似ニ依テ之ヲ分類スル
モノナリ。例ハバ主要因子ヨリ成ル花部ニ於テ其記式サハ
同一アラバ、花以外ノ因子ニ $\alpha, \beta, \gamma, \delta$ 等ノ差異ヲ認ムルモ
之等ヲ無視シ、是等ノ植物ヲ花部共通特徴ニ依テ一括シテ
某科ト稱シテ可ナリ。故ニ分類學トハ形態學上ノ因子ヲ標
準トシテ、凡百ノ種類ヲ分類スル處ノ學科ナリ。斯クシテ
最近似セル植物ヲ近所ニ置キ順序ヨク排列シテ分類系ヲ作
リ、凡百ノ種類全体ヲ一ノ分類系ト成ス。但シ此際分類規
約異レバ分類系モ異ル故、分類系(法)ハ多數アリ得ルナリ。
(同一部類ヲ分類スルニ ∞ ノ特徴即因子中ヨリ如何ナル共

通特徴又其組合セテ取ルカニ依テ幾通りモノ分類方法ヲ生ズ、而テ其幾通りモノ方法中ヨリ最良ナリト信ズル法ニ據ル故。選擇ノ自由アリ、 M ニ依テ変化アリ、即動的ナリト云フ意ナルベシ。従来ノ系統分類学ハ明白ノ種類各種ノ持つ類縁系統ニ準據シテ分類スベキモノト云フニアリ、即チ系統学的方法ナリ、而シテ此方法ハ次ノ場合ニハ分類不可能ナリ。1. 祖先ガ雜種ヨリ直接又間接ニ生ゼシ種類ナル場合、此種類ハソレ自身系統ヲ示サズ；2. 種類ハ偶然変化種ナル場合、是ハ種類其物ニ於テ先祖ノ何タルヲ表現セズ；3. 種類ノ変化ヲ年代順ニ記載セルヲ籍簿ノナキ場合；4. 現存種ト同一種ガ化石種トシテ発見サレ居ラヌ場合、絶滅種ハ到底現存種ヲ生マズ。以上ニ依テ系統学的方法ハ通常之ヲ行フ材料ヲ缺ク、種ヲ行ハク想像的系統樹ヲ立テズニ附会セル分類学ヲ組織セザルベカラズ、サスレバ系統学ハ非科学ナリト。

論文第(7)ノ要点ニ曰ク「植物ノ動的分類系ノ出発点トシテ次ノ二大假説ヲ設ク。1. 植物ノ祖先(即前世界ノ植物總數)ハ其數ニ於テ古今変化ナキモノニテ、現存種類ハ昔(前世界)モ存在セリ；2. 祖先モ現存植物モ相互ニ網ノ目ヲ回ルム系ノ如ク四方八方ニ關係ヲ保持セシモノニテ、且現在モ亦保持シツツアリ。而テ今日ノ系統樹的の分類系ニ於テ縦ニ關係セハ勿論ナルガ、横ニモ相当ノ關係アルモノナリ。即チ縦系ノ外ニ横系ノ關係アリテ網目ヲ形成ス。而テ因子

(特徴)ニ依テ繰返シ繰返シ分類スルコトヲ綜合シテ動的の分類トイフ。Mendelismニ依レバ種類ノ相違ハ因子分配ノ相違ニ起因ストセリ、是ニ據レバ F_2 ノ同型接合種ハ不変ナリ、而テ其祖先ノ何タルカラ表示セズ、故ニメンデル説ノ維持サル、間ハ系統分類学ハ空想的ノモノナリ。故ニ分類学ノ標準ハ種類ノ有スル因子分配ノ檢排ニ求メザルベカラズト。

論文第(8)ノ要点ニ曰ク「進化論ノ説ク……1. 地球上ニハ嘗テ生物無カリシガ、太古ニ偶発シ漸次繁榮シテ今日ニ及ベリ；2. 地球上ノ生物ハ始僅少ナリシガ、漸々又急激ニ増加シテ今日ニ及ベリ……ナルニ大假説ハ全然假説ニテ何等證據ナシ、加之因子分配説ヲ認ムルナラバ此假説ハ拒否セザル可カラズト。

論文第(5)ノ要点ニ曰ク「植物相互ノ網目狀並不連續的の關係ハ私(早田氏)ガ二十余年間實際脂葉室ニ於テ植物ノ分類ニ從事シ、且野外ニ於テ親シク植物ノ生活狀況ヲ觀察セシヨリ遂ニ此ノ点ニ到達セシモノナリ……動的の分類系ト靜的の分類系トノ區別：一植物ノ種類ハ自ラ系統ヲ示シ居ズ、祖先同一ナルモ異子孫ヲ生ジ、祖先相異スルモ同一種ヲ生ズルコトアリ、故分類ノ標準ヲ系統ニ求ムベカラズ。サスレバ其構造ヲ調べ、因子ノ分配如何ニ依テ分類セザルベカラズ、斯クシテ幾通りカノ分類系ヲ生ズ、之ヲ自然分類系トシテ之ニハ以上幾通りカノ分類系ヲ何邊モ組換テ相重不適合

シ観レコトヲ動的トイフ。然シ或レ限定セラレタル因子ハ唯一ノ分類系ヲ有シ、一項次元(X項)關係ニアル場合ハ靜的ノ分類系トイフ。此他因子分配及組合状態ニヨリ二項次元(X・Y項)ノ平面的關係モ、三項次元(X・Y・Z項)ノ立体的關係モアリ得ルナリ。而シテ是ニ第四項次的ノ運動ヲ加味スレバ、此ニ始メテ立体型ハ動的ノ分類系トナルコト恰モ恒星ヲ中心トスル天体關係ノ總体的運行ヲ爲スガ如シ。……動的ノ分類系：— 植物ノ各綱目科屬種間ニハ化学ノ週期律ノ如キ縱横ノ關係アリ、且其關係ハ量子論說ノ如ク不連續的ノモノナリ、而シテ又 Mendelismノ教ユル如ク種類間ノ關係ハ彼等ノ有スル因子ノ同・不同及其分配如何ニヨリテ表現サルルモノニテ、何時樹枝狀ヲ示サズ單口網目ノ關係ヲ保持スルモノナリ。而シテ自然分類トハ各異レル立場ヨリ組織セル種々様々ノ分類系ヲ色々組換ヘ何度モ組換ヘ且綜合シテ造リタル動的ノ分類系ヲ云フ。而テ植物ノ種類(又ハ種或ハ個體ニテモ可)ハ相互ニ如上ノ關係ヲ有スルハ何ニ因テ然レカト云フニ之ヲ説明スルハ因子分配說ナリ(此說ハ誰ニモ容易ニ了解シ得ル然モ分類學者ノ常ニ実行シ未リシモノ故不記)ト。

5. 林形網狀分類法(林形網狀式) 林形網狀分類系ト稱スル自然分類ノ一種ノ分類法ナリ。畧シテ林網式分類法又林網式ト稱ス。本分類系ノ要旨ハ次ノ如シ。

(1). 生物ノ祖先ハ太古代ニ於テ地熱相當ニ高ク諸般ノ

化学作用ノ強烈ナル時代ニ在リ、地球上ノ各所ニ於テ之ニ發生セルモノト想定ス。即多元的ナリ。其理由ハ生物ノ偶存ヲ許スベキ條件ヲ具備セル環境ノ出現ハ是ヲ地球上ノ一箇所ニ局限スルハ生物ノ地球上ノ普遍性ヨリ見テ不当ト見解ナレバナリ。各所ニ之ノ發生ヲ想定スルハ此同可ナリ長年月間ニ亘レレモノト見做スモノニシテ、地球上ノ一局部ニノミ偶存可能ヲ假定スルハ不合理ニシテ寧ロカ、ル狀況ハ各所ニ惹起セシモノト考察スルヲ合理的ナリトス。

(2) 如以上多元的ニ各所ニ發生セル生物祖先ハ、同時ニ發生セシニ非ズシテ、多少異ル状態ノ下ニ多少ノ年月ヲ隔テツツ發生セリト想定ス。故ニ祖先ハ發生地ヲ異ニスルニ從ツテ、多少異レル生物(何レモ單細胞最下等生物、最初ハ無形ノ原形質塊)ヲ生ゼシナラン。

(3) 古生代ニ入りテハ生物ノ偶存ハ一切其根ヲ絶テ、生物ハ凡テ生物ヨリ即祖先ヨリ生ズルヲ法則トスルニ至レルヲ認ム。而シテ從來ノ生物ハ進化ノ法則ニ從ツテ各分派シ、進化ノ一路ヲ進レリ。

(4) 以上ノ生物ハ各地ニ之ニ發生スルマ、其過半ハ茲何モナク植物枝ト動物枝ノ二大幹ニ分岐シ、以後直接關係ナク各々種類ニ分化發展シテ今日ニ及ベリ。而シテ其他若干ノ祖先幹ハ動植物ノ二大幹枝ニ分岐スルコトナク、植物幹トナリ或ハ動物幹トナリテ各々種類ヲ分化發展シ、以テ今日ニ及ブコトモ認メザルヲ得ス。故本説ハ以上ノ如キ祖

先ノ介岐幹(動植物幹)ト單幹トハ世界ノ各地ニ ∞ ニ發生セリト想定シ、後來ノ進化説ノ如ク「唯一種又ニ三ノ祖先生物ガ一局部ニ發生シ後 ∞ ニ分化シ漸次全世界ニ移動介岐セリ」トハ思惟セズ。即單系統樹式ニ一元ヨリ ∞ ニ介岐セルモノトハ考ヘズ、故ニ本説ヲ系統樹式ニ表現セバ ∞ ノ雙幹及單幹ノ混交セル森林(自然ハ ∞ ノ祖先生物ヲ播種セルニ基因セル)ノ如キ型式トナル、本介類系ニ林形(網狀ハ後説ス)ト名ケシ所以ナリ。

(5) 以上ノ二類ニ類三様ノ系統樹ノ發達狀況ヲ推察スルニ、各漸次側枝ヲ増加スル樹狀ヲ呈スルコト從來ノ假説ノ如シト雖モ、是ト大イニ異ル點ハ、是等ノ各幹大枝ハ常ニ ∞ ノ枯枝即亡族(化石ヲ殘ス場合ト然ラザル場合トアリ)ヲ有スルコト是ナリ。即ち小時代毎ニ繁ス徐々ニ現在想像サレヨリ遠ニ ∞ ノ亡族(枯枝)ヲ介岐セシモノト想定スルヲ異トス。而シテ介岐ノ原因ヲ突然變異・雜交・漸變・環境變化等ニ因ルモノト認ム

(6) 次ニ異ル點ハ、是等ノ樹枝ハ小枝・細小枝等ニ就テ所々ニ粗或密ノ網目ヲ成ス部分ヲ ∞ ニ有スルコト是也。其原因ハ種間・變種間・屬間其他ニ自然雜交ノ起ルニ因ルヲ意味スルモノニシテ、各時代常ニ此現象ヲ不絶連續今日ニ及ベリ。是本説ニ林形網狀式(林網式)ト命名セル所以ナリ。

(7) 以上ノ如キ ∞ ノ雙幹又單幹ハ各 ∞ ノ亡族ヲ出シツツ介岐ニ介岐ヲ重テ、其梢ハ伸長シテ現世ニ及ビシガ、其

末梢ハ ∞ ナルモ從來ノ系統樹ノ如ク ∞ ナルモノニ非ズ、寧ろ系統樹ノ株數ガ地球上各地ニ ∞ アルモノト認メ、現今各大陸ニ異ナレル生物系統アルハ是ガ爲ナリト解釈ス。而シテ生物種類ノ ∞ ナルハ、異ナレル系統樹ノ各地方ニ ∞ アリシニ基因スト解スルナリ。而シテ是等 ∞ ノ系統樹間ノ横ノ連絡關係即雜交ノ行ハレシヤ否ヤハ斷言不可能ナルモ稀ニハ行ハレシコトモアルナラン。

(8) 雙幹系統樹ハ介岐甚シク從テ末梢ニ至ル迄 ∞ ノ種族ヲ介岐セシハ想定ニ難カラサルモ、單幹ハ介岐少ク且是ヨリ派出生シ種族モ亦少カリナルベシ、又前者ハ進化ノ速度ニ程度ニ高カリシナルベク、其發生地ハ時ノ熱帶又亞熱帶ナルベシト思惟セラレ。而シテ單幹某ハ概温帶以下氣候良好アラサル地方ニ發生セシモノ多カルベシ。現今生物ノ種類ノ熱帶及亞熱帶ニ多ク温寒帶ハ少ク寧ろ量ニ於テ優レルハ此邊ノ事情ヲ考ルモノト云フベク、熱帶ニ生物種數ノ豊富ナルハ氣候的單純ナル現象ニ非ルベシ。

(9) 單幹中ノ狹細者ノ下方ヨリ介岐セン下等生物枝ハ餘リ分化スルコトナク、其形質ニ大變化ナク今日ニ傳ハリシモノナルベク、此近似種ハ所々ノ單幹ヨリ ∞ ニ發生シ又各時代的ニ漸次進化セシ介岐ヲ派出生センコトモ想定ニ難カラズ。又雙幹者ヨリモ下方ヨリ發生セン生物ニシテ今日ニ傳ハルモノアラソモ少ナカルベシ。

(10) 現世モ亦種ノ生滅ハ可ナリ多繁ナルベク、地球上ノ

各地ニ於テ新植物ノ造成セラレツツアルハ、自然ヲ細密ニ採集調査セシ者ノ算ニ容認スル所ナリ。是ト同様ニ滅亡種モ年々歳々地球上ニツナガラザレバシ。理論的ニモ單リ過去地質時代ニ於テノミ生物ノ生滅ノ可能ナル理由ナク、過去ニ於テノミ亡族多カリントハ考ヘラレズ。

(11) 化石産出ノ状態ヲ以テ考察スルモ、地質時代ニ於ケル種族ノ生滅ハ案外激烈ナリシモノノ如ク、爲ニ亡族種ハ ∞ ナリ。

(12) 尚新種・新屬・新亞科等、発見又考察ハ次ノ場合ニ於テ變化アル故吾人ハ自然ノ眞ノ系統ヲ探知スルハ到底不可能ナリ。即此ニ先祖ニ於テ各連絡關係アル全屬ノ5種ノ然モ特徴ノ大ナル植物a, b, c, d, eアリトセンカ、次ノ時代ニbトdガ滅亡シ化石ヲ残サザレバ5種同ノ形質的連絡失ハレ、残ルa, c, eハ可ナリ遠縁ノモノトナリ、特徴ノ大ナルニ於テハ2又3屬トシテ考察セラレバシ。次ノ代ニcハ消失シ化石ヲ残サザレバ残ルaトeトノ距離益々遠ク、aトeノミニテ分類セバ恐クハ元來同屬ナルベキaトeトヲ獨立ノ屬又族ト考ヘ、又双方ヲ無縁ノ族又亞科ニ分類ナルハヤモ計ラレズ。以上ハ化石ノ有無ハ如何ニ分類ノ根柢ヲ變動セシムルカヲ知ル一例ナリ、但化石アレバ正常ノ分類行ハルハモ如斯場合殆無シ。

(13) 以上ニ依テ本學說ノ系統樹ノ狀況ヲ見ルニ、双幹又單幹ノ ∞ ノ大小系統樹ハ各大陸ニ林立シ、其樹ハ下カヨリ

梢ニ及ブ遠大小ノ枯枝(亡族)甚多ク、特ニ現世即末梢種族ハ分岐点比較的新シク古キ枝ハ概途中ニ亡ビ現世ニ及バズト思惟ス。又全樹幹ノ枯死モ認ムベク、枝ハ所々ニ大小 ∞ ノ網目狀部分(雜交種族)ヲ有スル樹態ヲ呈スベシ。

(14) 以上ノ如キ多岐多様ナル系統的進化ノ理論ヲ實際ノ自然分類ニ適用スレバ、従来ノ如キ單一ナル(下等ヨリ高等ニ分派セル)系統樹ニ非ル故、分類的序列ノ方法モ下等ヨリ高等ニ配列スル單系序列ニ非ズ。即現在ノ教門乃至十教門ノ部類ハ勿論時ニハ網目迄モ各獨立併行^{並行}關係ニ達林立平行セル系統樹的部類(時ニハ網目モ獨立系統樹ノアル場合モナシト斷言シ得ズ)ト認ムルモノナリ。例ハバ地衣類ノ如キハ確ニ一獨立系統樹ナリ。而シテ多樹ハ單ナル分枝ニ非ズシテ大小枝ニハ大小 ∞ ノ網目狀部ヲ有スルヲ特徴トス。故ニ分類ノ末梢ニ於テハ全然組織ヲ異ニスルモノナリ、從テ十教門ハ皆獨立系統ト認ムルハ勿論、地衣類ノ如キハ小ナル同格ノ獨立門又綱ト認ム(本學說ハ本著者ノ考察ナリ)。

iii. 以上諸說ノ評論 以上五種ノ學說ヲ比較検討スルニ、(1) 平面式分類法……ハ系統發達ノ横ノ概念ノミヲ重視シ、縦ノ時間的關係ト伴長トヲ忘レタルモノ故、人為分類ニ近似セルモノアリテ完全ナラズ……(2) 系統樹式分類法……ハ系統發生ト縱横ノ關係ヲ重視セルハ可ナレドモ、起原ヲ一乃至ニニニニ限定シ、系統樹ヲ單根ニ大枝幹(動及植)トシ、七

族ヲ過少ニ見續リ網狀分枝ヲ考慮セズ、且現在保有ノ化石ヲ加ヘテ大體ニ分類系統ヲ建テシハ根本ヨリ誤アルモノト云フベク要ハ以上 ii / (5)ニ依テ知り得ベシ。— (3)系統学的分類法……ハ再三批評セシ故省略ス。— (4)動的な分類法(綱目式)……此分類法ハ世間ノ批判中ニ未一定セズ、而テ同氏ハ系統樹ヲ否定シ、植物ノ分類ハ横ノ綱目關係ヲ重視セヨト云ハレシモ別ニ分類大系ヲ建テズ從前ノ大綱ニ據ラレタリ。唯本稿ノ關係事項トシテ實際分類方法即因子分配法ヲ評説シ、之ニ依テ概括スルヲ動的な分類法ト稱セラレタリ。次ニ植物ノ分類ハ系統的方法ヲ用フベキテナク、及テ種類ノ構造上ノ因子ノ類似ニ依テ概括シ、其不同ニ依テ分類スベキガト云ハレ、更ニ植物分類ノ各階級間ノ關係ヲ見ル時ハ其間ニ漸次的又連續的ノ關係ナク聲口階級的乃至不連續的ナルヲ見ルト云ハレ又漸次變化ノ代リニ突然變化アリ、樹枝狀關係ノ代リニ網狀關係アリト強調セラレタリ。— (5)林網式分類法……ニ就テハ別ニ自筆自贊セズ、世評ヲ待ツノミ。但シ余ハ分類ハ關係学科ノ發達採集ノ完全新植物ノ發見等ニ伴ヒ變動スルモノニシテ、決シテ一定不變ノモノニ非ズ、從ツテ序列ノ變化學名ノ變化等ハ植物ノ新生及滅亡ト相連即シ、永クニ絶ヘザルモノト斷言シ得ベシ、即チ此点ヨリ見テ(早田博士ト別角度ヨリ見テ)植物(生物)ノ分類ハ動的ナリト思惟スルモノナリ。

第四節 植物分類ノ階級及分類方式

○ 植物分類ノ階級及分類方式

I. 植物分類ノ階級 共通特徴ノ下ニ近縁類似種ヲ總括シテ屬トシ、近縁屬ヲ總括シテ科トシ、科ヲ纏メテ目トシ、目ヲ纏メテ綱トシ、綱ヲ纏メテ門トナスコト次ノ如シ。但シ上記各階級間ニ適宜巨階級ヲ設クルコトアル故之ヲ併記スベシ。

1. 門 *Phylum phylum Stamm*
2. 亞門 *Subphylum Subphylum Unterstamm*
3. 綱 *Classis Class Klasse*
4. 亞綱 *Subclassis Subclass Unterklasse*
5. 目 *Ordo Order Ordnung*
6. 亞目 *Subordo Suborder Unterordnung*
7. 科 *Familia Family Familie*
8. 亞科 *Subfamilia Subfamily Unterfamilie*
9. 族 *Tribus Tribe Tribus*
10. 亞族 *Subtribus Subtribe Untertribus*
11. 屬 *Genus Genus Gattung*
12. 亞屬 *Subgenus Subgenus Untergattung*
13. 節(區) *Sectio Section Sektion*
14. 亞節 *Subsectio Subsection Untersektion*
15. 種 *Species Species Art*
16. 亞種 *Subspecies Subspecies Unterart*

17. 変種 *Varietas variety varietät*
 18. 亜変種 *Subvarietas Subvariety Untervarietät*
 19. 変形 (品種) *Forma Form Forma*
 20. 亜変形 (亜品種) *Subforma Subform Unterforma*
 21. 異形 (畸形・退化ノ戯) *Lusus Lusus*

以上ノ外ニ旧分類又便宜上門ノ上ニ……部 *Divisio, Division*; 亜部 *Subdivisio, Subdivision* ノニ階級ヲ, 異形ノ下ニ……個体 (個品) *Individuum, Individual* ヲ置キ, 以上全体ヲ總括シテ……植物界 *Regnum vegetabile, Vegetable Kingdom, Pflanzenreich* ト称ス。

II) 植物分類方式 (植物界ノ大別) 自然分類法ニ依テ植物界ヲ大別スルニ種々ノ方式アリ, 学者ニ依テ異見ヲ有シ方式ヲ異ニスルコト如次。

即 *A. W. Eichler* 氏ハ2部5門トシ, *R. Wettstein* 氏ハ7門トシ, 池野博士ハ15門, 本田博士及向坂両氏ハ大体 *Engler* 及 *Gilg* 両氏ニ則リ16門トシ, *A. Engler* 及 *G. Gilg* 両氏ハ13門トセリ。尚下山博士著柴田博士増訂薬用植物学ハ2部5門ニ分チ, 大体 *Eichler* 式ニ一致セル旧式ニシテ現在日本ニ於テ此旧式ニ則ルモノ此ノ書ノ外ニ是ヲ見ズ。

本書ノ分類大綱ハ大体ヲ独逸國出版世界最良ノ称アル *A. Engler* 及 *G. Gilg* 共著 *Syllabus der Pflanzenfamilien, 11 Aufl. bearbeitet von L. Diel 1936* (イングレル氏植物自然分類要……1936年第十一版最新版) ニ據リ, 自

己ノ研究ヲ加味シ, 努メテ邦産及外国産薬用植物ヲ網羅記述センコトヲ期セリ (但非薬用植物ハ概スヲ省略ス)。

○ 本書ノ分類方式 本書ノ分類系ハ前節ニ論述セル¹ 網式分類系¹ニシテ, 多元多系統ノ信念ニ依テ建設サレタル自然分類ノ一種ナリ。其大綱ハ次ノ如ク植物界ヲ2部19門ニ分類シ, 各門ハ∞ノ系統樹中ヨリ淘汰サレテ残存セル各独立ノ系統樹ヲ代表スルモノト思惟セヨル。故ニ各門排列ノ意味ハ従来ノ如ク下等ヨリ高等ニ進化セル系統樹的直線的意思ヲ有スルモノニ非ズ, 形態的ニ簡單ヨリ複雑ニ配列セルナリ。

I. 孢子 (隱花) 植物部 *I. Divisio Sporophyta (Cryptogamae)*

- | | | |
|----------|------------------|----------------------------|
| i. 裂菌植物門 | i. <i>Phylum</i> | <i>Schizomycetes</i> |
| ii. 裂藻 | ii. <i>P.</i> | • <i>Schizophyceae</i> |
| iii. 粘菌 | iii. <i>P.</i> | <i>Myxomycetes</i> |
| iv. 鞭毛 | iv. <i>P.</i> | <i>Flagellatae</i> |
| v. 雙鞭 | v. <i>P.</i> | <i>Dinoflagellatae</i> |
| vi. 柱鞭 | vi. <i>P.</i> | • <i>Silicoflagellatae</i> |
| vii. 不毛 | vii. <i>P.</i> | • <i>Heterocontae</i> |
| viii. 珪藻 | viii. <i>P.</i> | <i>Bacillariophyta</i> |
| viii. 接合 | viii. <i>P.</i> | <i>Conjugatae</i> |
| x. 綠藻 | ix. <i>P.</i> | <i>Chlorophyceae</i> |
| xi. 輪藻 | x. <i>P.</i> | <i>Charophyta</i> |
| xii. 褐藻 | xi. <i>P.</i> | <i>Phaeophyceae</i> |
| xiii. 紅藻 | xii. <i>P.</i> | <i>Rhodophyceae</i> |

- | | | |
|-----------|--------------|--------------|
| XIV 真菌植物門 | XIII. Phylum | Eumycetes |
| XV 地衣 " | XIV. P. | Lichenes |
| XVI 蘚苔 " | XV. P. | Bryophyta |
| XVII 羊歯 " | XVI. P. | Pteridophyta |
- II. 種子(頸花)植物部 II. Divisio Spermatophyta
(Phanerogamae)
- | | | |
|-------------|--------------|--------------|
| XVIII 裸子植物門 | XVII. Phylum | Gymnospermae |
| XVIII 被子 " | XVII. P. | Angiospermae |
1. 單子葉植物綱 1. Class Monocotyledoneae
 2. 双子葉植物綱 2. C. Dicotyledonae
- 以上ノ各門ハ純粋ノ独立系統樹ナルヤ又併合ナリヤ或ニ門併合ノ必要アリヤ等ノ疑問凡テ此後ノ研究ヲ待ツ。

第八章 植物分類ノ方法並其實際

第一節 植物分類ノ方法及其例

○ 植物分類ノ方法論

I). 植物分類法概略

i. 植物分類ノ変化性ト最良式 既記セシ如ク植物分類ノ形式ハ種々ノ條件ニ依テ変動スルモノニシテ、決シテ一定不變ノモノニ非ズ、即分類ノ標準ノ取り様如何ニ依テ種々ニ変化スルニ依リ、此ニ同一部類ノ分類ニモ數多ノ分類式ヲ生ズルハ明白ナリ。然レ此是等數多ノ分類形式ハ永久ニ對

立シ或ハ同價值ノ下ニ存在ヲ許サル、モノニ非ズシテ、早晩最良ノ分類式ハ他ヲ駆逐シテ分類標準トナルベキモノトス。

ii. 分類特徴(標準)ニ據ル分類法 分類ノ標準トハ多々(形態・生態・分布等)アレバ、就中各個體ノ有スル形質特徴ヲ以テ分類の特徴ノ中ノ第一特徴トナス。故ニ植物分類ニハ各個體ヲ吟味シ、其形質の特徴ヲ見出し、次ニ生態・産地・分布等ヲ参照シ、是等ノ諸條件ヲ相互ニ比較検討シ、系統的親縁ノ遠近如何ヲ考察シツテ分類スベキモノナリ。

即チ以上諸特徴ノ共通類似ニ依テ總括(纏メル)シ、其差別不同ニ依テ分離即分類スベキモノトス。

例ハバ甲・乙ノ種又個體アリ、甲ハ a·b·cノ各異ナレル3ツノ特徴ヲ有シ、乙ハ a·d·eノ各異ナレル3ツノ特徴ヲ有ス。aハ共通特徴ニテ形質上ノ類似ヲ示シ、b·c·d·eハ差別特徴ニテ形質上ノ差異ヲ現ス。故ニ共通特徴 aニ依テ甲・乙兩者ヲ總合シ何々種又何々屬トシ、差別特徴 b·c·d·eニ依テ兩者ハ別個體又別種ナルヲ決定シ得ベシ。

II) 理想的分類法

i. 分類特徴ノ研究

1. 特徴ノ種類及起因 凡テノ種又種類ヲ分類スルニ當ツテハ先ヅ、(a) 共通形質ト、(b) 特徴形質ノ二方面ヨリ考察スルヲ要ス、(a)ハ總合(纏メル)ニ使用スル特徴、(b)ハ區別スベキ特徴ナリ。以上ノ(a)(b)特徴ノ各種又各種類ニ現ハル、

原因ハ、(α)遺傳因子ノ表現的差異ト、(β)全因子ノ組合セノ差異ニ基クモノナリ。

2. 特徴ノ形質ト現レ方 (a)形質特徴ノ種類……(1)形状(廣汎ナリ)、(2)色沢、(3)斑紋、(4)粗糙、(5)滑沢、(6)毛茸、(7)突起其他 (b)特徴ノ現レ方……(1)有無(有又無)、(2)数量(1~∞)、(3)較差(大小・長短・厚薄・硬軟・輕重・強弱・濃淡・細太・位置ノ差等)。

ii. 植物分類ノ實際的根據 先ツ以テ以上ノ分類の特徴ヲ研究(分析的ニ總合的ニ)シ置クヲ要ス、次ニ之ヲ基トシテ次ノ如ク研究ヲ進ムベシ。

1. 形態の特徴ヲ主トシ、分布的・生態的の特徴ヲ次トスルヲ法トスルモ場合ニ依テハ次特徴ニ依テ決定スルコトアル故注意ヲ要ス。

2. 相同特徴ヲ重要視シ、相似特徴ハ取ルニ足ラズ(但シ生態ニ關係アリ)

3. 分類の特徴ノ大小輕重ニ階級アリ、分類ノ根本ハ其特征が頻出カ(重要特徴)稀出カ(輕小特徴)ニ依ルモノニシテ、換言スレバ共通ノ範圍ノ廣狹ニ大關係ヲ有ス、即共通範圍ノ大ナル程分類階級ノ上位特徴トナリ、範圍小ナル程下位ノ特徴トナル。例ハバおとぎりさう屬 *Hypericum* ニ於テ莖ノ中葉ノ對生・有腺点・多体A、巴咲花冠子房3~5室・中軸胎座・種子ハ依狀楕圓形有網紋等ハ科乃至亞科ノ特徴トナリテ共通範圍頗廣キモ、花ハ單性・雄蕊ハ離生腺

體ノ有無・子房ハ1又2室・漿果又核果等ハ特徴ハ共通範圍狹クシテ屬の特徴タルニ過ギズ、種の特徴ニ至リテハ共通範圍更ニ狹ク葉ノ輪生・有柄腺点ノ形色大小分布比例分布場所等々ノ形状及腺点ノ吟味・花冠ノ形色腺点ノ吟味・Aノ數長短・心皮數・胎座形・果ノ形質等ハ種の特徴ナルが如シ。

iii. 分類の特徴大小輕重ヲ區別スル標準 次ノニ方面ヲ吟味スルヲ要ス。

a. 変不変ノ別。1. 变化的特徴……分類上取ルニ足ラズ。2. 不變の特徴……最重要ナル特徴ニシテ是ヲ見述スベカラズ。

b. 差別。1. 有無ノ差別(有無の特徴)……最重要性ヲ有スル第一階級ノ特徴ナリ、有ト無トハ其差別絶対的ナリ。

2. 数量的差別(數量の特徴)……數ノ差ニテ第二階級ノ重要特徴ナリ、數量ニシテ不変ナレバ特徴的價值大ナリ。

3. 比較的差別(較差)(比較の特徴)……大小・長短・厚薄・硬軟・輕重・強弱・濃淡・細太・位置ノ差等ヲ云ヒ、何レモ比較的ノ差ニテ絶対的ニ非ズ。從テ中間形質ヤ連絡形質アリテ往々區別困難又不可能トナル、故ニ亦特徴ハ第三階級以下ニシテ採用ニ當ツテハ極メテ慎重ナル吟味ヲ要スルヲ忘ルベカラズ。

III. 植物分類方法ノ實際 實際的ノ植物分類方法ハ (i) 個體ノ吟味、(ii) 種以上ノ位置ノ決定、(iii) 種ノ決定ノ三般ヨリ成ル。

i. 個體ノ吟味 植物分類ノ單位ハ個體ナレバ、植物分類

ハ先ツ個体ノ吟味ニ初マル。抑モ個体ハ形質特徴ノ集合ヨリ成立スルモノナレバ、其等大小特徴ノ分析ニ依テ抽出セル数多ノ形質的特徴ヲ基本トシ、 ∞ 個体ヲa, b, c……又番号順ニ列記シ、其等個体ノ有スル特徴ヲ各個滑レナク記入シ終リ、其等各個体ノ特徴ヲ比較考察シ、以テ其同不同ヨリ組合セノ類似不類似及特徴的價値ノ大小輕重ヲ究ムルヲ要ス（以上ハ前記ノI, IIヲ熟讀セル後ナルヲ要ス）。

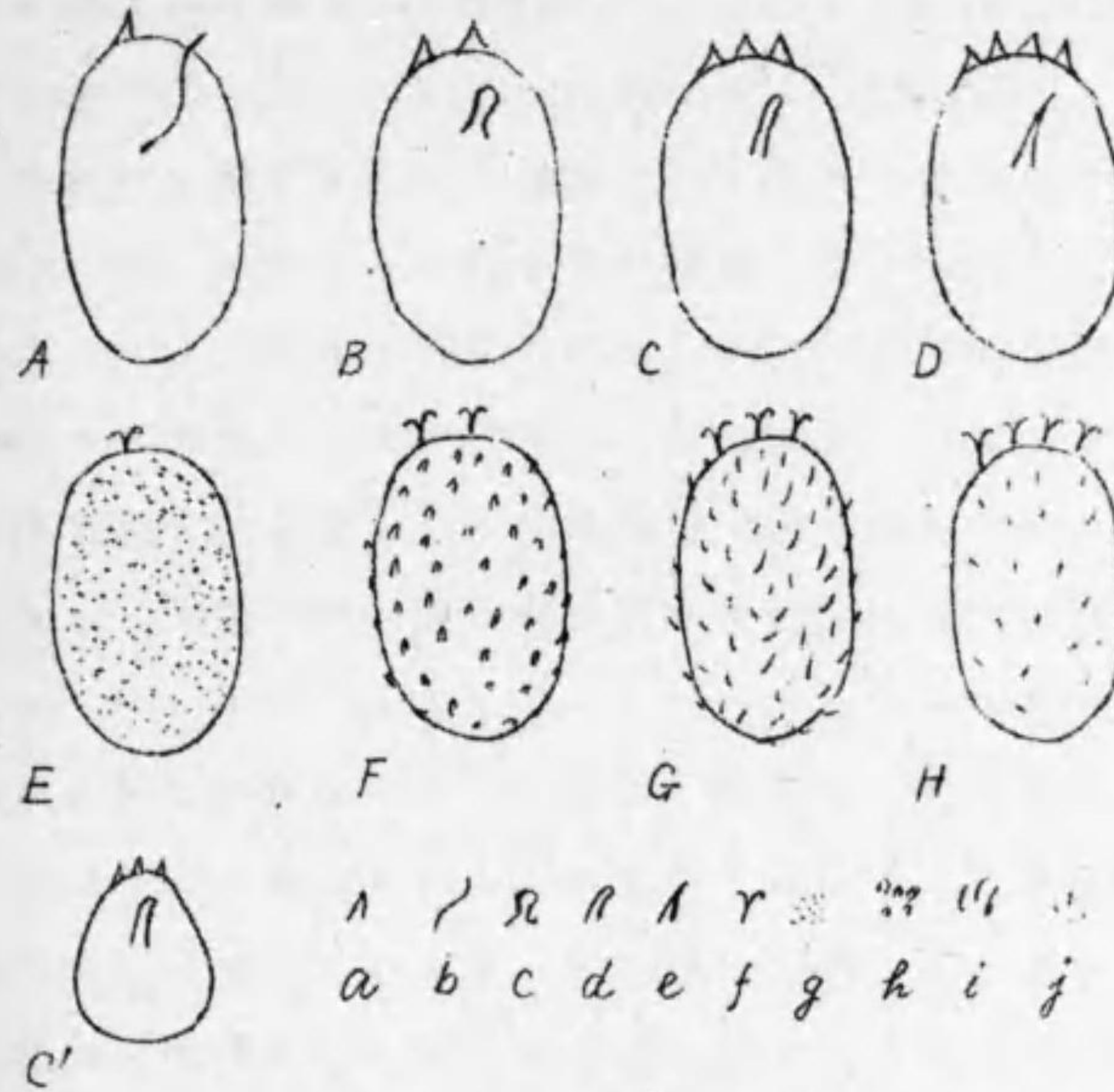
ii. 種ノ決定 以上ノ如ク個体ノ吟味ヲ終リ、分類ノ準備完成セバ、次ニ(a)分類上價値アル特徴（即チ抽出ノ）ト(b)然ラザル特徴（即チ抽出特徴）ニ両分シ、抽出ノ主要特徴（種的特徴）ノ共通一致スル個体ヲ總括シテ種（Species）トナス。

此際普通的特徴ハ種ノ分類ニ使用セス、而シテ分類上個体數ノ多少ハ種ノ多少ニ無關係ニ非ルモ、サリテ個體數ノ多少ハ直ニ種ノ多少ニ關係セズ、要ハ個體ノ有スル特徴ノ大小輕重ノ程度如何ニ關係スルモノナリ。

iii. 種以上ノ位置ノ決定 凡ソ分類ニ熟熟スル者ハ個體ヲ吟味スル時既に其等ハ何屬ナルカ又何科ニ屬スルカヲ熟知スルヲ常トス、故普通ハ分類的仕事ハ種ノ決定ヲ以テ最重要事トスルモノナリ。然レモ初學ノ人又分類ニ熟達セザル人ハ個體ノ吟味ヨリ科ヲ決定シ、次ニ屬ヲ決定シ、種ノ決定ヲ最後トスベシ。

○ 植物分類方法ノ例 植物分類方法ノ範型ニミラ次ニ示ス故、是ニ依テ植物分類ノ要領ヲ會得スベシ。

I). 科屬種及種ノ模範分類例.



今相異ナレルハ個體アリ、夫々A, B, C, D, E, F, G, H.ニテ表ス。是等ハ總テ楕圓形ナルコト、種々ノ突起物ヲ有スルコトノニ大共通特徴ニ依テ皆全科ニ屬スルヲ知ル。次ニA, B, C, Dハ表面臆テ無毛平滑ナルト、aナル共通突起ヲ有スルコトニ依テ全屬ニ屬シ；E, F, G, Hハ表面ニ小突起又毛茸ヲ有スルト、fナル共通突起ヲ有スルコトニ依テ全屬ニ屬ス。次ニa特徴ハ數量的差別ヲ表シ（數量的特徴）、b, c, d, eハ各圖有ナレバ有無的特徴ヲ表シ種的差異極ノテ明瞭ナリ。依テA, B, C, Dハ各特立種ナリ。是ト同一理由ニ依テE, F, G

Hハ各若立種ナリ。故ニ分類學上ノ如キ特徴ノ配分ヲ有スル $Aab, Baac, Caaa, Daaaae$ ノ4種ハ之ヲ纏メテ α 屬トシ、 $Efg, Ffgh, Gfffi, Hffffj$ ノ4種ハ之ヲ纏メテ β 屬トシ、 α 屬ト β 屬トハ近縁屬ナル故之ヲ纏メテA科ト稱スルナリ。時ニC'ノ如キ形態ヲ見ルコトアリ、之ハ正ニCノ近縁個体ナルハ明白ナルガ、全体ノ卵形ナルト、 a 突起ノ小形ナルト、背突起 α ノ比較的大形ナルヲ異トス、然レハ以上2ツノ異点ハ比較的差別ニシテ數量的又無的ノ差別ニ非ズ、從テ此輕少ナル特徴ハC'ヲCノ變種トシテ區別スルニ適ギザルナリ。

II) 種及屬又節ノ分類例。2組ノ對等ノ形質アル場合……

今A・B・C・Dノ4個体アリ、是等ノ間ニ花瓣ハ同形同數ナルモ色ヲ異ニス；即 a ハ花瓣、1ハ赤色2ハ白色トス；次ニ萼ハ b ニテ表ハシ、1ヲ披針形全縁トシ、2ヲ倒卵形全縁トス。然ル時ニ特徴ノ配分ハ $Aa1b1, Ba1b2, Ca2b1, Da2b2$ ナリト假定スレバ此四個体凡テ近縁ノ異個体ナルガ、相互間ノ差異ハ花部以外ノ器官ノ形質如何ニ依テ種的變種的何レトモ定メ得ベシ。又分類ノ方法ハ2通りアリ、即チ花瓣ニ重キヲ置ケバ…… $\alpha(Aa1b1, Ba1b2), \beta(Ca2b1, Da2b2)$ ノ2組ヲ生ジ萼ノ形態ニ重キヲ置ケバ…… $\alpha(Aa1b1, Ca2b1), \beta(Ba1b2, Da2b2)$ ノ2組トナル。

以上ノ4個体ヲ夫々種ト見做ス場合ハA・Bハ之ヲ纏メテ α 節トシ、C・Dヲ纏メテ β 節トシ α ・ β 兩節ヲ纏メテA屬ト

ナス。

第二節 植物分類上ノ諸注意

○ 植物分類學ハ植物各介科ノ基礎ヲナス學科ナレバ、苟モ植物學ノ何介科ヲ學ブ人トモ一通り其全体ヲ學バザルベカラズ。而シテ分類學ヲ專攻スル人ハ、次ノ諸注意ヲ銘記スルヲ要ス。

I) 植物分類ノ三要素ヲ完備スベシ。三要素トハ、(1)比較標本、(2)參考書、(3)分類學者。是ナリ。以上三要素ノ完備ニ依テ完全ナル植物分類ハ遂行セラルモノトス。其一ヲ缺クカ又不完全ナレバ所期ノ目的ヲ達シ得ズ。

i 比較標本 トハ現在分類鑑定ニ使用スル標本ニ對シ、鑑別同定即チ鑑定ニ誤ナク正誤ヲ失セザランガ爲メ比較研究ノ料ニ供スル標本園(Herbarium)ヲ云フ。此標本園ノ必要不可欠ナルハ今更論ヲ俟タズ、其完不完ト數ノ多少ト質ノ良否トハ直チニ分類ナル仕事ニ多大ノ影響ヲ及ボスモノナリ。故ニ分類學者ハ先以テ自己ノ周圍ニ完全墨留ナル一大標本室ノ設備ヲ有スルヲ絶対必要條件トス。

ii 參考書 苟モ植物分類ニ関スル書ナリセバ時ノ古今、場所ノ東西ヲ問ハズ總テ是ヲ蒐集シ、適當ニ之ヲ分類、書棚ニ順序良ク併列シ、所要ノ書籍ハ直チニ探索シ得ル様ニ準備シアルヲ要ス。實際植物學各介科中最多クノ書籍ヲ要スルハ、分類學ニ比スベキモノナシ。

iii 分類学者 人的要素ニシテ實際ノ仕事ニ従事スル植物分類学者ノ専攻者ヲ言フ。其資格ハ長年ニ亘リ學理ト實際トヲ専心操磨セシ達人ニシテ、學理トハ植物分類学ハ勿論他ノ是ニ關係スル植物学ノ諸分科並關係諸学科ノ修得ヲ言ヒ、實際トハ長年標本(暗葉及生標本)ノ分類ヲ實地ニ取り扱ヒ、分類ニ熟達シ、且長年向山野ヲ跋渉シテ植物界ヲ東奔西走實地ニ觀察(生活時)シ採集シ標本製作ヲ成シ遂ゲタル苦勞人ヲ言フ。

II) 標本ノ重要性ヲ知ルベシ。植物分類ニ標本ノ必要絶対ナルハ勿論ナルガ、第(一)ニ鑑定標本、第(二)ニ比較標本、第(三)ニ元基(基準)標本是ナリ。

i. 鑑定標本 トハ鑑定即分類ニ使用スル材料(概暗葉標本、生標本)ヲ言ヒ、其數量ノ多少ト質ノ善惡トハ直ニ分類ナル仕事ノ能率並結果ニ至大ノ關係ヲ及ボスモノナリ。故ニ努メテ多數且良質ノ標本ヲ用意スルヲ第一條件トス。多數トハ一種ニ就テモ全一產地ヨリ數株(數個)以上ヲ採集シ、少クトモ次ノ比較標本ト合セテ当該種ノ分布範圍ノ全体ヨリ蒐集サレシモノナルヲ要ス。良質トハ完全無缺ノ標本ヲ言フ。詳細ハ豫備篇ノ第(九)ニ詳記セリ、其項茲照。

ii. 比較標本 前記セリ。

iii 基準(元基)標本 基準標本 *Type-specimen* トハ最初ニ発表サレシ記載ヲ伴フ原型標本ヲ言フ。昔ハ2個以上ノ標本ヲ指示セルモ、現在ハ假令新植物ノ記述者ガ∞標本

ヲ明ニ其同一種ト認定セル場合モ、其中ノ唯一個ヲ以テ *Type-specimen* ト指定シ、他ヲ一括シテ準標本 *Co-type* ト稱ス。基準標本ハ實ニ重要性ニ於テ他ニ比肩スベキモノナシ。其理由ハ唯一個ノミナルコト、其後該種決定ノ基準トシテ比較ノ料ニ供セラルハコト、何程優秀ナル記載モ到底實物ノ委曲ヲ悉シ自然物其儘ヲ表現シ得ザルコト等ニ依ルモノナリ。故ニ本標本ハ特別ニ尊重スベキモノニテ、基準標本ノ多キ *Herbarium* 程尊重セラルモノトス。

II) 原記載及原產地ニ注意セヨ。分類上必要ナル注意トシテ原記載及原產地アリ。

i. 原記載 原記載 *Original description* トハ新種発表ノ際ニ原著者ガ其ノ基準標本ヲ基トシテ記述セル記相文(種又屬科等)ヲ言フ。本記相文ハ分類上極メテ必要不可缺ノモノニシテ、後輩ハソレヲ見テ原著者ハ何者ヲ指示セルカヲ知り得ル唯一ノ文獻ナリ。特ニ其後ノ學者ハ別ニ記相文ヲ造リ又異ナル意義ヲ附加セル場合又脱漏アル場合等当然問題ヲ生ズルニヨリ、原記載ト照シ合セテ是正スル必要ヲ生ズ。又標本鑑定ニ當リ基準標本ヲ見ル能ハザル場合ハ此ノ原記載ニヨツテ形質ヲ知り鑑定ヲ進ムル外ナキ故、記相文ハ標本ニ並ニ重要ナルモノナリ。

サレバ其記載ハ完全無缺且要領ヲ得タルモノヲ希望セザルヲ得ズ。

ii 原產地 原產地 *Type-locality* (基準産地) トハ基準標

本ヲ採集セシ場所又地方ヲ言フ。分類上原産地ヲ重要視スルノ必要何故ナルカ、ソハ種ノ分布性ノ多様ナルニ基クモノニシテ、廣分布ヲ示ス種ノ如キハ各地方又兩極端（水平的又垂直的ニ）ニ於テ務必ズ形質上ニ若干ノ差異ヲ生ズルモノナレバナリ。分布ヲ究ムルハ分類上ノ必要不可欠ノ條件トナレル今日ニ於テハ尚更重要視スル必要大ナリ。

IV) 種ノ鑑定ノ困難ト鑑定ノ慎重

i. 種ノ鑑定ノ困難 種ノ鑑定ハ分類学中ノ最ニ難事ニシテ又基礎的仕事ナリ、而シテ世人ノ是ニ対スル考ハ一般ニ誤レリ。正確ナル種ノ鑑定ハ到底普通学究者ノ能クスル処ニ非ズ、況ンヤ初学者ニ於テオヤ。分類ノ業ノ至難ナル大家ト雖モ往々誤謬ニ陥リ或ハ不当ノ見解ニ墮スルコト不鮮ニ依テモ知り得ベク、種ノ正確ナル鑑定程困難ナルハナシト知ルベシ。世人往々輕々ニ種名ヲ決定シ何等意ニ介セザル人不少ハ正ニ未熟ノ證ナリ。特ニ野外ニ於テ種名ヲ輕々シク断定スル人ノ如キハ思ヒ上ルモ甚キモノニテ、断ジテ如此安易ノ業ニ非ズ、野外ニ於ケル見誤リ^別鑑定ヒハ大家ト雖モ到底避クルコト能ハザルモノナリ。以テ如何ニ其難事ナルカヲ知り得ベシ。

ii 種ノ鑑定ノ慎重ヲ要スル理由 種ノ鑑定ハ飽ク迄モ慎重ヲ期スベキモノナリ、何トナレバ植物学ノ凡テノ学科ハ皆研究ノ單位又基礎ヲ種ニ置クニ依ルモノニシテ、種ノ鑑定ニシテ誤アランカ、其研究ハ既ニ出発点ヨリ誤レルモノ

ト云フベク、研究價值ハ無効又半減スベシ。特ニ分類学關係ニ於テ其影響ノ甚大激烈ナルハ勿論、分布学的目標又統計等ニ於テハ鑑定ノ粗漏^誤結論ヲ誤ラシメ、有害無益ノ文献クラシムルコトアルノミナラズ、眞面目ナル研究ノ妨害トナル、豈慢マズシナ可ナランヤ。

iii 初学者ノ種ニ対スル態度 種ノ鑑定ノ困難ナル既上述ノ如シ、サレバ初学又未熟者ハ植物分類又其ノ實習ハ最初ハ種ニ標準ヲ置クコトナク科又屬ヲ目標トシ、科名檢索表又科屬檢索表等ニ依テ手ニスル植物ヲ吟味シ、何科又何屬ニ屬スルカヲ知レバ事足レリ。但シ此際自己ノ檢索ニ誤ラキヤ否ヤ、科名屬名ハ不当ナラズマヨ知レニハ適當ナル指導者ヲ要スルハ勿論ニシテ、是ノミハ独学不可能ナリ。科屬檢索ノ經驗ヲ積マバ次ニ種名檢索表ヲ使用シ種名ヲ檢索シ指導ヲ受クベシ。故テ最初ヨリ種ノ鑑定ヲ目標トスルハ、決シテ正式ノ研究法又学修法ニ非ザルヤ言フ俟タズ。其ノ他標本ニヨル種ノ鑑定（決定）ニハ必ズ適當ナル指導者（現今ハ各部門又科或ハ屬ニモ專門家アル故妄リニ独断ヲ以テ得々タルコト勿レ）ノ教示ヲ乞フベシ、自ヲ思ヒ上リテ誤リニ種ヲ決定シテ得々タルハ其害甚ノ及ブ処独リ其個人ニ止ラザルベシ。

眞ニ正確ニ種ヲ決定スルニハ莫大ナル比較標本ト、内外多數ノ参考書トヲ要シ、而モ長年ノ採集上ノ經驗ト無教ノ標本ノ鑑定經驗ヲ積ミシ練達^能ノ眞面目ナル学究者ニシテ

ルベシ、大家ト虽モ個々別々又断片的表ハ特種ノ場合ノ外ハ不可ナリ、況ンヤ非大家ニ於テオヤ。即チ順序トシテ自己又ハ自己ノ自由ニナル標本中最モ〇ニ集リ居ル科又屬ヲ選定シ、尙是ニ採集追加シ他人他所ヨリ借用シテ充實ヲ期シ研究ニ取リ掛レ、千当リ次第ノ研究表ハ爲スベカラズ。表ニハ種ヲ基トシテ分類記載スルモノナルガ、ソレ迄ニハ何回モ分類ヲ吟味シ訂正シ、愈々間違ヒナント確信スルニ至ツテ記載ニ取リ掛レ（記載法ハ次章参照）。

論文ノ書キ方ニハ一定ノ法アリ、宜シク尤華諸學者ノ論文ヲ参照吟味スル外尙次ノ書ヲ精讀セヨ、田中義啓著、科学論文ノ書キ方¹是也。論題、緒論、内容ノ排列、実験成績、結論、参考文献、索引等ノ順序ナルガ、採メ文献表及図表文章論印刷等ニ就テ研究シ置クベシ。此際大イニ注意スベキハ表態度ニシテ飽迄モ清廉潔白減私奉公唯一筋ニ學術ニ忠誠ヲ尽シテ熄ムノ精神ニ終始スベシ、進退明白ヲ旨トシ、断ジテ欺瞞剽竊等ノ行爲アルベカラズ、又関係者ニハ次シテ謝辞ヲ忘ルベカラズ、是レ入同ノ礼義也。

第九章 植物ノ記載及記載例並批判

第一節 植物ノ記載及記載法

○ 植物記載ノ目的及主義方法

I) 植物記載ノ目的及主義

i. 植物記載ノ目的、ハ凡次ノ4ツノ場合アリ。

1. 植物ノ分類ノ階級ニ志ジテ、各自他ヲ明確ニ區別スベク異同ヲ辨別スベキ特徴ノ適當ナル配列ヨリ成ル簡明ヲ旨トセル記相文（即定義文）ヲ作ル爲メ。

是ニハ科ノ記相文屬ノ記相文種ノ記相文等アリテ、記載ノ形式ト範圍トヲ異ニス。

2. 實地分類上ノ仕事ノ完全ヲ期スル爲メ、觀察ニ從テ隨時隨所ニ於テ描画寫生シ且記載セバ、些細ナル特徴モ見落スコトナク後日ノ参考資料トナリ、記載ノ完全ヲ期シ分類ノ正確ヲ期待セラル、爲メ是ハ主ニ實力向上ノ練習用トナル。

3. 精確ナル記相文ハ精圖ト共ニ分類學上極メテ必要ナレモノニシテ恰鳥ノ兩翼・車ノ兩輪ノ如シ、假令精圖ナキ場合ト虽モ精確ナル記相文ハ其缺亡ヲ補フニ足ルベシ。從テ(1)ノ目的ヲ達スル場合ト(2)ノ目的ヲ達スル場合トニ於テ、記相文ノ書式内容ヲ異ニセザルベカラズ（第二節参照）。

4. 單ニ練習又實習ノ目的ニナサルハ場合、此場合ハ或ハ(1)又(3)ニ傾キ概其中同ヲ取ルモノトス。是ハ練習用ニテ表ヲ目的トセス。

ii. 植物記載上ノ主義方針 トシテハ前記(1)ト(3)ノ場合ニテ異ル。即チ(1)ノ場合ハ飽迄モ簡明ヲ主トシ、文章ハ簡潔ニ重要特徴ハ脱濟セヌ様ニ、特徴ノ配列並ニ用語ハ器官學ノ研究順序並ニ其用語ニ從フベシ。(3)ノ場合モ畧之ト同様ナレド、唯詳細ヲ旨トシ尙モ省略セザルニアリ。(2)ハ豫備

用, (4)ハ練習用ナリ。

II) 植物ノ記載法 ハ植物器官学及植物解剖学 (即上卷ノ
研究記載ノ順序ニヨリ, 其指示スル學術用語ヲ使用シテ
記相文ヲ作ルニアリ。然レモ規約ニ從フ次ノiiニ指示スル
器字及符号又記号等アルニヨリ, 是等モ記憶シ使用自在ナ
ルヲ望ム。

i. 記載用語 殆其總テ上卷ノ植物器官学及解剖学ニ書
キ盡セリ。依テ上卷各部参照。

ii. 記載用語及符号又記号 記相文ヲ簡潔ナラシムルト,
全体ヲ見易カラシムルト, 相互比較ニ便ナラシムル目的ニ
使用セラル。凡ソ次ノ種類アリ。

[A] 全相ニ使用スルモノ

(a) 習性ニヨルモノ

- 1. 喬木 喬 ㄉ
- 2. 亜喬木(喬木狀灌木)..... 亜喬 ㄉ
- 3. 灌木 灌 ㄉ
- 4. 小灌木 小灌 ㄉ
- 5. 矮小灌木(半灌木)..... 半灌 ㄉ
- 6. 木本(樹木) 木 D
- 7. 草本 草 H

(b) 生活期間ニヨルモノ

- 8. 一年生(一年草) ① or ○ or ◎
- 9. 二年生(二年草) ② or ⊙ or ⊚

10. 多年生(多年草)..... ⊙ or ⊚ or ⊛

(c) 蔓性ノモノ

- 11. 纏繞性(左巻)..... ㄩ or ⊙
- 12. 全 (右巻)..... ㄩ or ⊙
- 13. 攀緣性
- 14. 藤本 { 纏繞藤本
攀緣藤本

[B] 部分相ニ使用スルモノ

(a) 莖幹ニ使用スルモノ (但断面觀)

- 15. 円 莖 ○
- 16. 槽円莖 ⊖
- 17. 壓扁莖 ⊖
- 18. 多溝莖 ⊖
- 19. 多角莖 ⊖
- 20. 四角莖 ⊖
- 21. 三角莖 △
- 21' 根生 ㄩ
- 21'' 叢生 ㄩ
- 22. 互性 ㄩ
- 23. 對性 ㄩ
- 24. 輪性 ㄩ
- 25. 乱性 ㄩ or ㄩ

- 26. 互性有托葉 ㄩ or ㄩ
- 27. 對性有托葉 ㄩ or ㄩ
- 28. 乱性有托葉 ㄩ or ㄩ

(c) 花 (稀ニ果)ニ使用スルモノ

α 性別ニ使用スルモノ

- 29. 兩性花(両全花)..... ♂ or ♀
- 30. 單性雌花 ♀
- 31. 全 雄花 ♂

- 32. 單性雌雄同株 (♀ ♂)
- 33. 全雌雄別株 ♀ ♂
- 34. 雜性花 (多家花) (♀ ♂) (♀ ♂) (♀ ♂) 等

(β) 相称關係ノモノ

- 35. 放射相称 (多對形, 多軸性) ⊕ or ⊕
- 36. 左右相称 (單對形, 單軸性) ⊕ or ⊙ or ⊖ or ↓
- 37. 不相称 (不對形, 不平等) ⊗ or ⊗

(γ) 花ノ各器官ノ配列ヲ示スモノ

- 38. 輪狀配列 (輪生花) ⊙
- 39. 半輪狀配列 (半輪生花) ⊙
- 40. 螺旋狀配列 (螺旋狀花) ⊙

(δ) 苞花及花ノ各器官ニ使用スルモノ (概花式ニ使用ス)

- 41. 苞 B
- 42. 花 F
- 43. 花蓋 (花被) P
- 44. 萼 K
- 45. 花冠 C
- 46. 雄器 A
- 47. 雌器 G or Cp
- 48. 無花被花 無被

- 49. 單花被花 單被 ⊙
- 50. 兩 (複) 花被花 兩 (複) 被 ⊙
- 51. 兩花被花ニテ K・Cノ區別アルモノ 異被 ⊙
- 52. 兩花被花ニテ各花被葉ノ同形質ノモノ 同被 ⊙

(ε) 花式ニ使用スルモノ

- 53. 又ハ、或ハ V, or, od.
- 54. 篩ニ R, r.
- 55. 極篩ニ V, R, V, R.
- 56. 乃至 —, ~

- 57. 多少 ±
- 58. 同種花輪ノ重複 +
- 59. 花葉ノ合一 ()
- 60. 子房ノ上位 Gn
- 61. 子房ノ周位 (中位) Gn-
- 62. 全下位 Gn
- 63. 全半上位 Gn-
- 64. 全半下位 Gn-
- 65. 一花輪ノ個員數 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, ...
- 66. 一花輪ノ個員ガ多數ニシテ且不定數ナルトキ ∞
- 67. 一花輪ノ各員ガ現在消失セル場合 0
- 68. 一花輪ノ各員又其ノ一部ガ退化又縮小セル場合 or ⊕
- 69. 或器官ガ倍加セル場合 n²
- 70. KトCトガ直交スル場合 ×
- 71. 異種花被ノ合着 ()
- 72. 異種器官ノ對立 (對生) []
- 72. 公式花式又花式ニ於テ或器官ハ合一シ又分離スル等ニツノ場合ヲ有スルキ ()
- 73. 唇狀K又ハ唇狀Cニ於テ上唇及下唇ノ裂片數ヲ現ハス場合 (2/3), (3/2), (4/1) 等アリ。

[C] 一般使用ノモノ

- 74. 離在 離
- 75. 癒合 合
- 76. ヨリ大ナル, ヨリ多數 >
- 77. ヨリ小ナル, ヨリ少數 <
- 78. 全直ノ ⊥
- 79. 平行ノ ||
- 80. 相筭シ =
- 81. ミクロリメーター $\frac{1}{1000}$ m.m. μ
- 82. 兩半同形 (左右同形) ⊕
- 83. 螺旋狀ノ ⊙

84. 雜種 (Hybrid) X

85. 節 (Section) §

86. 注意標 !

87. 一月乃至十二月 I ... XII

[D] 分布ニ関スルモノ

88. 北半球 北半 *

89. 南半球 南半 *

90. 南北西半球 西半 *

91. 東半球 (旧大陸) |*

92. 西半球 (新大陸) *|

93. 熱帯 (地方) 熱

94. 熱帯各地 汎熱

95. 旧大陸ノ熱帯 旧熱

96. 新大陸ノ熱帯 新熱

97. 亞熱帯 亞熱

98. 暖帯 暖

99. 亞暖帯 亞暖

100. 温帯 温

101. 南半球ノ温帯 南温

102. 北半球ノ温帯 北温

103. 歐羅巴 (洲) 歐

104. 亞細亞 (洲) 亞

105. 歐羅巴及亞細亞 欧亚

106. 阿弗利加 (洲) 阿

107. 濠洲 濠

108. 亞米利加 (洲) 米

109. 北亞米利加 (洲) 北米

110. 南亞米利加 (洲) 南米

111. 北米ノ大西洋岸 (地方) 東米

112. 北米太平洋岸 (地方) 西米

113. 地中海地方 地中海

114. 喜望峯地方 喜望峯

115. 喜馬拉山 (地方) 喜馬

116. 印度 (地方) 印

117. 印度馬來地方 (應凡地方) 印馬

118. 高山 高

119. 北極 極

120. 北周極地方 北周極

iii. 記載法一般 分類學上ノ記載ハ種ノ記載ヲ第一トシ、科及屬ノ記載之ニ重ク。

1. 科 (又種)ノ記載法 記載ノ順序ハ次ノ如シ、學名和名ノ次ニ

[A] 形質

(a) 全相 草木ノ別、全形、生活期間ノ別、高さ、常緑カ落葉カ、全然無毛カ、平滑カ、卷毛状態、腺又分泌腔ノ有無、色彩等全体トシテ總合的ニ大局ヨリ觀察シテ記載ス。

(b) 部分相 植物体ノ各部分ヲ分解的解剖的ニ觀察記載ス。

(c) 根、(d) 根莖、(e) 莖、(f) 葉、(g) 花序及花傘、(h) 花 (花式等)、(i) 果實、(j) 種子 (以上ハ器官學ノ記載條項及順序ニ從フ)。

[B] 成分 種々ノ化學的成分ニ就テ其ノ種類並分布状態ヲ記載ス、就中有効成分ハ脱瀉ヲキヲ期セヨ。

[C] 生態 單立カ簇生カ、生育状態、開花時ノ特性、昆虫トノ關係、枯莖ノ有無、莖枝ノ向キ其他ノ習性、生育地等植物自体ノ生活状態並外界トノ關係ニ就テ記載ス。

[D] 分布及屬種ノ數 世界的ニ調査セル結果ヲ記スベキモノナルガ、屢地域ヲ限リ其範圍内ニ於ケル記載ニ止ルコトアリ、例ハバ日本産某科ノ分布及屬種ノ數ノ如シ。

[E] 効用 人生トノ關係即チ利用厚生方面ヲ記載スベシ。

[F] 備考 近似種ノ識別点又当該種研究ノ歴史等ヲ記

速スベシ。

[G] 文献 当該科ニ関スル内外一切ノ研究資料文献ヲ記スレカ又其中ノ著甚ナルモノヲ記ス。或ハ初ハ最初ノ行即科名ノ直後ニ記載スル方式モ行ハル。

2. 属ノ記載法 是ハ科ノ記載條項ニ比シ更ニ簡略ニ取扱ヒ其属ニダケ固有ノ特徴ヲ簡明ニ記載シ、[D]ハ分布及種数⁷又分布及種並変種変形数⁷トナル。[B],[C],[F],[G]等ハ属皆略セヨル。

3. 種ノ記載法 前記セル(1)科ノ記載法ト全一ナルガ、唯記載ノ範圍ヲ狭ク種内ニ止ムルノ差アリ、而シテ[G]文献ノ項ハ科同様最初ノ行即種名ノ直後ニ記載スルヲ普通トス

○ 分類記載上ノ注意 次ノ條項ニ注意セヨ。

I) 重要特徴ヲ脱漏ナク記載セヨ。科属種ノ特徴ニ夫々重要ナルモノト然ラサルモノトアリ、以上ヲヨク區別シ重要性大ナルモノハ苟モ脱漏アルベカラズ。重要特徴一ヲ書漏スハ極メテ重大缺點トナリ、全体ノ價値ヲ低下ス、之ニ反シテ非重要特徴ノ羅列ハ無益無價値ナリ、須ク重要特徴ノ悉見ニ努力セガルベカラズ。

II) 記載ハ繁簡其宜キヲ選ベ 科属種ノ定義記載ハ簡明ヲ旨トスベキモノニテ冗長ヲ忌ム。要ハ重要特徴ヲ漏スコトナク、用字用句ハ正確簡明巧妙ナルヲ尊ブ、徒ニ精密ニ專念シテ冗漫ニ墮スルハ避クベキコトナリ。唯或種ヲ記載スルニ当リ牧野博士ノ如ク單ニ其ノ種ノミノ詳記トシ、何等系

統關係モ類縁關係モナク記載サレル場合ハ、如何ナル些細ノ点モ見落スコトナク、恰カモ精緻ヲ極メシ精巧解剖圖ノ代用ヲナスガ如キモノハ、觀察眼ト記載カトラ養成助長スル意味ニ於テ必要ナリ。然レ此方法ヲ科属種ノ定義的記載ニ一般化スルヲ得ズ、飽迄モ特殊の場合ナリ。

III) 科属種相互ノ重複記載ヲ避クベシ。科属種ノ定義的の特徴文即記相文ヲ書クニ当リ、夫々脱漏ナク精密ニ記載セントスルハ良ケレドモ、其精密ハ冗長トナリ不要特徴ノ羅列ナラバ却テ有害無益ナリ。不要特徴トハ属ノ記相文ニ既記セル科ノ特徴ヲ記入スルガ如キ其ノ最タルモノニシテ、是ハ種ノ記相文ニ於テモ同様ナリ。即種ノ記相文ニハ其ノ種ダケノ特徴ヲ記載スベキモノニテ、属ノ特徴又ハ他種モ有スル普遍形質ノ記入ノ如キハ嚴ニ避クベキモノナリ。即ケ科ヨリ書キ初メタルキハ次ノ階級ノ属ノ記載ニハ其ノ属徴ノミヲ記シ、次ニ種ノ記載ニハ其種徴ノミヲ記載シ、相互間ニ省略ヲ旨トシ各範圍ヲ定メ、努テ重複ヲ避クベシ。変種変形等ノ記載ニ於テモ同様ナリ。其ノ理由ハ分類ノ要諦ハ相互間ノ區別ヲ判然タラシムルヲ本務トスレバナリ。

第二節 記載例及植物記載文ノ改善並批判

○ 植物ノ記載文例 次ニ植物記載ノ數例ヲ掲ゲ、何レノ形式ガ最優良ナルカヲ批判スベシ。

I) 新植物ノ發表ニハ羅列語記相文ノミ有効ナリ。

植物ノ記載文ハ各因皆自國語ニテ記述スル故多趣多様ニシテ一定セズ、故ニ國際的研究ヲ完成スルニハ万国共通ノ記相文ヲ規定スル必要アリ。今コ植物記相文ニ羅典文ヲ使用シ、新種新屬等ノ発表ニハ必ズ羅典文発表ニ限テ有効トシ、他ヲ總テ無効ト規約サレタルハ蓋シ是ガ爲メ也。依テ分類学ノ蓋與ヲ究メ研究ヲ世界ノ学界ニ発表セントスルハ科学的羅典語文章並羅典文法ニ精通スルヲ要ス。

II) 植物ノ記載例。次ニ羅典文・英文和文ノ三例ヲ記スベシ。

i. 羅典語記相文ノ例。上記(1)ノ理由ニヨリ先ヅ羅典語記相文ヲ掲出シ、文章ヲ解剖シ文法上ノ要点ヲ説カントス。

1. かうや-いたどりノ羅典語記相文(理学博士。中井登之進)

Reynoutria hastata Nakai in Journ. Jap. Bot. vol. XIV. No. 11. P. 741. (1938). 以上ハかうや-いたどりノ学名及其出典ナリ。

Caulis gracilis ramosus viridis 3-5 m m.
莖(名。單。男。主)ハ細長(形。男。單。主)多枝(形。男。單。主)緑色(形。男。單。主)三ノ

latus fistulosus. *Ochrea* 5-7 m m.
至5ミノ幅(形。男。單。主)アリ管狀(全。五)。托葉鞘(名。女。單。主)ハ五徑

longa membranacea. *Folia glaberrima*
7シメ長(形。女。單。主)膜質(形。女。單。主)。葉(名。中。複。主)ハ極無毛(形。中。複。主)

hastata vel trigonohastata 6-15 cm.
主。表無毛) 戟形(形。中。複。主)又三角狀戟形(形。中。複。主)六乃至十五セメ。

longa basi 23-9 cm. *lata* *subtus*
長(形。中。複。主)基脚ハ廿三乃至九セメ。幅(形。中。複。主)下面(副詞)

pallida venalosa supra glabra apice
淡色(形。中。複。主)有細脈(形。中。複。主)上面(副詞)無毛(形。中。複。主)先端ハ

acuminata. petioli 3-20 cm. *longi*
銳米頭(形。中。複。主)葉柄(名。男。複。主)ハ三乃至二十セメ。長(形。男。複。主)

erubescens. Flores *adhuc ignoti.*
帶赤色(形。男。複。主)。花ハ(名。複。男。主)今迄(副詞)不知(形。複。男。主)

Nom. Jap. Kōya-itadori からや-いたどり。

Hab. Nondo: prov. Kii, in monte Kōyasan (Kuzō Ue no. 71, Aug. 1911-typus), prov. Simano, Kumamoto (Reinosuke Nishihara, Sept. 14, 1937). 以上ハ産地及採集者ト採集年月ナリ。

ii 英語記相文ノ例。

1. ちしま-やなぎ, 英語記相文 (N. L. Britton & H. A. Brown... 共米國人)

Salix arctica pall. ex *Illustrated flora North. Unit. St. Can.* vol. I. p. 604. fig. 1485. (1913). Arctic willow. Ground willow.

Salix arctica pall. *Fl. Ross. I: part 2, p. 36.* (1788).
A low branching shrub, rarely 5' high, the twigs terete or nearly so. Leaves glabrous, elliptic or broadly obovate, entire, obtuse & usually rounded at the

apex, narrowed or rounded at the base, long-petioled, pale, glaucous & reticulate-veined beneath, 1'-2' long, $\frac{1}{2}$ '-1 $\frac{1}{2}$ ' wide, often darkening in drying, petioles slender, $\frac{1}{2}$ '-1 $\frac{1}{2}$ ' long; aments borne at the ends of short leafy branches, very dense, the pistillate 1'-2' long in fruit; bracts dark purple-brown, oblong to obovate, obtuse, white-villous, persistent; stamens 2; filaments glabrous; style filiform, longer than the stigmas; Capsule conic, villous, very short-pedicelled.

Quebec; Arctic America and Asia, Summer.

III. 日本語記相文ノ例。日本全体ニ共通性アル和文ノ記相文ナルガ。漸次鮮・清・支人ニモ解セラレ。早晚東洋的記相文ニ進出スベキ運命ヲ有スベシ。故ニ是ガ研究ト改良トハ急必要者ナリ。

1. とせぬま-あざみ, 日本語記相文 [根本莞爾著, 日本植物總覽補遺, さく科ノ部, 759頁所載 (昭和十一年六月発行)]

Cirsium homolepis Nakai in Bot. Mag. Tokyo XLIV. 554. (1930).

ヲセヌマアガミ 莖高三尺, 上部産生紫毛ヲ布ク, 葉ハ無毛, 根葉ハ長柄, 莖葉下者ハ有柄, 一回羽狀複生, 長八寸, 裂片ハ披針

形, 全縁或刺縁, 莖葉中者及上者ハ無柄, 抱脚, 刻狀ニ回羽裂房狀花序ハ三四頭花, 或分枝ニ三頭花, 總苞ハ鈍底, 細絲毛散生, 苞片ハ鑿形, 頭花, 長七分, 花冠狀筒部ハ白色, 膨大部ハ紫色, 冠毛ハ白色。本州。

○ 植物記相文ノ改善及植物記載文例ノ批判

I). 植物ノ記載文トシテ最良ナルハ何國語カ。一朝一夕ニ論議シ得ベキ問題ニ非ル故。最簡單ニ述ブレバ新種物発表ニ使用スベキハ羅典文ト決定シアル故 (1930年以後), 此点ヨリ羅典文ノ重要性ハ極別ナレバ (又絶對的) 学者ハ羅典文及羅典文法ニ熟達スル必要大ナリ。然シ各國共ニ其國ノ文化ヲ向上セシムルニハ自國語ノ使用ニ依レベキハ明白ナル故。吾人ハ頗ク日本文 (和文) ノ記相文ニ就テ研究改善スルヲ最良最急務トス。

II). 日本語記載文ノ改善

i. 改良スベキ点 和文記載ノ改良スベキ点即チ目標ハ何ナルカ, 是ニ就テハ種々ノ意見アルベキモ, 特殊ナル場合ヲ除キ一般専門的ニハ次ノ數項ナルベシ (本章第一節, ○分類記載上ノ注意參照)

1. 學術用語ノ一定 人ニ依リ書籍ニ依リ異ルハ不便不幸此上ナシ, 一日モ早く一定シ統制スルノ要切ナルモノアリ。

2. 一般用語ノ吟味 記載用語ニ巧拙精粗ノ別アル故, 従ッテ記載文ハ區々タルヲ免レズ, 用語ノ洗練文章ノ巧微共ニ一段ノ工夫ヲ要スルモノ勘カラズ。

3. 文章ハ最簡明ナルベシ。同一植物ヲ記載スルニ甲ハ20行乙ハ30行ヲ要シ、而モ其内容充實ノ点ニ於テ殆ト同様優劣ナシトセバ、總テノ簡潔ヨリ批判シテ甲ノ文章ノ簡明巧潔ナルヲ取ラサルヲ得ズ。乙ノ文章ノ冗漫不簡潔ハ無用無益取ルニ足ラサルヤ否ヲ俟タズ。以上ハ用語法ノ如何ニ依ル。

4. 語ニ「ハ」ノ使用可否 科学的記載文ハ最簡明ヲ冀グハ今更論スルマデモナン。然ラハ如何ナル方法ニ依リテ簡潔ヲ期スベキヤ、其方法ノ一ツトシテ「ハ」ヲ省略スルハ最簡潔ナルベシ。即ケ是等ハ又中ヨリ省クモ科学的記載文ニハ不都合ナキノミナラス、習熟スレバ却テ簡便ナリ。

5. 文句ヲ簡單ニ短ク書クコト。文章ヲ簡單ナラシムル方法トシテ次ノ如クス、即「良シカラズ」ヲ「不良也」、「勤ナカラズ」ヲ「不勤」、人事ヲ尽シテ天命ヲ待ツヲ「人事待天命」、等ニ書クコト。又「レ……ヲ有ス」,「レ……ヲ有シ」,「レ……ヲ成シ」,「レ……ニシテ」,「レ……ナリ」,「レ……アリ」等ヲ凡テ省略シ文句ノ間ヲ「」又「」等ニテ切レバ意味明瞭トナリ、文章ハ極メテ簡單トナルベシ。世界最簡明文ハ漢文ニシテ、最冗長ナルハ日本ノ口語文ナルヲ三省スベシ。

6. 記載文ニハ口語体ハ不可ナリ。口語体ハ通俗ヲ旨トスル場合ハ格別ナレド、冗長ニ陥リ不要文句、不要結尾多ク、簡明ヲ主トスル科学的記載文ニハ最不良ナレバ是ヲ避クベシ。

7. 重要特徴ノ脱漏ナキ様ニ記載スルコト。此項ニ就テ

ハ第一節。○分類記載ニノ注意(1)ヲ見ヨ。

8. 科屬種変種等相互ノ重複記載ヲ避クルコト。是ニ就テハ第一節、○分類記載上ノ注意(四)ヲ見ヨ。

ii. 最良ノ記載文ハ如何ナルモノカ、植物記載文トシテ最良ナルハ前記ノ八項目ヲ満足セシムル文章ナルガ、ソハ世間ニ仲々得難キモ、羅興記載文ハ概此條件ヲ具備シテ理想ニ近ク、次ハ前記「日本植物總覽」ノ記載文ノ如キハ最良ニ近キモノニシテ、羅興文ヲ直訳スレバ概此文体トナルベシ。

III) 植物記載例ノ比較並批判

i. 植物記載例ノ比較

1. 集成新植物圖鑑 204頁(793回)ニ記載スルモノ、いちやくさう、到ル処ノ山林中稍濕氣アル土地ニ自生スル多年生草本ナリ。葉ハ根生ニシテ厚ク深綠色ヲ呈シ冬ニ萎レモ凋マズ、五六月ノ頃葉間ニ花莖ヲヌクコト五六寸許ニ達シ白色五瓣ニシテ十箇ノ雄蕊ト一箇ノ長キ花柱トヲ有スル雌蕊トヨリナル小花ヲ開ク。時ニ採集栽培シ愛ラシキモノナリ。(世間ニ行ハルハ他ノ圖鑑等ハ次ノ2ヲ除ケバ大同小異ナリ)。

2. 日本植物總覽(訂正増補) 859頁ニ記載スルモノ。
Pirola japonica Sieb. (in Black's List *gyp. pl.* in *Bonplandia*, X. 93)

いちやくさう 多年草、葉ハ莖頂ニ簇生長柄、円形乃至廣卵形鈍頭、脚、乾ケバ下面暗橄欖色、長約二寸、花莖ハ直生、花

ハ總狀花序、黃白色、萼ハ五深裂、裂片ハ橢圓狀披針形、宿存、瓣片五、廣橢圓形、凹面、雄蕊十、柄ハ扁球形五出——山林樹陰、花候五六月、北海道、本州、九州。

ii. 記載例ノ批判 以上ノ1.及2.ノ記載例ヲ至細ニ点檢、比較、吟味セバ; 1.ハ徒ラニ冗長ニシテ不要文句多ク、重要特徴ノ脱漏多ク、花色其他ノ觀察点ニ於テ粗漏誤謬アルヲ悉見スベシ。然レ2.ハ簡明ニシテ要領ヲ得、重要特徴モ要記セリ、是等ノ記載ハ稍理想ニ近キモノナレド尚改善ノ餘地ナキニ非ズ。例ハバ、根莖ノ状態、葉縁及柱頭ノ記載、葉ト花莖トノ長サノ比、葉裏ノ色彩等ヲ脱漏セルコト、其他生育狀況等ヲ記載セバ一層宜シカラシ。其他L⁷, L⁵, L³, L¹等ノ使用法、理想的記相文ノ实例等ニ就テハ次例ヲ見ヨ。尚植物採集及分類・解剖組織実習等ニ就テハ巻頭「豫備編」第九及第十ヲ精讀セヨ。

iii. 植物記相文ノ实例。次ニ記相文ノ範例ヲ掲出ス。但詳細ノ記相文ナルニヨリ、別ニ重要特徴ニ下線ヲ附セシ部分ノミニテ簡明ナル記相文ヲ作レ(書換ヘヨ)。

Taraxacum platycarpum Dahlst. in Act. Hort. Berg. IV. 2. p. 11. (1907); — Makino et Nemoto Fl. Jap. ed. 2. p. 1273. (1931). pro parte; — Nemoto Fl. Jap. Sup. p. 830. (1936); — H. Koidzumi Journ. Jap. Bot. X. p. 315 (1934).

くわんとう-たんぽぽ — H. Koidzumi Journ. Jap. Bot.

Fl. p. 491. (1933).

形質、全株小形~中形、葉稍大形、稍多葉、黃花、高10~20厘20~27セメ内外; たんぽぽ及ひろは-たんぽぽニ近似スルモ全然別種ナリ。

根ハ1~2頭、細短~稍長大、黒褐色、頸部鱗屑粗~密着。葉ハ開出~斜上、稀垂直生、15~35葉生; 上面綠色、下面淡綠色; 表面細毛粗生稀稍密生、表面粗生~無毛、稀両面無毛; 葉形~倒披針形、稀長橢圓狀、葉形、概鈍圓~円頭、鈍端、厚微凸、尖端、狭~狹楔脚、概沿下; 葉柄ハ扁平、狹長、多少有翼、基脚最大幅; 根頭大下向不整、羽淺~深裂、稀殆全裂又微小齒牙縁~缺刻縁; 羽裂片ハ類三角~長三角形、銳~鈍尖頭、全縁~細齒牙縁; 頂裂片ハ類三角形~截狀三角形; 間裂片ハ多少垂生、類三角~長三角形、概微小形。花莖ハ1~12、比較的細長; 花時葉ト同長内外又遠超出; 上端部白~淡褐白、綿毛~蜘蛛毛~稍密生、其他ハ殆無毛~少毛稀稍密毛。頭花ハ小~中形、徑2.5~4.5セメ、内外、黃色; 總苞ハ橢卵底稀倒卵底、淡綠色有濃暗綠中肋脈、明2群列、列片ハ概有毛有角; 總苞外列片群ハ2.5~3列生、腹接斜上、稀多少散開、列片ハ長橢圓狀卵形~全狀披針形、長7~10セメ、幅2.5~4セメ。鈍~鈍銳頭、稀無角、粗~密毛縁、并以下多少半透明膜縁、背部無毛稀少毛、不明網脈~多行脈; 角狀突起ハ概大形、微小形、類三角~長三角形、長0.3~2.5セメ、全縁; 同内列片ハ橢狀披針形~鐮形、外列片ノ倍長内外、鈍銳頭、狭透明膜縁、上部多少粗細毛縁、無角、角形ハ全上記; 舌狀

小花ハ黄色，外列者下面多少有暗褐紫條，長10—15ミメ，内外，筒部ニ白細毛疎々粗〜極粗生稀粗生，毛ハ1〜6細胞。
 瘦果ハ紡錘狀長楕圓形，大頭截頂，長4〜5ミメ，淡褐〜黄褐色；
 果頸ハ倒凹錐形，有節〜稍無節，1〜2縱溝，極微小刺漸布；
 果体ハ楕圓形，5〜6縱溝，斜上無枝〜稍無枝ノ鈍頭大線粗〜稍密生，漸下鈍疣起ニ変化，上半部極微小刺稍粗〜散生，下半部概無疣無微小刺平滑；
 果脚ハ下部漸減溝及肋，無疣，極微小刺粗生，兩側小刺ノ列生；
 果嘴ハ線形，果本体ノ2倍内外長，淡色；
 冠毛花ハ倒凹錐形概無盤無齒，稀！側部有不完盤狀；冠毛ハ∞，叢生，淡褐白色〜淡褐色。

成分 全草特ニ根ニ Taraxacin ナル苦味質，Taraxasterol, Inulin, Dioxyzimmtsäure, P-Oxyphenylacetat, 樹脂等ヲ含有ス。

生態 陽地ヲ好ミ，原野・山麓・路傍堤上・園圃等ニ生ジ，ミヤマクワンとうたんぽぽノ外ハ山岳地ニ生ゼズ；
 点生〜群生シ，地味ニ依テ花葉ニ大小ノ差アリ，
 芝生等ニ生ズル時ハ特ニ小形小花ナリ。花候ハ自然的ニハ三月中・下旬ニ初リ四月末前後最盛期ニ入り五月半ヨリ漸減シ六月中・下旬ハ殆ど花ヲ見ズ。
 花ハ明暗ニ依テ開閉シ，果ハ晴天ニ凡ニ依テ開放飛散ス。

分布 和名ノ示ス如ク関東地方一円即武蔵ヲ中心トシ，北ハ常陸，下總，相模，駿河ニ分布スルモ未ダ上野，下野ニ産否確

證ヲ得ザルモ各其南方ニハ分布スルナラン。其他遠江ノ一部ヨリ信州下伊那郡南部ニ進入セリ，又隔離シテ仙名市ノ東北大学構内ニ生ズルハ嘗テ植木ニ添付シテ運バレシモノト解スベシ。日本特産。

効用 生薬ハ「蒲公英」*Radix Taraxaci cum Herba*ニシ旧西方薬ナリ。其苦味質ハ消化不良，緩下劑トシテ便秘ニ用ヒ，煎薬ハ解熱・発汗・健胃・強壯・淨血・胆汁分泌促進ノ諸薬トナリ，民間薬トシテ胃・肝臓病・解熱・黄疸・水腫・食毒・喘息・子宮病・脚氣・血ノ道（全乾草・食前煎服）トナリ。乳分泌促進（全草食，又蒲公英湯）トシ，根ヲ焙リ粉末トシ珈琲代用トス。又若草ヲ食用トス。

備考 諸書ニ本種ヲたんぽぽ (*T. londoense Nakai*) 日本中部ヨリ北海道中部トクワンセイ-たんぽぽ (*T. japonicum Koidz.*) ト混同スル人多シ。注意ヲ要ス。(第一編總論終)

第二編 藥用植物分類学各論

○序説

(1) 本編ハ藥用植物ノ分類各論ニシテ、既知ノ藥用植物ヲ自然分類ノ順序(門並立ノ見解ニ基キ)ニヨリ各門ヲ受ニ綱目科屬種変種等ニ分類シ、漸次下等ヨリ高等ニ記載シ、各科ヲ標準トシ、其下ニ科中ノ藥用植物ヲ簡明表示的ニ記載シ以テ比較研究ト記憶ト見出ントニ便ナラシムベシ。而シテ植物自体ノ形質的記載ハ概テ省略スレニヨリ、此方面ハ種々ノ植物図鑑・藥用植物図説・就中日本植物圖誌ヲ参照スベシ。

(2) 本編ハ一面生藥品ノ研究ヲ主トスルコト生藥学ノ如シト望モ、是ト異ナリ既知ノ藥用植物全体ヲ一定ノ分類系統下ニ統括シ、組織的並類縁的ニ序列シ、以テ統一セル系統的藥学智識ノ習得ヲ目的トス。故ニ生藥学ノ断片的鏡檢的ナルト異レリ。而シテ植物ノ類縁ハ独リ形態的ニ著甚ナルノミナラズ、近時各科屬間ニモ分類学上ノ系統類縁關係ト併行シテ化学成分ノ類縁的関係ノ行ハル、コト明白ナルヲ知ルニ至レリ。是レ分類学ノ系統的研究ノ一新方面ヲ得ベキハ勿論ナリ。

(3) 抑藥用植物学ノ本領ハ徒ニ分類学的記載並非藥用植物ノ記述ニ傾クコトナク、努テ藥用植物ノ記載ヲ主トシ、特ニ其化学成分ト藥理藥効等ノ応用的方面ノ記述ニ重点ヲ置

クベキモノタルマダヲ俟タズ。故ニ本編ハ分類学的方面ノミナラズ特ニ生藥・化学成分・応用ノ三方面ニ重点ヲ置キ其完璧ヲ期シタルニヨリ、従来ノ藥用植物学書トハ大差アリテ聊カ時代ノ要求ニ応ジ得ルモノト信ズ。

(4) 庶幾ハ本編ハ藥学研究者ニ対シ植物成分研究上ノ指針トナリ、疾病治療上左右ノ友トナリ、生藥学研究者ノ手引トナリ、各方面ニ裨益スレ処アラバ著者ノ幸甚之ニ過ルナシ。尚一般植物研究者ニ対シ、応用方面ノ知識ヲ供給シ、従来ノ分類ト記載ニノミ專念セシ分類学ヲシテ利用厚生ナル重要方面ノ最持シ、國家ノ要求ガ此ノ方面ニ絶大ナルヲ感得シ、凡テノ応用方面ニ向テ分類学的開拓ノ勦與ニ寄與スル処アラバ、本書ノ使命ハ達セラレタルニ庶カレベシ。

(5) 記述中品種名ノ前ニ附セル○印ハ局方藥品又其材料、△印ハ準局方藥品又其材料、漢ハ和漢藥、民ハ民間藥ナリ。

○植物界ノ二大別

{ 分蘖又孢子ヲ生ジテ繁殖ス…第一部 孢子植物(隱花植物部)
花ヲ咲キ種子ヲ生ジテ繁殖ス…第二部 種子植物(顯花植物部)

第一部 孢子(隱花)植物部

(I) Divisio Sporophyta (Cryptogamae)

特徴 第一門 裂面植物以下第十七門羊齒植物迄ヲ總括シテ孢子(隱花)植物ト称ス。最下等者ハ概顯微鏡的單細胞ナ

ルガ; 稍高等ノ菌藻状者ハ極多細胞ノ組織ヲ有シ, 屢者大
トナルモ正シキ莖葉根ノ解剖学的區別ナク, 往々菌類及地
衣類以下十五門ヲ總括シテ葉狀(無莖)植物門 (*Thallophyta*) ト
稱セラル。本門ノ植物ハ分岐 (*Division, Divisio*) 又孢子(芽
胞) (*Spore, Sporen*) ヲ形成シテ無性生殖ヲ行フカ, 或ハ接合
(*Conjugation, Conjugatio*) 又授精 (*Fertilization, Befrucht-
ung*) = 依テ有性生殖ヲ行テ繁殖ス。

○ 孢子(隱花)植物ノ分類 ----- 17門ノ檢索表

- 植物体ハ多細胞ヨリ成リ, 菌類ト藻類トノ共生体ナリ -----
- 第15門 地衣植物門
- 植物体ハ單細胞又多細胞ヨリ成リ, 單獨生物体ナリ ----- 1
- 多細胞ヨリ成ル徳利狀又壺狀ノ有頸雌器ヲ生セズ ----- 2
- 多細胞ヨリ成ル徳利狀又壺狀ノ有頸雌器ヲ生ズ ----- 15
- 栄養体ハ無細胞膜原形質ノ変形体ヨリ成リ, *Amoeba* 狀運
動ヲナス, 孢子囊ヲ成ス子実体ハ比較的犬形ニシテ多
型ナリ ----- 第3門 粘菌植物門
- 2 栄養体ハ無細胞膜原形質ノ変形体ヨリ成ゾス ----- 3
- 無葉綠素或核ノ極微單細胞ナルカ, 又葉綠素並藍色素ヲ有
スル單細胞又簡單組織ヲナシ總テ分裂増殖ス ----- 4
- 3 單細胞又多細胞ヨリ成リ, 藍色素並葉綠素ヲ同時ニ有セズ
----- 5
- (葉綠素ヲ缺キ, 極微小ノ單細胞ニシテ有機物寄生ヲナス,

- 4 第1門 裂菌植物門
- 体中ニ葉綠素及藍藻素ヲ同時ニ混有ス -----
- 第2門 裂藻植物門
- 單細胞ヨリ成リ, 全表面ヨリ固体養分ヲ取り, 或特別ノ口
部ヨリ取ル, 通常1~數本ノ鞭毛ヲ有ス -----
- 5 ----- 第4門 鞭毛植物門
- 特別ノ口部ナク, 又全表面ヨリ固体養分ヲ取ラス ----- 6
- 單細胞又其群体ヨリ成リ, 普通ハ体ニ横溝ト縱溝トアリテ
溝中2鞭毛ヲ有シ, 2ヶ以上ノ鏝狀板ヨリ成ル細胞膜ヲ
有スルカ, 又無溝, 1~2ヶノ鞭毛ヲ有シ, 硅質小桿ヨリ成ル
細胞膜ヲ有ス ----- 第5門 雙鞭植物門
- 6 縱横走セル2鞭毛ヲ缺クカ, 又硅質小桿ヨリ成ル細胞膜ヲ
有セズ ----- 7
- 單細胞又多細胞ヨリ成リ, 葉綠素ヲ缺キ, 普通菌絲ト稱スル
細長キ細胞ヨリ成リ, 他物ニ寄生ス ----- 第14門 真菌植物門
- 7 單細胞又多細胞ヨリ成リ, 必ず葉綠素又之ニ近似セル色素
ヲ有ス ----- 8
- 單細胞植物ニテ細胞膜ニ硅酸ヲ多含シ外殼ヲ成シ, 硬質定
形ナリ. ----- 9
- 8 概複細胞植物ニテ極稀硅酸ヲ含ムノミ, 單細胞植物ノ場合
ハ細胞膜ニ硅酸ヲ含マズ ----- 10
- 外殼ハ棒狀ヲナシ, 1~2本ノ鞭毛ヲ有シ, 黃褐色ノ色素体
ヲ含有ス ----- 第6門 硅鞭植物門
- 3

- 9 { 外殼ハ硬着狀又行芋狀ヲ呈シ, 矽褐素ヲ含有シ, 柱々群
体ヲ成ス 第8門 矽藻植物門
- 10 { 單細胞ヨリ成リ, 葉綠素ヲ有シ, 鞭体細胞ノ接合ニ依ル接
合生殖ヲ營ミ, 游走子ヲ生ゼズ 第9門 接合植物門
- 單細胞又多細胞ヨリ成リ, 体細胞ノ接合ニヨル接合生殖
ヲ營ムコトナシ. 11
- 11 { 多細胞ヨリ成ル褐色ノ藻類ニシテ, 藻褐素ヲ含有ス
..... 第12門 褐藻植物門
- 單細胞又多細胞ヨリ成リ, 藻褐素ヲ含有セズ 12
- 12 { 多細胞ヨリ成ル帶紅色又帶紫色ノ藻類ニシテ, 藻紅素ヲ
含有ス 第13門 紅藻植物門
- 單細胞又多細胞ヨリ成リ, 藻紅素ヲ含マズ, 必ズ葉綠素ノ
ミヲ含有ス 13
- 13 { 鞭毛ハ不等長, 葉黃素ヲ多含シ同化作用ノ結果脂油ヲ生
ズ 第7門 不等毛植物門
- 鞭毛アル場合ハ鞭毛ハ同長, 葉綠素ヲ多含シ同化作用ノ
結果澱粉ヲ生ズ 14
- 14 { 多細胞ヨリ成リ, 5ヶノ細長キ細胞ニテ螺旋狀ニ包圍セ
ラレタル雌器ヲ生ズ 第11門 輪藻植物門
- 單細胞又多細胞ヨリ成リ, 前記ノ如キ雌器ヲ生ゼズ, 帶
綠色ノ藻類ナリ 第10門 綠藻植物門
- 有性代植物ハ扁平葉狀ナルカ, 又莖葉ヲ有シ, 其上ニ有
柄又無柄ノ無性代植物(子囊ヲ有スル)ヲ寄着セシム

- 第16門 苔蘚植物門
- 15 { 無性代植物ハ良好發育シ, 維管束ヲ有シ, 明ニ莖・葉根ヲ具
備シ, 1種又2種ノ孢子ヲ生ズ, 有性代植物ハ前葉(扁
平)体ナリ 第17門 羊齒植物門

第一門 裂菌植物門 (Bacteria, 細菌類)

I. Phylum Schizomycetes

特徴一 單細胞無核, 至尙至單ノ生物ニシテ形態ハ球形・楕
円形・桿形・コマ状・螺旋狀・絲狀(実ハ縱群卷) 等アリテ大々球
菌桿菌・コマ菌・螺旋菌・絲狀菌ノ名アリ。大サハ徑 1~5μ
以内ナルガ最小種 *Pseudomonas olivae* ハ 0.2μニ過ギズ,
長サハ桿菌ニテ 3~6 μヲ算ス。構造ハ細胞質ニ細胞膜ヲ
被リ膠様粘液ヲ分泌シ時ニ鞭毛ヲ生ジ, 空胞又孢子ヲ藏シ
或色素又硫黃粒ヲ包ム。運動ハ鞭毛 (Cilia) ニ依ル。營養
ハ菌類同様に炭酸同化機能ナキ故寄生又寄居(腐生)ニ依リ有
機物ヲ取り生活ヲ營ム; 其際物質ノ分解・腐敗・醱酵シ, 或傳染
性疾患ヲ起シ, 又発光ヲ起シ, 色素ヲ産出ス, 外ニ共生者(例
根瘤細菌・マンリヤウノ葉綠粒中細菌・動物発光器内細菌)アリ。
或者ハ粘膠質ニ依リ相集簇シテ菌簇 (zoogloea) ヲナス,
粘液菌簇・膠様菌簇等アリ, 又同種群棲密着シ, 絲狀・盤狀・團塊狀・
放射狀ノ聚落 Colony, Kolonie ヲナス。形モ絲狀・双球狀・分
岐狀 (Cladotrix) 等アリ。生殖ハ主ニ体ノ二分裂ニ依レ
テ, 屢々体内ニ孢子ヲ生ズ, 其原因ハ養分缺乏・乾燥・寒暑ノ激

烈等外圍條件ノ不良ニ因ル、胞子ハ概体眠ス。胞子ニ2種アリ、内生胞子(Endospore, Endosporen 前記ス)及外生胞子一名節胞子(Exospore, Exosporen; Arthrospore, Arthrosporen)ト云フ、スハ細胞自身ノ厚膜化ニ依リ腐食珠状ニ連ル。

③ 類縁系統上孤立ノ一群ナリ、恐クハ單獨立ノ系統樹ニ屬スルモノナラン。

○ 裂菌植物(細菌類)ノ分類-----2目8科ノ檢索表

A₁体内ニ硫黄粒又細菌色素(紫紅)ヲ含ス-----第1目真正細菌目

B₁体ハ球状ヲ呈シ、独生又群体ヲナス

C₁体ハ概球状幼者ハ稍半球状往々有纖毛、單独・双球状連鎖状・葡萄状等ノ群体ヲナス病原菌多シ-----1. 球菌科

C₂体ハ球状ナルモ連鎖線状群体ニ集リ放線状又介岐状聚落ヲナス、土中又動物寄生ナリ-----2. 連鎖菌科

B₂体ハ非球状ナリ

C₁体ハ絲状ノ群体ヲナシ、鞘状ノ被膜ヲ有シ、往々大聚落ヲナス、汚水水道水中ニ生ズ-----5. 絲状菌科

C₂体ハ桿状螺旋状及弧状等ニシテ鞘状被膜ナン。

D₁体ハ桿状又棒状、粘質被膜アリ又ナシ、体ハ曲ラズ

E₁体ハ桿状又棒状無粘質被膜、長軸ニ斜長分裂ス-----3. 桿菌科

E₂体ハ桿状、有粘質被膜靜ニ運行ス、偽変形体ト称スル聚落ヲ成シ有柄又無柄ノ胞囊ヲ作ル

-----6. 粘液細菌科

D₂体ハ螺旋状又弧状又ココマ状ヲナシ、多少底田ス

-----4. 螺旋菌科

A₂体ハ無色又有色ニシテ硫黄粒ヲ含ミ、群体ヲナシ又ナサズ

-----第2目、硫黄細菌目

B₁絲状ノ群体ヲナシ、細菌色素ヲ含マズ-----1. 硫黄細菌科

B₂群体ヲナシ又ナサズ、紅又紫色ノ細菌色素ヲ含ム-----2. 紅色細菌科

第一目 真正細菌目 Ordo 1. Eubacteria

1. 球(狀)菌科 Coccaceae (1)丹毒菌 *Streptococcus erysipelatos* Fehleisen

(2) 乳酸菌 *Micrococcus acidi lactici* Marpm. 乳酸ヲ生ジ乳汁ヲ凝固ス。(3) 亞硝酸菌 *M. nitrosus* Migula 地中

ノアンモニア化合物ヲ酸化シ亞硝酸ヲ生ズ。(4) 淋病菌 *M.*

gonorrhoeae Flügge (5) 橙黄色膿腫菌 *M. aureus* Mig.

(6) 白色膿腫菌 *M. pyogenes* Mig. (7) 遊離亞素同化菌 *Arzo-*

tobacter chroococcum Beijer.

2. 連鎖菌(アクキノミケス)科 Actinomycetaceae (1) Acti-

nomyces 土中又寄生。

3. 桿(狀)菌科 Bacteriaceae (1) 乳酸細菌 *Bacterium*

acidi lactici Mig. 糖液ニ生ジ乳酸(全糖酵)ヲ生ジ、乳汁ヲ凝固ス。(2)酢酸菌(雙酢バクテリア) *Baceticum jopf* 酒精ヲ酸化シ 酢酸(全糖酵)ヲ生ズ。(3)尿素菌, *B. ureae* Leube 尿素ヲ分解シ炭酸アムモニアヲ生ズ(アンモニア糖酵又尿糖酵)。(4)硝酸菌 *B. nitrobacter* Mig. 地中ノ亜硝酸ヲ硝酸化ス。(5)結核菌 *B. tuberculosis* Mig. (6)癩菌 *B. leprae* Mig. (6)腐敗菌 *Bacillus vulgaris* Mig. 蛋白質ノ腐敗糖酵。(7)根癌菌(豆根菌) *B. radiciicola* Beyerinck (8)窒素同化菌 *B. Pasteurianus* Winog 地中 (9)破傷風菌 *B. tetani* Nicolaier (10)ペスト菌 *B. pestis* Kitasato et yersin

4. 螺旋菌科 *Spirillaceae* (1)コVヲ菌 *Microspira Comma* Schroter (2)齒尿菌 *Spirillum spuntigenum* Miller (3)長齒尿菌 *Spirochaete dentium* Koch (4)微毒菌 *S. pallida* Schaudin (5)再歸熱菌 *S. Obermeieri* Cohn.

5. 絲狀菌科 *Phycobacteriaceae* (1)鉄細菌 *Crenothrix polyspara* Cohn 鉄水中ニテ更酸化鉄ヲ酸化鉄トス。(2)齒尿絲狀菌 *Leptothrix buccalis* Robin (3)硫黃絲狀菌 *L. Sulphurea* Miyoshi 温泉中。

6. 粘液細菌科 *Myrobacteriaceae* (1) *polyangium* 朽木、地表上。

第二目 硫黃細菌目 Ordo 2. Thiobacteria

1. 硫黃細菌科 *Beggiatoaceae* (1)硫黃細菌 *Beggiatoa alba* Trevisan 温泉又汚水中。(2) *Thiothrix nivea* Winogradsky 温泉中。

2. 紅色細菌科 *Rhodobacteriaceae* (1)血色硫黃螺旋菌 *Thiospirillum sanguineum* Winogradsky 沼地生。

◎ 殺菌劑(消毒藥)ニハ次ノ種類アリ。皆水溶液トス。

1. 昇汞水(0.1%) 病院用、器物及人体消毒用
2. 石炭酸(2-3%) 一般用、器物及人体全上
3. フォルマリン(3-5%) 市販品ハ30~40%、器物消毒用
4. アルコール(酒精)(70-90%) 純酒精ハ殺菌力ナシ、器物及人体全上。
5. リゾール(5~10%) 一般用、器物及人体全上。
6. 過マンガン酸加里(0.1~10%) 特殊用
7. 塩素水。漂白粉水ニテモ可、塩素量アル程度ニ稀ク人全上。
8. 過酸化水素(オキシフル) 人体消毒ニハ市販品其外使用口中消毒ニハ水ヲ倍加(過酸化水素水)ス。
9. 硼酸水 消毒力弱シ、特殊消毒用又消毒用
10. 熱湯 100°C 以上又120°C 以上、器物衣類此他、日光消毒(殺菌)法アリ。

第二門 裂藻植物門 (藍藻類, 分裂藻類)

II. Phylum Schizophyceae (Cyanophyceae)

特徴 一 体ハ無核又或有核(?)ノ單細胞又或多細胞群體(叢分
離増殖スル故)ヲナシ, 連鎖的絲狀又狀念珠狀ヲナシ. 管胞
頂ニ包圍セヨレ, 概藍綠色ヲ呈スルモ屢紫又紅色ナリ. 是
葉綠素ノ外ニ藍藻素(Phycocyan)又藻紅素(Phycery-
thrin)(或双方同時ニ)ヲ細胞質中ニ溶存スルニ依ル. 生殖
ハ細胞ノ2分裂ニ依ル外, 細胞自身肥大増厚膜ニ依テ外生
胞(休眠孢子)ヲトナル. 分布廣ク湿地滯水ニ群生シ, 藪水面希
惡臭, 其他地上壁面温泉中ニ生ジ着色ス. 又高等植物ノ胞
間或組織腔中ニ生活(例-Anabaena ハあかうきぐさ Azo-
lla ノ葉中ニ又そてつノ塊根中ニアリ, 苔類 Blasia ノ葉
中ニアルモノ, 地衣体ヲ形成スルモノ等)ス.

◎ 系統上他ト類縁關係ナシ, 恐クハ單獨ノ系統樹ナラン.

○ 裂藻植物門 (藍藻類) ノ分類

----- 2目7科ノ檢索表

○ 目ノ檢索表

單細胞又群體ヲナシ, 生殖ハ体細胞ノ2分裂又分生胞子
(内生)ニ依ル----- 第1目, 球子目 Coccogoneae (1~2科)
多細胞絲狀又紐狀ヲナシ生殖ハ連鎖体又休眠胞子(外生)ニ
依ル----- 第2目 紐子目 Hormogoneae (3~7科)

○ 科ノ檢索表

- 細胞ハ卵形又橢圓形箇々離生又短絲狀群體, 細胞内ニ多
胞子ヲ生ジ増殖ス, 海藻上又温泉中----- 2. カメシフォン
科 Chamaesiphonaceae
- 細胞ハ球形橢圓形円盤又円柱形ヲ呈シ, 箇々離生又群體ヲ
ナス----- 1
- 細胞ハ球形箇々離生シ, 又球包ニテ不整形群體ヲナシ, 概
細胞分裂ニテ増殖ス, 水生(あそて, みづのはな)----- 1.7
1. ロオコックス(球狀藍藻科 Chroococcaceae
- 細胞ハ絲狀ノ群體群體ハ分離シ短絲(連鎖体 Homogo-
nien)ヲ生ジ増殖ス.----- 2
- 絲狀群體ハ毛狀先端ヲ有シ, 概境界細胞(Grenzellen)一
名異形細胞(Heterocysten)ヲ有シ, 屢假枝ヲ有ス-----
2. フリブヨリア科(藍藻)科 Rivulariaceae
- 絲狀群體ハ毛狀ノ先端ヲ有セス----- 3
- 絲狀群體ハ無枝ナリ----- 4
- 3. 絲狀群體ハ有枝ナリ----- 5
- 絲狀群體= 境界細胞ナシ, 概運動力アリ----- 3. オスキ(シ)
ヲトアリ (藍藻)科 Oscillatoriaceae
- 4. 絲狀群體ハ球形細胞ヨリ成リ, 有境界細胞----- 4. ノストック
(念珠藻)科 Nostocaceae
- 絲狀群體ハ假枝ヲ有シ境界細胞ヲ具フ----- 5. スキト(シト)
- 5. ネマ(單列藻)科 Scytonemataceae

絲狀群体ハ眞枝ヲ有シ、境界細胞ヲ具フ…… 6. スチゴ
ネマ(多列藻)科 *Stigonemataceae*

○ 分類 — 主ナル科及其例ヲ次記ス

1. 球状藍藻科 *Chroococcaceae* (1) すねせんじのり。

Phyllocladus sacrum Suringar 熊本市水前寺池産、塊状
大小不同、水前寺菘ニ源キ食用トス、高嶺。福岡縣産ノ同種
ヲ壽仙苔ト称ス

4. ねんじゆも科 *Nostocaceae* (1) ねんじゆも(みつたま)

Nostoc commune vaucher 及かもがほのり 一名あねがは
くわげ *N. verrucosum* Vauch.ノ群体ノ聚落ハ褶皺塊
状山間ノ湿地又清流中ノ岩上生、青黒色、三杯酢トシテ可食。

7. *Rivulariaceae* (1) あらみどり(海竜菜) *Brachytrichia*
Quoyi Born. et Flah. ハ琉球、台湾ノ海岸ノ岩上ニ生ジ食
用トス。

第三門 粘菌植物門(変形菌類)

III. *Phylum Myxomycetes* (*Mycetozoa, Schleimpilz*)

特徴 — 粘菌類ハ死物寄生ニテ無葉緑素ナリ。其營養体
ヲ変形体又原形体 (*Plasmodium*) ト称シ、裸出原形質塊ノ
集團ナリ、粘液状多核有偶足ニテ朽木上又湿地、落葉上等ヲ
匍行シ、不定形ニテ大小(最大ハ1平方米)、色彩変化多シ。
変形態成熟スレバ其ノ全面ヨリ∞ノ孢子囊(芽胞囊) *Spo-*
*rangium*ヲ挺出シ、中ニ∞ノ孢子 (*Spore, Sporem*) ト細

毛体 (*Capillitium*) ヲ生ジ、後者ニ依テ孢子ヲ射出ス。
孢子ハ1有核、発芽スレバ1鞭毛アル游走子(游走細胞)
Swarmspore, Schwärmer トナリ、2分法ニ依リ胚ニ
分裂ス。後此游走子ハ各変ジテ粘液アメーバ(アメーバ細
胞 *Myxamoeba, Myxamoeben*) トナリ、漸次且ニ癒合シテ
着大ノ原形体ニ生長シ、孢子形成ヲ繰リ返ス。孢子囊(一名
子囊)ノ形態ハ菌蕈類ノ子實體ニ近似シ、有柄又無柄然モ
変化多ク奇々妙々ナリ。本門ノ植物ハ系統上他ノ門ニ類縁
ナク彈弓形虫類 *Amoebida* ニ近似ス。

◎ 本門ノ植物ハ特ニ人生トノ關係ヲ有スルモノナシ。

例. むらさきほこりかび(びかうどたけ) *Stemonitis fusca*
Roth. 朽木上。しちじくうつぼがひ *Diaachea leucopoda*
Rost. 枯葉上。

第四門 鞭毛植物門(鞭毛虫類)

IV. *Phylum Flagellatae*

特徴 — 單細胞微生物、形態上 *Protozoa* 及 *Algae* ニ近似ス。
体外表ハ概硬化被膜状稀裸出 *Amoeba* 状、1~数本ノ鞭毛ヲ
有シ以テ運動ス、体内ニハ核ノ外ニ伸縮胞 (*Contractive*
vacuole, vakuole)、色素体(緑・黄褐等)、眼点 (*Eye spot,*
Augenfleck) 等アリ。無色素体者ハ澱粉油類等ヲ作ヨス
故固形物ヲ攝取(動物的營養)ス。概水中独生ナレド他ニ
活物又死物寄生者アリ、生殖ハ無性的ニ体ノ縱裂ニヨル。

◎ 縦糸双鞭藻、珪酸鞭毛類、珪藻、接合藻、緑藻、褐藻等ノ諸門ハ凡テ本門ヨリ介派セリトスレ一先説アルモ；余ハ地球上各地ニ鞭毛虫様生物發生シ其等ハ別々ニ各地方ニ以上ノ諸類ニ適化セシモノト思考ス。

自然物ハ動物・植物ニ限ラズ、鉱物モ岩石モ地球上各地ニ同種類ハ稍時ヲ同シウシ場所ヲ異ニシテ發生シ發達セシモノナルベシ。故ニ遠隔ノ地ニ於ケル近似種又同種ト思ハルル偶然ノ一致多ク、實際ハ多少ノ差異アルヲ免レザルベシ、特ニ大海洋ヲ以テ隔テシテ爲合ハ尙更同種類ト思ハル中ニ先祖ヲ異ニスル偶然ノ一致アルベシ。

○ 鞭毛植物門ノ分類……7綱ノ檢索表

- 1. 体ハ表面一定場ニ於テノミ固形養分ヲ取ル……………1
- 2. 体ハ偽足ニヨリ体表面全部ヨリ固形養分ヲ取ル……………第1綱 周口鞭毛綱 *Pantostomatales*
- 3. 体ハ1ヶノ定レル口部ヨリ固形養分ヲ取ル……………2
- 4. 体ハ2ヶノ定レル口部ヨリ固形養分ヲ取り4ヶ以上ノ對ヲナス鞭毛ヲ有ス……………第3綱 二口(両口)鞭毛綱 *Bistomatales*
- 5. 伸縮胞ハ体ノ前端ニ位シ、1系統ヲナシテ共同ノ運動ヲ営ミ体ハ非 *Amoeba* 狀……………3
- 6. 伸縮胞ハ齒々独立ニ伸縮スルカ又無シ、体ハ屢 *Amoeba* 狀ナリ……………4

- 7. 伸縮胞ハ体ノ深部ニアルノケ、全ク伸縮セザル或ハ弱ク伸縮スル主伸縮胞ト數ヶノ長ク伸縮スル副伸縮胞トヨリ成ル、体中屢葉緑体ヲ含有ス……………第6綱 緑虫綱又筋經鞭毛綱 *Euglenales*
- 8. 伸縮胞ハ2×3ヶアリ、体ハ概葉緑体ヲ有シ眼点ヲ具ヘズ……………第7綱 綠色鞭毛綱 *Chloromonadales*
- 9. 体ニ澱粉ヲ生ジ、無色又種々ノ色ヲ有スル1又2ヶノ色素体ヲ含ム……………第5綱 澱粉(褐色)鞭毛綱 *Cryptomonadales*
- 10. 体ニ澱粉ヲ形成セズ……………5
- 11. 体ニ黃褐色ノ色素体ヲ有シ、脂肪・油・ロイコシンヲ生ズ……………第4綱 黃色鞭毛綱 *Chrysomonadales*
- 12. 体ニ色素体ナク無色ナリ……………第2綱 單口鞭毛綱 *protomastigales*

○ 介類——主ナル綱及科並其例ヲ次記ス

ii. 單口鞭毛綱 1. トリパノソーマ科 *Trypanosomaceae* (1) 睡眠病原虫(帶) *Trypanosoma Gambiense*, (2) スーラ (*Surra*) 病原虫 *T. Evansii*, (3) *T. Brucei* (獸類ノ病原體), 2. テトラミツス科 *Tetramitaceae* (1) *Tetramitus* 人・蛇・昆虫ノ腸ニ寄生ス。

iv. 黃色鞭毛綱 1. ひかりも科 *Euchromulinaceae* (1) ひかりも(光藻) *Chromulina Rosanoffi* Bütschli 河底中ニ生ジ色素体ハ光線ヲ反射発光ス。2. みづむぎ科 *Hydruraceae*

(4)みづを *Hydrurus foetidus* Kirchner 寒水流ノ石面ニ着生シ寒天質褐色ノ藻状ニ群生ス。

Vi. 紡錘鞭毛(緑虫)綱 1. みどりむし科 *Euglenaceae* (1)みどりむし(ユークレナ) *Euglena viridis* Ehrenb. 緑色ヲ呈シ淡水ニ生ズ、趨光性アリ。

第五門 雙鞭植物門 (虫藻類)

V. Phylum Dinoflagellatae (Peridiniaceae)

特徴 — 單細胞微生物、層連鎖状群落ヲ作り概シ2枚ノ殻状小板ヨリ成リ、横溝又縦横2溝又無溝ナリ。鞭毛ハ概シ2本、1本又無シ、運動ヲ司ル。生殖ハ2介裂ニ依リ、娘細胞ハ殻ノ半面ハ母体ヨリ半面ハ新生ス、時ニ孢子ヲ形成ス又游走子及接合孢子ノ形成アリ。著名ナル浮游生物 (*plankton, plankton*) ニシテ特ニ海面ニ多ク、概シ発光ニ依テ不知火ヲ出現ス、又死物寄生者アリ。

分類 — 1. 虫藻科 *Peridiniaceae*, 2. 夜光藻科 *Gymnodiniaceae*, 3. *Dinophysaceae*, 4. *Prorocentraceae*, 5. *Phytodiniaceae* / 諸科本門ニ屬ス。

第六門 硅鞭植物門 (硅質鞭毛虫類)

VI. Phylum Silicoflagellatae

特徴 — 單細胞生物、1~2本ノ鞭毛アリ、1ヶノ核ト黄褐色ノ色素体ヲ有シ、外殼ハ硅酸ノ棒状体ナリ。凡テ海産浮

游生物ナリ。

分類 — 第一目 *Siphonotestales* 1. *Dictyochaceae*

第二目 *Stereotestales* 1. *Ebriaceae*

第七門 不等毛植物門

IV. Phylum Heterocontae

特徴 — 体ハ單細胞、独生又群体生、或多細胞紐状体ナリ。各細胞ハ1~多核及盤状色素体 (*Xanthophyll* 及 *Carotin*, *Karotin*) ヲ含ミ黄綠色ヲ呈シ、脂油ヲ主ズ。体先端ニ概シ2本異長ノ鞭毛ヲ具ヘ運動ニ便ス。時ニ1本或ハ2本以上者アリ。無性生殖ハ游走子 (2本ノ異長鞭毛ヲ有ス) 又不動孢子ニ依ル; 稀ニ有性生殖ハ何形ノ配偶子ニテ行ハレ、一方ハ早期ニ静止シ他ハ之ト接合シ本生殖最初ノ段階ヲ示セリ。淡水中又湿土上ニ生ズ。

分類 — 第一綱ヘテロクロリス綱 *Heterochloridales*, 第二綱ヘテロコックス綱 *Heterococcales*, 第三綱ヘテロトリックス綱 *Heterotrichales*, 第四綱風船藻綱 *Heterosiphonales* (1) ふうせんも *Botrydium granulatum* Rost. et wor. ハ水田面・湿地ニ生ジ囊状ノ單細胞ニテ多核、長5~8ミメ。アリ綠色、群生。(2) たまふうせんも *B. Wallrothii* Kütz. ハ上部球形、游走子ハ1長鞭毛ヲ有ス。其ニ有性生殖ハ未知ナリ。

第八門 矽藻植物門 (矽藻類)

VIII. Phylum Bacillariophyta (Diatomeae)

特徴 — 単細胞微生物, 胞膜ハ矽酸ヲ多含シ硬化シ, 全形ハ行李狀又硯箱狀ニテ有蓋, 或線形又其変形ナリ。独生浮游又又狀群藻或有膠柄他物ニ着生ス。殻面ノ模様ハ浮刻狀ニシテ千態万様, 裂隙ヨリ出ル流出狀泉形質ニ依テ運動ス。細胞質中1ヶノ核ト葉緑素ト矽藻素(矽褐素)(*Diatomin*, *Phycocanthin*)トヨリ成ル色素体1~∞アリ。無性生殖ハ各側殻ヲ伴フ2縦裂ニテ, 核モ2分シ各側殻ハ各内側ニ内殻ヲ新生シテ2個体トナル; 此法ヲ繰返シ小形トナレバ細胞内容ヲ増大シ殻外ニ脱出シ増大胞子(*Auxospore*, *Auxosporen*)トナリ, 次デ新膜ヲ被リ原形ニ復ス。有性生殖ハ概2個体接合シ, 内容ヲ交換シ, 2ヶイ増大胞子トナリ, 後各双殻ヲ作り再分裂シテ2ヶノ独立個体トナリ, 次ニ無性分裂ニ移ル。全世界ニ廣布シ一万数千種ヲ産シ, 淡水及海水ニ浮游又着生シ *plankton* 主要者ナリ, 層々叠積シ水面ヲ着色ス, 矽藻土(*Diatomite*, *Kieselguhr*)ハ其化石層ナリ。

◎ 矽藻類ハ双鞭藻ヨリ進化セシモノト想像サルルモ, 恐クハ独立ノ系統樹ナルベク, 他ノ是以上ノ高等植物トハ何等ノ連絡ナシ。

分類 — 第一綱, 中心矽藻綱 *Centrales* 殻ノ形態ハ求心的即中心性ナリ, 裂隙及中央線ナシ。1. くものすけいさ

う科 *Discaceae*, 2. つつがえけいさう科 *Soleniaceae*,

3. いとまさけいさう科 *Biddulphiaceae*.

第二綱 羽状矽藻綱 *Pennales* 殻ノ形態ハ非中心性即概左右相称的, 羽状ニシテ殻面ニ裂隙又中央線ヲ有ス。

1. おびけいさう科 *Fragilariaceae*, 2. はねけいさう科 *Naviculaceae*, 諸科之ニ屬ス。

◎ 矽藻類ハIV~VIII門ノ植物ト共ニ所謂 *plankton* ヲ成シ魚類ノ好餌トナル。矽藻土ハダイナマイト *Dynamite* 原料トナル。

第九門 接合植物門 (接合藻類)

IX. Phylum Conjugatae

特徴 — 概淡水産ノ単細胞植物ニシテ, 単独微小ナルカ, 或ハ線狀(無分枝)ニ連結セル群体ヲ成ス。葉緑体ハ大形鮮綠色ニシテ細胞ノ大部ヲ充シ, 螺旋帶狀星芒狀平板狀等種々アリ, 中ニヒレノイド澱粉ヲ藏ス。体細胞ハ長軸ニ直角ニ分裂ス。有性生殖ハ2個体ノ接合(*Conjugation*, *Konjugation*)ニ依ル。即各細胞内容物ハ不動配偶子(*Aplanogameten*)トナリ, 連絡セラレタル腔管ヲ經テ2ヶ接合シ被膜ヲ被リ以テ接合胞子(接合子 *Zygospore*, *Zygosporan*)ヲ形成シ好期ヲ待テ発芽ス。游走(胞)子ノ形成ナシ。

◎ 類縁関係上双鞭植物ニ近似スルモ, 高等植物トノ連絡ナシ, 恐クハ単独ノ系統樹ナルベシ。

分類— 1. メソテニア科 *Mesotaeniaceae* 体ハ独生シ、円筒形又紡錘形ヲナス。2. ちりも(つづみも)科 *Besmidia-ceae* 体ハ独生又群体ヲ成ス。細胞ハ中央ニ鑑レ両半ニ分ル。みかづきも属 *Closterium*, つづみも属 *Cosmarium*, ちりも属 *Besmidium* 等アリ。3. ほしみどろ(あをみどろ)科 *Zygnemataceae* 細胞ハ円柱状線状ニ連絡ス。あをみどろ属 *Spirogyra*, ほしみどろ属 *Zygnema*, ひさおり属 *Mougeotia* 等本科ニ属ス。以上3属ヲあをみどろト總稱シ, 取テ田地ノ肥料トシ, 又紙に漉キ交ヘ尻流ナル手翰紙ヲ製ス。

第十門 緑藻植物門

X. Phylum Chlorophyceae

特徴:— 形態種々ニシテ或單細胞独生又群体ヲ作り又半独立群体 (*Coenobium*) ヲ作ル。多細胞者ハ紐状板状分枝状等ヲ呈シ, 稀多核囊状ノ非細胞植物 (*Coenocyst*) トナルコトアリ。細胞内ニ核ノ外葉緑体ヲ有シ紡錘形杯形星形網形等ヲナシ。葉緑素ノ外ニ葉黄素ヲ多含シ澱粉ノ代リニ脂油ヲ生ズ、又葉緑体中ニ *pyrenoid* ヲ有シ澱粉ヲ形成ス。無性生殖ハ細胞ノ單ナル2分裂ト体ノ ∞ 切裂離脱ニヨル。他ニ厚膜胞子 (*Akinete, Akineten*), 游走胞子 (*Zoospore, Zoospor*), 不動胞子 (*Aplanospore, Aplanospora*) ニ依ル。甲ハ環境不良ノ産物ニテ胞膜厚化シ, 内ニ澱粉等ヲ

作ルモノ; 乙ハ体細胞ノ内容ノ回春ニヨリ原形質塊化シ外出スルカ又内容多分裂シテ外出ス, 2又4本ノ筆長鞭毛ヲ有シ静止後被膜各新個体トナル; 丙ハ体細胞ノ内容球化シ新膜ヲ被ルモノ, 但料被厚膜発育防止者ヲ休眠胞子 (*Hypnospor, Hypnospora*) ト稱ス。

有性生殖ハ游走スル同形又異形配子, 接合ヨリ双價ノ配偶胞子ヲ生ズルカ; 又造精器 (*Antheridium, Antheridium*) 中ノ精子 (*Spermatozoides, -den*) ト造卵器 (*Oogonium, Oogonium*) 中ノ卵球 (*Oosphere, Oosphere*) ト接合即受精ニヨリ, 双價核ヲ有スル接合(胞)子。一名卵子(卵胞子) (*Oospore, Oospore*) ヲ生ズ。此ノ接合子ハ発芽ニヨリ減数分裂ヲナシ重ニ新營養体ニ発育スルカ, 又 ∞ ノ游走子ヲ生ズ, 此際染色体ノ減数分裂ヲ行ヒ單價トナル。

本門植物ハ淡水體ニシテ淡鹹海水ニ産シ, 又湿レル地上・樹上・岩上ニ生シ, 時空中又雪上ニ生ズ。

① 本門ハ鞭毛類ヨリ退化センモノト想像セラルハモ, 恐クハ独立系統樹ニシテ最下等者ハ其先祖形ニ近キモノナラン。

分類:— 主ニ *Oltmanns* オルトマンズ氏ノ分類式ニ從フ。

第一綱. 團藻綱 *Volvocales* 体ハ單細胞又其緩接群團 (*Coenobium*) ヲ作ル。固着性類ヲ除キ他ハ首營養体ハ筆長鞭毛ヲ以テ運動ス。1. ポリブレフアリクス科 *Polyblephari-*

daceae 単細胞独生, 裸体, 多少変形, 2~8鞭毛アリ。Foly-blepharis, Pyramidomonas, Dunaliella, 諸属アリ。
 2. クラミドモナス科 Chlamydomonadaceae 単細胞独生, 有膜, 定形, 2又4鞭毛, 空胞及眼点アリ。Chlamydomonas, Haematococcus 属 H. nivalis Agardh ハ雪上ニ群生シテ紅雪ヲ成ス。
 3. ファコーツス科 Phacotaceae 単細胞独生, 顕厚膜層2片ニ分離。Phacotus, Pteromonas 属アリ。
 4. おほひげまはり(圓藻)(ウオルウオックス)科 volvocaceae 細胞ハ常ニ群体ヲ作り, 共通寒天質中ニ包レ他物ニ着生ス。各細胞ハ概 Chlamydomonas 形, 2鞭毛アリ, 高等者ハ各細胞間原形質連絡アリ。無性生殖ハ群体囊中ニ小娘球ノ Coenobium ヲ作り, 有性生殖ハ配偶子ノ接合法ト卵球ト精子ノ合一法トニ依ル。Gonium, pandorina, volvox 属等アリ。
 5. クロデンドロン科 Chlorodendraceae 各細胞ハ寒天質樹枝状鞘中ニ埋存シ, 各細胞ハ前科ニ合ジ。Chlorodendron, Collinsiiella 属アリ。
 6. まつめも科 Tetrasporaceae 寒天質中ノ細胞ハ4ヶ1組宛圍集シ, 各長2鞭毛ヲ有ス。Tetraspra 属アリ。

第二綱 原(球)藻綱 Protococcales 体ハ単細胞又群体ヲ作り皆運動セズ, 鞭毛・眼点・伸縮胞ナシ, 游走子ニハ2又4鞭毛アリ。水中・湿地・樹上・空中等ニ生棲ス。1. 原(球)藻科 Protococcaceae 単細胞, 球形又梨子形, 単独又群聚又結合ス。Protococcus, Characium, Chlorochytrium 諸属アリ。

2. プロトシフォン科 protosiphonaceae 体ハ大單細胞独生又群聚結合ス, 多核, 厚有柄。Protosiphon 属ハ層ハウセルもト同生ス。3. セネデスムス科 Scenedesmaceae 単細胞独生又群体生。Chlorella, Scenedesmus 属アリ。4. あみみどり科 Hydrodictyceae 各細胞ハ多核, 常網状群体ヲ作ル。あみみどり Hydrodictyon reticulatum Lagerh. 水田池溝中, くんしようも Pediastrum 属

第三綱 うみみどり綱 Ulotrichales 体ハ概多細胞稀單細胞, 線状又葉状, 各細胞有1殻, 水中又氣中湿地或寄生。1. うみみどり科 Ulotrichaceae 体ハ概線状。うみみどり属 Ulothrix, Hormidium, microspora 諸属。2. あをさ科 Ulvaceae 体ハ大形, 1又2細胞層, 葉状, 管状, 枝状等。あをさ属 Ulva, あをさ U. lactuca Le. fol. ハ紙状緑色, 海苔ノ如ク混テ食用トス, 風味アリ。あをのり属 Enteromorpha, あをのり E. compressa Grev. ハ叢線状緑色, 乾テ食用トス, 伊弉ニ多シ。ひとへぐさ属 Monostroma 等アリ。3. たまも科 Chaetophoraceae 体ハ枝状等。Chaetophora, Pringsheimia 属。4. かほのり科 Blastosporaceae 体ハ紙状又紐状。かほのり属 Prasiola, かほのり(たいやがほのり) P. japonica yatabe ハ諸川山間清流中岩上生, 珠集シ混キテ乾苔トシ食用トス。5. さやかも科 Coleochaetaceae 体ハ分枝, 他物附着 さやかも属 Coleochaete, 淡水産。6. すみれも科 Chroolepidaceae 氣中生ニテ樹上, 岩上生, 血色素ヲモ含角。すみれ

も属 *Trentepohlia* 陸地を体ヲ造ル。フサヤミどり科 *Oedogoniaceae* 線状稀分枝、淡水生。フサヤミどり属 *Oedogonium* 体ハ線状。

第四綱 ミどりけ(絨毛)綱 体ハ單又多細胞,多分岐,各細胞ハ多核,色素体ハ網状又小板状。1.ミどりけ科 *Siphonocladaceae* 体ハ多細胞,有假根,熱帯海産。ミどりけ属 *Siphonoclada*, あせもくさ属 *Boodlea*。2.しほぐさ科 *Cladophoraceae* 体ハ線状,分枝又ハ無分枝。しほぐさ属 *Cladophora* まりも属 *Aegagropila*, *A. Sauteri* Kütz. 球体,湖底,天然記念物。3.かさのり科 *Basycladaceae* 大單細胞体,假葉假莖假根アリ。かさのり属 *Acetabularia*, *A. ryukyuensis* Okamura et Yamada みづたま属 *Bornetella*, いせすま属 *Halicornyne*。

第五綱 管状藻(みる)綱 *Siphonales* 体ハ單細胞,線状既多分岐,無隔膜又擬隔膜,各細胞ハ多核,色素体ハ小レンズ状,無 *pyrenoid*。水中,土上,種々植物体中生。1.みる科 *Codiaceae* 体ハ單細胞。さほぐさ属 *Halimeda*, みる属 *Codium*, みる *C. fragile* Suring. ひらみる *C. latum* Sur. ハ食用トス。粘滑気味アリ。2.はねも科 *Bryopsidaceae* 非細胞体,羽状分枝。はねも属 *Bryopsis* 3.いはづた科 *Caulerpaceae* 非細胞体,高等植物体状。いはづた属 *Caulerpa*, やくれんづた *C. amicum* Harw. ふたはづた *C. Fergusoni* Murw. ふさいはづた *C. Okamurai* web. へらいはづた

C. ancepus Harw. 等アリ。4.ふしなれみどり科 *Vaucheriaceae* 体ハ管状單細胞,稀分枝,ふしなれみどり属 *Vaucheria* 水中又濕土上生。

第十一門 輪藻植物門(車輪藻類)

XI. Phylum Charophyta (Charales)

特徴——体ハ高等水藻状,細長5—90 cm. 長ノ水中植物,主軸ハ節間細胞ト節細胞トヨリ成リ,各節ニ假葉ヲ輪生ス其数4~10,葉腋ヨリ腋枝ヲ輪生シ生殖器ヲ附着ス。細胞ハ1核又多核,内部原形質ハ流動シ鏡下ノ奇観ナリ。無性生殖ハ体ノ分枝ト莖部又假根ノ節部ニ生ズル球又楕圓形ノ枝状原芽体(*Proembryonic branch, zweigvorkeim*)ニ依ル。有性生殖ハ節部下方ノ藏精器ト全上ガノ藏卵器ニヨル。甲ハ球形赤褐色,8ヶノ楕圓細胞ニ因マル,各楕圓ハ中央ヨリ内部ニ突出スル楕圓細胞ヲ有シ,其頂端ヨリ各2ヶノ線状細胞ヲ叢生ス。各線ハ各100~225ヶノ細胞連結シ,各細胞ヨリ2鞭毛アル1ヶノ精子ヲ生ズ,故1造精器ヨリ5000内外ノ精子ヲ生ズ。藏卵器ハ楕圓体有小冠,5螺旋状細胞ニ因ル。内ニ1大卵子ヲ生ズ,卵細胞ハ受精後卵胞子(*Oospore, Oospor*)トナル。卵胞子ハ被厚膜,多少休眠シ,後芽生シテ前芽体(前胎)トナリ次デ是ヨリ新植物体トナル。

分類:——次ノ1科アルノミ,2亜科6属200種ヲ下ラス。

Fam. 1. しやじくも(車輪藻)科 本邦ニ1.しやじくも属 *Characeae*.

Chara 2. ふらすも(ふらすこも)屬 *Nitella* アリ。しやじくも *C. Coronata* A. Braun. かたしやじくも *C. fragilis* Desv. ふらすこも *N. translucens* Ag. 等普通ナリ。

第十二門 褐藻植物門 (褐藻類)

XII. Phylum Phaeophyceae

特徴: — 多細胞ノ褐色海藻ナリ, 最高等者ハ *Ectocarpales* ニテ線状單細胞列ニ過ズ, こんぶ科ノ如キハ假葉・假莖・假根ノ3部ヨリ成リ概然質ヲ有シ, 假葉ノ延長著シ, 水中前水洋産, *Macrocystis pyrifera* Ag. ハ全長70-300mニ達シ壯觀ヲ極ム; 此ハまた科ノ形態ハ複雑分岐者多ク且浮囊ヲ有ス。

以上ハ何レモ附着器 *Haptergan* ヲ有シ海底ニ固着ス, 形根状ナリ。体中葉緑素ノ外ニ褐藻素 (*Phycocanthin* 及 *Fucocanthin*)・*Carotin* 等ヲ含有シ, 固着色ヲ發揮ス。同化作用ニヨリ *Fucosan* ヲ生ジ, 澱粉又脂油ヲ生ゼズ。無性生殖ハ游走子及不動胞子ヲ生ジ; 有性生殖ニハ同形配偶子及藏精器及藏卵器ヲ有シ, 精虫ト卵球ハ体外受精ナルハ注意ヲ要ス。

① 本門ハ鞭毛類ニ近縁ヲ示セドモ, 何等高等部門ニ連絡ナシ, 恐クハ独立ノ系統樹ナルベシ。

分類: — 本門ヲ9目ニ分チ多数ノ科ヲ隸屬セシム, 主ナル目科如次。

第一目. エクトカルパス目 *Ectocarpales* 体ハ分岐セル線状線ハ中間生長ヲナス, 配偶子ハ同形ナリ。

Fam (I). ふくわのり科 *Encoeliaceae* (1) はばのり *Endarachne Binghamiae* J. Ag. 諸州海岸石上生, 体ハ水深ニ全熟ス, 酢ヲ加ヘ食用トス

Fam (II). もづく科 *Chordariaceae* (1) もづく *Nemacystus decipens* Kuck. 多分岐細長, 粘滑, 食用。

第六目 昆布目 *Laminariales* 無性世代(胞子体)ノ營養体ハ大形〜極大形ニニ游走子ヲ生ジ, 後發芽シテ小形(顯微鏡的)ノ有性世代(配偶体)ニ精子ト卵細胞トヲ生ズ。

Fam (I). こんぶ科 *Laminariaceae* 葉状体ハ單體雌雄別株也。

1. こんぶ屬 *Laminaria* (1) まこんぶ(こんぶ) *L. japonica* Aresch. ハ樺太・南千島・北海道・北奥(三陸地方)ニ産シ, *Mannit*, *Arginsäure*, *Galactan*, *Jodkali*, 不飽和脂肪酸等ヲ含有, 強壯藥・強壯髮質(脫病・梅毒・癩瘡等)藥・利尿藥; 氏: 心臟藥トス。又沃度・*Mannit* 製造原料, 海藻灰(*Kelp*)原料; 食用(日本特京阪亦関西地方及支那ノ重要食品); 家畜・家禽ノ飼料。古来ヨリこんぶト稱シ瑠寶ニ用ユ, 煮食・炒食・佃煮(佃煮)・昆布巻皆費用ス; 昆布茶ハ其粉末ナリ, 中風ヲ豫防スト云フ。(2) リレリ-こんぶ(利尻昆布) *L. ochotensis* Miyabe, (3) みついで-こんぶ(三石昆布) *L. angustata* Kjellm. (4) けそめ-こんぶ(いそ-こんぶ) 等皆まこんぶト異同根(食用・藥用・沃度原料等)ニ利

用セラル。(5) *L. Cloustoni* 'Le foli' ハ英國、氷洲、諾威、グリーンランド等ノ寒海ニ生ジ、莖狀部ヲラミナリヤ軸(生藥名 *Laminaria*, *Stipites Laminariae*)ト称シ、*Arginsre-jod* 無機塩類ヲ含有シ、生理的管狀部又濾管膜道等ヲ擴大スル目的ニテ鹽類ニ供ス。みついレニムボノ莖部ヲ代用シ得。

ii. ねこあしレニムボ屬 *Arthrothamnus* 南千、北海産、食用・沃度原料

iii. さくいしレニムボ屬 *Thalassiophyllum* 南千、北海産、多裂きくめいし状、効用同上。

iv. かじめ屬 *Ecklonia*, *Jod. Pentosan*・高級不飽和脂肪酸ヲ含ミ、変質強壯藥(上記ス)トス。(1)かじめ、のちかじめ、*E. Cava* Kjellm (2)あらめ(くちめ) *E. bicyclis* Kjellm 黒茶と称シ共ニ食用トス。又沃度原料トス。

vi. ぬぞわかめ屬 *Alaria*, (1)ぬぞわかめ(あいぬわかめ、ちがいぞ) *A. crassifolia* Kjellm 若葉部ヲ食用トス。(2)ふにわかめ *A. fistulosa* ハ千島産、長10~50m、ニ運ス。

vii. わかめ屬 *Undaria* (1)わかめ(裾帶菜) *U. pinnatifida* Suring. (2)なんぶわかめ *U. pinnatifida* f. *distans* Miyabe et Okamura, (甲)ハ本州、四国、海岸(乙)ハ三陸近海ニ産シ共ニ体ハ羽裂シ岩礁着生 *Jod. Arginsre* 蛋白質等ヲ含有シ、変質藥(上記ス)強壯藥利尿藥、長ニ中風豫防藥トス。煮食シ又炙リテ粉トシ飯ニ和シテ食フ風味佳ナリ、莖部モ食トス特ニ甘滑ナリ。阿波ノ鳴門、伊勢、紀州、加太

産、越後、越中産等味佳良ナリ。

第七目 ひばまた目 生殖器官中ニ藏精器藏卵器ヲ生ジ卵細胞ハ大形不動、精子ニ2鞭毛アリ、游走子ヲ生ゼズ。小又巨大ノ海藻ナリ。

Fam. (I) ひばまた科 *Fucaceae* 体ハ介岐シ浮囊ヲ具フ。

i. ひじき屬 *Hizikia* (1)ひじき(うみひじき) *H. fusiformis* Okamura ハ近海干潮岩上ニ生、食用トス。

ii. ほんだぼら屬 *Sargassum*. (1)ほんだぼら *S. fulvellum* Agardh. ハ各地沿海産、*Jod*ヲ含有シ、漢：利尿藥トス。若者ヲ瀉テ又煮食ス、脆ク佳味ナリ、賤民ノ食トス。又春盤ノ飾(正月飾)トス。(2)しなほんだぼら *S. siligostrum* D.C. (1)ト共ニ沃度製造原料トス。又結核・癆瘵・肺氣腫・利尿ノ諸藥ニ用フ。

第十三門 紅藻植物門(紅藻類)

XIII. Phylum Rhodophyceae

特徴：—淡水産ノ數種ヲ除キ凡テ海産ナリ。葉狀体ハ多細胞形頗多様常ニ他物ニ附着シ、紅又紅紫色ヲ呈ス。細胞ハ1又數ヶノ鞭毛ヲ有シ、粘質ニ富ミ中ニ葉綠素ノ外ニ藻紅素(*Phycocerythrine*, *Phykoerythrin*, *Rhodophyll*)ヲ有シ或種類ハ藍青素(*Phycocyan*)ヲ含有ス。紅藻澱粉(*Floridean starch*, *Florideenstärke*)ヲ造ル。無性生殖ハ既四介胞子(*Tetraspores*, *Tetrasporen*)、屢單胞子(*monospore*, *monospor*)、稀多胞子(*Polyspore*, *Multi-spore*)

ニ依ル。甲ハ体表ノ四分胞子嚢 (*Tetrasporangium*) ノ内容4分シテ4胞子ヲ生ジ、不動無纖毛ナリ; 乙ハ全上ニ唯1ヶノ胞子ヲ生ジ; 丙ハ4ヶ以上概16ヶヲ生ズ。有性生殖ハ体ノ一部ニ1卵ヲ有スル造果器 (*Carpogonium*, 原胞器) ヲ作り、其ノ先端ニ傳精器 (*Trichogyn*) ヲ有スル雌性器ト; 別ニ其側ニ生ズル雄性器ハ其頂ニ精胞嚢 (*Spermatogonium*) ナル細胞中ニ1個宛発育スル ∞ ノ不動性ノ精胞 (*Spermatia*) ヲ生ズ; 精胞ハ成熟シ傳精器ニ触レバ、此器ノ媒介ニ依リ卵ハ受胎スレバ造果器ハ生長分裂シテ其終果胞子 (*Carpospore*, *Karposporen*) トナルカ、又一且 ∞ 細胞ノ胞果 (*Cystokarpium*) トナリ其内部ニ果胞子ヲ形成ス。

分類: — 本門ヲうしのけのり綱・真正紅藻綱ノ二綱ニ分チ受ニ其下ニ多類ノ科ヲ隷屬セシム。就主要ナルモノ如次。

① 本門ノ植物ハ他門ト連絡ナク独立ノ系統樹ヲ成ス。種類頗多ク21科ヲ數ヘ、粘液臭ニ富ミ粘滑薬トシ又糊料トナシ食料亦不尠。

第一綱 牛毛海苔綱 (I) *Class. Bangiales* 体ハ紙狀又絲狀、1列細胞層、有性生殖ハ不動精子ト卵細胞ト接合ニヨリ無性生殖ハ体細胞ノ分裂ニヨリ胞子ヲ生ズ。

Fam. (i) うしのけのり科 *Bangiaceae* (1) あさくさのり (あまのり) *Porphyra tenera* Kjellm. 日本諸國沿海産、中武蔵ノ品川、伊勢ノ熱田、播磨ノ仁保、長門ノ向津、出雲ノ十六島、対馬ノ甘苣等有名ナレド所謂品川灣岸産ノ淺草

海苔ヲ上品トス。其他前記津軽・佐渡・北越諸州ニモ産ス。

(2) ちしまのり *P. sp.* 北海道東北部ヨリ南千島ニ産シあまのりヨリ大形厚實、風味佳良、産チ千島海苔ヲ造ル、大サ畝1米平方アリ。共ニ佃煮トシ或味附海苔ヲ製ス、*vitamin* ヲ多含ス。

第二綱 真正紅藻類 (II) *Class. Florideae* 葉狀体ハ多細胞ヨリ成リ多形ナリ。有性生殖ハ造精器及造果器ヲ造ル甲ニ精子器ヲ生シ不動精子ヲ出ス。無性生殖ハ体表ニ四分胞子ヲ生ズ。世代交替ハ規則正シク (♀♂) 又 ♀♂ 、概有性代ト無性代ト同形ナリ。

Fam. (i) かほもづく科 *Batrachospermaceae* (1) かほもづく *Batrachospermum moniliforme* Roth. 体ハ細裂シ粘質ニ富ミ藍紫色ヲ呈シ、清キ小川、池等ノ石上ニ生ジ流ニ従テ靡ク、其終酢ニテ又乾テ食ス。(2) つかおかほもづく *B. sp.* ハ寒地帯ノ池沼底 (例、信州蝶ヶ岳頂ノ小池) ニ生ズ、前者ヨリ細小ナリ。

Fam. (ii) ベロもづく科 *Helminthosporidiaceae* (1) うみざうめん *Nemalion helminthoides* Batt. 紐狀、群生、食用。(2) かまがしら *N. pulvinatum* Holm. 食用。

Fam. (iii) ちすちのり科 *Thoreaceae* (1) ちすちのり *Thorea ramosissima* Bory 淡水生、食用。琉球 (天然紀念物)、鹿児島・長崎ノ諸縣ノ池又川中ニ生ス。

Fam. (iv) てんぐさ科 *Gelidiaceae* 体ハ概縦横密枝ス羽

状分製ス。

(1) てんぐさ (とこちてんぐさ) *Gelidium Amansii* Lamx.
 (2) ひらくさ *G. subcostatum* Okam. (3) おとくさ *G. japonicum* Okam. (4) さぬくさ (ひがもぐさ) *G. linoides* Kütz.
 等、てんぐさ属並ニ (5) ゆひまり (とりのあし) *Acanthopeltis japonica* Okam. 等ハ石花菜ト称シ。他ノ近似種 (元このリ、おごのり、いさぎ、いたにぐさ等) ト共ニ寒天 (生薬名 *Agar-Agar*) ヲ製シ、食用、糊用、細菌培養基用トシテ重用セラル。寒天材料ハ東海道及南海道・北海道・朝鮮沿海ニ産シ採ヲ晒シ寒夜ニ凍結セシメテ寒天ヲ製ス、不凍部ヲ心天 (トコロチン) ト称ス。○寒天ハ京都・大塚・信州 (諏訪地方) ニテ製造セラル。赤カハ *Pentosam, Gelose (=d-Galactam)*、糊液等ニテ、粘滑性抱核薬緩下剤・柔軟オプゾート原料、菓業 (羊羹、ゼリー等)・ジャム・饅頭 (大和煮等) 用等ニ使用セラル用途互ク互耶ニ輸出ス。寒天ハ形状ニヨリ角寒天・細寒天・粉末寒天ノ三種トス。

Fam. (V) ふのり (ふくろふのり) 科 *Gloiiosiphoniaceae* (1) ふのり *Gloiopeltis furcata* post. et Rup. (2) ふくろふのり *G. Coliformis* (3) はなふのり *G. Cervicornis* (4) ほんふのり (まふのり) *G. tenax* 等ハ布海苔ト称シ、水洗シ濃キテ布海苔 (生薬名) ト称シ、粘液質 (パルアラビン類似) ヲ多含シ熱湯ヲ加ヘ糊料トス、布ノ糊付・婦人髪洗ニ用ヒ、又食用 (味噌汁ニ入ル、粘とろろノ如シ) トス。北海道東南部及三陸海岸ニ

産ス。布海苔ニハ (4) 最上品ナレド以上ノ外すぎのり科ノひらくさ、つのみまた (鹿豚) 等ヲ混用スルコトアルモ下品ナリ。

Fam. (VI) おごのり科 *Gracilariaceae* (1) おごのり *Gracilaria confervoides* Grev. ハ寒天 (心天) 製造ノ原料、近海遠浅ノ砂地ニ普通也。生時紫褐色、酒時青色、刺身ノ毒トシテ食ス (熱湯ニ入レ緑化ス) 又凝脂ヲ製シ食用トス。

Fam. (VII) きじのを科 *Sphaerococcaceae* (1) しらも (せうぼ) *Sphaerococcus confervoides* 白藻ハ細線状、青白色、浸水バ白化ス。煮食シ又浸水シ酢味噌ニテ食ス、備前ノ産有名也。

Fam. (VIII) とさかのり科 *Solieriaceae* (1) とさかのり (雞冠菜) *Meristotheca papulosa* J. Ag. (2) さりんさい *Eucheuma spinosum* J. Ag. ハ共ニ暖海産、食用、糊用、寒天 (心天) 製造用トス。甲ハ魚鱗ノ点料トシ、乙ハ粘液質ヲ多含シ カラージェン 代用トシテ粘滑薬トス。(3) かたのんまりんさい *E. gelatiniae* ハ糊用トス。

Fam. (IX) すぎのり科 *Gigartinaceae* (1) つのたま (鹿角菜) *Chondrus ocellatus* Holm ハ不可食、煮テ糊ヲトリ衣布ヲ貼付シ婦髪ヲ洗ヒ、又石灰ヲ煉リ白壁塗ニ使用ス。又布海苔製造ノ原料トナス。(2) こどびつのみまた *C. elatus* Holmes ハ細長多枝食用トナス。(3) やはづつのみまた *C. crispus* Stackh (4) ちらのり *Gigartina mamillata* Agardh 共ニ欧米ノ北部北太平洋沿海産、共ニ粘液 (Pararabin パルアラビン)

C₆H₁₀O₅) 及蛋白質ヲ含有シ、カラーゲン(カラゲン)(生薬名 Carragen, Caraghen)ヲ葉状部ヨリ製シ粘滑性ノ包膜薬(粘滑薬)糊料(工業用)又酒類澄明薬トス。其ニ北海道ノ前部及三陸地方ニ産ス。(5)きんろんさう *Iridaea biloba Miyabe* ハ北日本沿岸産群生ス、近時壁塗ノ糊料ニ頻用セラレ。

Fam. (X). いぎす科 *Ceramiales* (1)えこのり *Campylocephora hypneoides* f. *Ag.* ハうぎうト称シ、生時紫色而時茶褐色、てんぐさニ似テ多板、板端屢鉤曲、寒天(心天)ノ原料トナリ又糊用トシ、食用トス。

Fam. (XI). ふぢまつも科 *Rhodomelales*. (1)まくり(海人草、鷓鴣菜) *Digenea simplex* Agardh ハ古流丸、四ニ産スル海草、成介木詳、蛔虫駆除薬ニ一日10gヲ煎用ス、又甘草及大黃ト配伍シ下劑トス、まくリト称シ初生兒ノ胎毒下シニ其フルモノ是也。鷓鴣菜丸ハ葷量ノ甘草ト配シ丸トセンモノ、駆虫劑トシ甚効アリ。新薬トシテ近時(1)海人草成分薬ニマクニシ Macnin(藤沢)、ゲゲニン *Digenin*(武田)、アスカリス *Ascaris*(奈良)、カイソニン *Kaisoinin*(鈴木製薬); (2)配伍劑ニゲラキシン *Digelaxin*(塩野)、ゲゲルミン *Digelmin*(三共)等アリ。

第十四門 真菌植物門(菌莖類、絲狀菌類)

XIV. Phylum Eumycetes (*Hyphomycetes, Fungi*)

特徴: 一、体ハ單細胞又多細胞、概營養体ト生殖体ノ別アリ。胞膜ハ纖維素又キチン質ヨリ成リ、中ニ細胞質ト核(屢多核)

アリ。葉緑素ヲ缺キ、活物寄生(*Parasites, parasiten*)又死物寄生(有機物ノ)(*Saprophytes, Saprophyten*)ヲナス。造形上ノ營養細胞ヲ菌絲(*Hyphae, Hyphen*)ト称シ、單又多細胞ニテ先端ハ殆無限生長シ、和錯線維組シテ菌絲体(*Mycelium*)ヲ作ル。菌絲ノ一部ハ假(偽)根(*Rhizomorphs, Rhizomorphs*)ヲナシ又疑柔組織(*Pseudoparenchyma, -chym*)ヲ実体(結実体、果体トモ称シ多量也)(*Fruit body, Frucht-Körper*)ヲ生ズ、其硬化シ木質ナルヲ菌核(癭草狀)(*Sclerotium*)トナリ宿存ス。陸地、朽木、水中等ニ生ズ。

無性生殖ハ(1)菌絲ノ一部ヨリ独立繁殖、(2)菌絲ノ一部ハ分生子柄一名擔子柄(擔)(*Conidiophores, Konidienträger*)トナリ、分生子(胞子)(*Conidia, Konidien*)ヲ生ズ、(3)胞囊(*Sporangium, Sporangien*)ヲ作り中ニ遊走子(*Swarmspores, -ren*)ヲ生ズ、(4)子殻(*Pyxidium, Pyxidien*)中ニ胞子ヲ生ズ、(5)菌絲ハ繼レテ念珠胞子(*Oidium*)ヲ生ズ、其厚膜者ヲ厚膜胞子(*Chlamydozoospores, -ren*)ト称ス。

有性生殖ハ(1)菌絲ノ一部ノ生殖枝ノ符合ニヨリ接合子(*Zygosporos, -ren*)ヲ生ズ、(2)藏(造)精器(*Antheridium, -dien*)ト藏(造)卵器(*Oogonium, -nien*)トヲ形成シ、各ノ生殖細胞ノ融合ニヨリ卵胞子(*Oospores, -ren*)ヲ生ズ、(3)造精器ト藏(造)囊器(*Ascogen*)ノ融合ニヨリ子囊(*Ascus*)ヲ造リ胞子ヲ生ズ、(4)不動精子ト雌細胞トノ融合ニヨリ結(子)実体ヲ生ズ、又是等ヨリ退化シ雌(女)生殖ヲ嘗ムモノ不詳。

以上ノ胞子ハ何レモ発芽シ、菌絲ヲ生シ新殖物体トナル。
菌類ハ往々保藏性菌体一名菌核 (Sclerotium) ト称スル硬固
組織ヲ作ル、是ハ豫備養分貯藏器ニシテ、良環境時ニ子实体 (果
体) ヲ発生セシメ、之ノ子囊ヲ作ル。子实体ノ形態ニ被子器
Perithecium、盤子器 *Apothecium* ノ2形アリ。麦角菌、地表
類等ニモ見ルヲ解ベシ。

寄生ニ當リ菌絲ヲ深ク体内ニ浸入スルヲ内寄生ト称シ、体
表面ニ繁殖シ吸根 (*Haustorium*, — *riem*) ヲ下スモノヲ外
寄生ト言フ。被寄生植物 (宿主, 寄主 *Host, wirt*) ノ病 (*Diseases, Krankheiten*) ヲ惹起シ大害ヲ受ク。

分類: — 藻菌類、蕈菌類、擔子菌類、3綱ニ分チ、甲ハ14科、
乙ニ28科、丙ニ21科ヲ包括ス。主ナル種族ハ如次。

(1) 眞菌植物ノ系統ハ單系ニ非ルバク恐クハ以上3綱ハ
各独立セル系統樹ヲ代表スルモノナランカ。

第一綱 藻菌綱 (管狀菌類) (I) *Class Phycomycetes*
(*Siphonmycetes*) 体ハ單細胞ニシテ層介枝ス、生殖細胞
ノミハ隔膜ヲ生ジ游走子又接合胞子、或ハ精子ト卵細胞トヲ
生ズ。

第三目 卵菌目 *Oomycetes* 胞膜ハキチン質ヲ不含、無
性生殖ハ游走子及分生子ニ依リ、有性生殖ハ卵胞子ニ依ル。

Fam. (i) みづかび科 *Saprolegniaceae* (1) みづかび
Saprolegnia Thuretii De Bary 本属ハ水中ノ昆虫屍ニ寄生
ス、游走子囊ヲ生ズ。

Fam. (ii) 白锈病菌科 *Albuginaceae* (1) しちさびびよう (白
锈菌) *Albugo candida* O. Kuntze 本属ハなたお科植
物ニ寄生シ白锈病ヲ起ス。

第四目 接合菌目 *Zygomycetes* 菌絲ハ單細胞、無隔膜、キ
チン質、無性生殖ハ胞子囊ニ内主胞子ヲ造リ、稀分生(胞)子ヲ造
ル。有性生殖ハ絲端ニ隔膜ヲ生ジ双方接合シテ接合(胞)子
ヲ生ズ、(♀♂)又♀♂ナリ。

Fam. (i) けかび科 *Mucoraceae* 概腐生稀寄生。(1) けかび
Mucor mucedo L. (2) くものすかび *M. stolonifer* Ehrenb
(3) もつれかび *M. racemosus* Fresen (4) ひけかび *Phyco-*
myces nitens Kuntze et Schmidt 等ハ果実、餅、其他ノ飲食
物上ニ繁殖シヌラ腐敗セシメ有害ナリ、梅雨期ヲ最盛トス。
もつれかび等ハ粘着液ニ酒精醱酵ヲ起サシムルニヨリ近時
木菌類ヲ酒精醱酵ニ応用ス。*Rhizopus* はひかび属菌ハ古
来及耶地方ニテ麵ノ製造ニ使用セラル、例ハバ紹興酒中ニ
見出サルル *R. chinensis* 及 *R. tritici* ノ如シ。

以上ノ他本綱ノ菌類ニハ植物ニ寄生枯死セシメ農作園藝
上ニ大害ヲ興フルモノ不鮮。

第二綱 蕈菌綱 (子囊菌類) (II) *Class Ascomycetes*
菌絲ハ多細胞、胞膜ハキチン質、細胞ハ時ニ多核、有性生殖ノ結
果直接子囊ヲ形成シ、8ヶノ子囊胞子ヲ作ル。

Fam. (i) 酵母菌科 *Saccharomycetaceae* 体ハ單細胞
球形~楕円形、分裂出芽法 (*Buding, Sprossung*) ニテ繁殖

シ、菌絲ヲ作ラズ、遊離スルカス介岐連鎖状或連鎖状ヲナス。
各個体ハ其体ス2個融合後、内ニ1~8ヶ(概2又4ヶ)ノ子囊
胞子ヲ作ル。*Saccharomyces* 酵母菌属ハ種類甚多ク、体内
ノジマーゼ(*Zymase*)ノ働キニヨリ酒精醱酵ヲ起シ糖分ヲ
酒精ト炭酸瓦斯ニ変化シ以テ酒類ヲ醸造セシム、醸造工業
上不可欠ノ菌類ナリ。現今ハ培養法種甚多シ。(1)麦酒酵母
菌 *S. Cerevisiae Meyen* ハ麦酒(ビール)醸造ニ使用シ *vita-*
*min. B*ヲ含ミ消化營養劑トナル又麥粉ニ入レテパンヲ製ス。
(2)葡萄酒酵母菌 *S. ellipsoideus Reess* 葡萄酒(*vinum*)
ハ興奮藥ナリ、又營養消化促進藥トス。(3)日本酒酵母菌 *S.*
Sake yabe (4)泡盛酒酵母 *S. Awamori Inui* 等ハ夫々
固有酒ヲ造ル。(5) *Schizosaccharomyces* 属ニテハ2個細
胞体接合シ核ノ融合ヲ終リ次ニ多核ニ分裂シ後ノ子囊胞子
ヲ造ル、例ハバ *S. octosporus Beijerinck* ニテハ10ヶヲ生
ズ。酵母製劑(主ニ麦酒酵母菌)ニ藥用酵母・酵母エキスア
リ其ニ營養消化促進藥トス。例ハバ新藥トシテ酵母製劑ニ
わかもと(若素)ハ營養ト育兒、アウトチーメ(*Autogyne*)三共、
マダルモン *Madarmon* (溫野); 酵母蛋白ト單寧酸劑ニエル
ド、ホルム *Eldoform* (*Bayer*)、ゲルバミン *Gerbamin* (溫
野)等アリ。

Fam. (ii) かうじかび科 *Aspergillaceae* 子実体ヲ造リ子
囊胞子ヲ生ズルハ稀ナリ、多クハ分生(肥)子ヲ分生子柄上ニ發
生ス。*Aspergillus* 麹黴属ノ菌類ハ菌絲中ニ澱粉糖化酵

素(*Diastase*)ヲ含有シ、酒・味噌・醬油等ノ製造上不可欠ノ
重要菌類ナリ。(1)かうじかび *A. oryzae wehm.* ハ酒・醬油・
味噌ノ醸造ニ使用スル米麴ノ製造ニ使用ス、主成分ハ糖化
酵素也。(2)あほもり-かうじかび *A. luchensis Inui* ハ泡盛
酒ノ醸造ニ使用ス。(3)甘藷酒かうじかび *A. Batatae Saito* ハ
甘藷酒酵母菌 *Saccharomyces Batatae Saito* ト相対シ甘藷
酒ヲ作ル。(4)瓜哇醬油かうじかび *A. Wentii wehm.* (5)台湾
かうじかび *A. perniciosus Inui* (6)くわかび *A. niger van*
Tiegh. 等アリ。(7)あをかび *Penicillium crustaceum L.* 餅
果物其他飲食物ヲ腐敗セシム。(8)すすびようきん(煤病菌)属
(*Meliola*)ノ諸菌ハ植物ニ寄生シ煤病ヲ起ス。

Fam. (iii) のぼりりやう科 *Helvellaceae* 子実体ハ肉質ト
結実部トハ判然區別ス。(1)あみがさとけ *Morchella escu-*
lenta L. ハ笠部深皺アリ、可食。(2)のぼりりやう *Helvella*
crispa Fr. ハ柄部ニ縱溝アリ。(3)しやぐまあみがさとけ
(くらたけ) *Gyromitra esculenta Fr.* 毒菌、食後一ニ日ニ死
ス、毒成分 *Helvellasäure* $C_{10}H_{20}O_7$ ヲ含ム。

Fam. (iv) 麦角菌(肉座菌)科 *Hypocreaceae* 麦角菌属
Claviceps ハいね科植物 *Gramineae* ノ子房ニ寄生シ、其中ニ
菌絲ヲ密蔓越年ス、是ヲ菌核 *Sclerotium* ト称ス、翌春地上ニ
テ発芽スレバ菌核上数多ノ子実体(果体)ヲ發生シ、内ニハ、被
子囊ヲ埋藏シ、其中ニハ、子囊アリ、中ニ各8ヶノ線状胞子ヲ
造ル。此胞子再子房ニ着生シ、初分生胞子ニテ繁殖シ、後菌核

ヲ作ル。

○(1) 麦角菌 *C. purpurea* Tulasne ハむぎ類科ニハいむぎ *Secale cereale* L. 其他、すすき屬、かもしぐさ屬等ノ子房ニ寄生シ麦角 (Ergot, Mutterkorn, 生藥名 *Secale cornutum*) ト称スル多少弯曲シ3又4稜狀鞭節形ノ保護性菌体即菌核ヲ生ス。藥用麦角ハ南歐・ガリデエン・北スペイン・モロソコ等ニ多産シ; 塩基 (Ergometrin $C_{19}H_{23}O_2N_3$, Ergotamin $C_{33}H_{35}O_5N_5$, Ergotin $C_{50}H_{52}N_2O_3$, Ergotoxin $C_{35}H_{39}O_5N_5$, Ergotinin $C_{35}H_{39}N_5O_5$), ^{パロオキシヘニール} *P-Oxyphenyläthylamin*, スクレロチン酸 $C_{12}H_{19}NO_4$, スクレロムーチン, Amino-secal-sulfonsre, Ergothionin, Agmatin, Cholin, Betain, 脂肪油, 色素 (Scleroverthrin) 等ヲ含有シ; 局方麦角・麦角エキス・麦角流動エキス製剤トシ; 止血藥 (特ニ子宮出血及内臓出血) 又陳痛促進藥トス (血管及子宮ノ緊縮ヲ促進シ肺出血ヲ止ム)。麦角ノ新製剤甚多シ。Secartin (塩野義)・ライゴスチン Ryegostin (日本藥品), 麦角減菌エキス (三共: パークテビス); 配伍藥ニハ Ergoptol (武田), Adortin (黒田) 等アリ。麦角ハ燻製石灰ヲ容レタル除濕器内ニ貯フベシ, 一年以上経過セルハ効力ヲ減少スル故用フベカラズ。有毒ナリ要注意。

(2) 夏虫冬草 *Cordyceps sinensis* Sacc. ハ昆虫ノ幼虫ニ寄生ス。(3) さなごたけ *C. militaris* Link. 全上。(4) ぬせたけ *C. sobolifera* Berk. 等ハ漢藥ニ供セラル。

第三綱 擔子菌綱 (擔子菌類) (III) Class

Basidiomycetes

特徴——菌絲ハ多細胞, 有隔膜 (有節菌絲); 子實體ハ概若大ナル菌茸ヲ成シ其ノ部ニ子実層 (Hymenium) ヲ造リ擔子胞子 (Basidiospore) ヲ生ズ。即子実層トハ造胞子組織ニテ密組織ナル下子実層ノ直上ニアリ, 棍棒狀ノ擔子基 (柄) (Basidium) 密立シ其先端ニ擔子梗 (Sterigma) 數ヶヲ生ジ其上端ニ擔子胞子ヲ放射芽生ス, 其數又~8 概4ヶ也。此外分生胞子 (Conidium) 及厚膜胞子 (Chlamydo-sporen) ヲ生ジ無性生殖ヲ行フ, 後者ハ菌絲一部ノ分節ニ由テ造リ厚膜ヲ被レ。本綱ノ植物ハ有性生殖ヲ行ハサルニヨリ着シ, 畏レ生殖ノ退化ニ由レナラン。

利害關係——本綱ノ菌類ハ寄生又腐生ニシテ栽培植物ニ大害ヲ及ボスモノアリ, 黒黴病, 赤星病, 銹病, 餅病等是也。然レニ食用菌トシテ香味絶佳ナルモノ亦不尠ト同時ニ有毒惡ルベキ毒菌モ亦多マアリ, 食毒可也ノ製剤ヲ誤レバ中毒乃至死亡ニ及ブ。有毒成分ニ凡3類アリ。(1) 毒蛋白 (Toxoalbumin), (2) 植物塩基 (Alkaloid), (3) 有毒酸 (Giftige Säuren) 是ナリ。甲ニハ Phallin, 乙ニハ Muscarin, Muscaridin (Pilzotropin), Cholin, Betain, Neurin, Pilztoxin, Ergotoxin, Ergotamin, 丙ニハ Helvella-säure $C_{12}H_{20}O_7$, Agaricinsäure 等類屬ス。以上ノ諸成分ハ動物ノ神経系並諸臟器分泌腺等ニ及ス作用實ニ劇烈ナルモノアリ, 或毒汗

或汗止、腫散大、分泌促進、神経興奮又麻痺ヲ起ス等種々ナリ、薬用トシテ使用スルニハ尚尠介ノ研究ヲ要スベシ。

分類：— 薬用食用有毒等ノ人生関係大ナル諸科ハ次ノ如シ。

Fam. (i) 黒穂菌科 *Ustilaginaceae* いお科植物ニ寄生ス、厚膜(胞)子ヲ黒(胞)子ト云フ。(1) とうもろこしのおばけ *Ustilago zeae* Ung. ハとうもろこしノ子房ニ寄生(雄花・莖葉ニモ)シ黒穂病ヲ起ス。此ノ黒穂ノ胞子ニ *Ustilagin* ヲ含有シ止血薬(子宮出血等)ニ使用ス。諸國ニ産ス。

Fam. (ii) きくらげ(木耳)科 *Auriculariaceae* 枯木上ニ生ジ寒天類子實體ヲ造ル。

(1) きくらげ *Auricularia auricula judae* Schröt. (2) あらげきくらげ *A. polytricha* Pat. 共ににはとこ、くはせん だん等ノ枯木ニ生ズ耳状ヲ呈ス、甲ハ小形ニハ大形毛茸密生シ特ニ小笠原、ハ文島地方ノ名産ナリ。成分不明、食スレバ便通ヲ良クシ、殊ニ痔疾ニ効アリ。きくらげヲ採集シ乾シ貯ヘ隨時食用トス、にはとこニ生ズルモノ最美味ナリ。乾者ヲ水ニ浸シ早煮シ細切シ、大根おろシヲ交ヘ三杯酢ニテ食フ、美味無比。又胡麻油ニテ熬リ食ヘバ佳味賞スベシ。

Fam. (iii) しわきくらげ(白水耳)科 *Tremellaceae* 枯木上ニ生、前者ニ近似スルモ擔子柄ヲ異ニス。(1) しわきくらげ *Tremella fuciformis* Berk 白^{ハモール}木耳ト稱シなら、くぬぎ、く^{ハモール}等ニ生ジ、諸國ニ自生アルモ、少ク信州下伊那ニテ人工栽培

培ニ成功セリ。高貴支那料理ニ用フ、清湯銀耳ト稱シ補精強壯薬、滋養強壯薬特ニ肺病ニ効アリ。しわきくらげハ ミコーゼ *Mykose* 粘液・脂肪ヲ含有シ、民：水腫薬・肺病薬トス。

Fam. (iv) ははきたけ科 *Clavariaceae* 子實體ハ棒状・叉状・樹状等ニテ多色(白・赤・黄・褐・紫等)、子実層ハ表面ヲ被フ。

Clavaria ははきたけ屬ヲ主トス。(1) ははきだけ(ねすみたけ) *C. botrytis* Pers. 食用、美味。(2) き-ははきたけ *C. flava* Fr. 食用。(3) はが-ははきたけ *C. formosa* Fr. 食用、褐色。(4) さきじろ-ははきたけ *C. grandis* Pk. 紫色、食用。(5) うらう^らをたけ *C. mucida* Pers. 食用。(6) ベド-そうめんたけ *C. rosea* Fr. 食用。(7) はなびらたけ *Sparassis crispa* Fr. 食用。

Fam. (v) かたけ科 *Hydnaceae* 子實體ハ肉質・革質・木質等ナリ。(1) かたけ(かうたけ) *Hydnum asperatum* Berk (2) しし^らたけ *H. imbricatum* L. (3) かのりた *H. repandum* Fr. 茸傘裏毛刺藪布、拭乾シ又生ニテ皆食用トス香味多シ。民：胃腸薬。

Fam. (vi) さるのこしかけ(まひたけ)科 *Polyporaceae* 形質多変。(1) なみだたけ *Merulius lacrymans* Fr. 黄色、木材ニ寄生シ腐朽セシムル実菌 (2) まびたけ *Polyporus frondosus* Fr. 頗大形菌、介枝瓣状重疊、食用トシテ佳。(3) くちかは(うしびたい) *P. leucomelas* Fr. 傘表黒裏灰白色、食用。(4) しゆた^ナ *P. cinnabarinus* Fr. 枯木生、朱色、美。

さるのこしかけ屬 *Fomes* — ハ子實體ハ不^ニ腐^ニ半円形、棚

狀ニ横生シ同心環紋アリ、樹木ニ寄生シ有害ナルモ藥菌不
 甚。本属ハ草類又木質ノ腐疾寄生菌ニテ傷アル木ニ生シ漸
 次蔓延シ枯死セシム枯木ニ生セズ。小ハ3セメ、大ハ30~
 70 cmニ及ブ、大者ハ床ノ置物又柴門ノ扁額トシテ風流ナリ。
 (1) さねのこしかけ *F. robustus* Karsten (*F. pinicola*
Fries) (胡孫眠) ハ各地ニ産シ菌体ヲ解熱藥又心臟病藥ト
 シ、利尿劑トシテ痲疾ニ用フ。(2) ほくちたけ (つりがねたけ)
F. fomentarius Fries ハぶな、かしば、みづなら等ノ幹ニ生
 ジ、澳、匈、独地方ニモ産シ、上部灰色皺縮内部孢質黃褐色ナ
 リ。外科用綿 *Fungus chirurgorum* (菌ノ管体部ヲま
 内方ノ柔部ヲ採リ水中ニ煮沸シ後打延テ輕鬆トセルモノ)ヲ
 製シ外科局部洗滌用又止血用トス。又引火藥(ほくち)トス、此
 目的ニハ上記外科用線狀者ヲ硝石溶液ニ浸シ乾製ス。

(3) えぶりこ (とうほし) (落葉松茸) *F. officinalis* Fries
 ハ *Larix* 属ノ幹ニ生ジ、南欧、西比利亞地方ニ産ス、本邦
 ハ樺、南千、北本ニ産シ、(えぶりこハ松前ノ方言)形半円ノ食パン
 ノ如ク壺狀、腐朽木又石端ノ如ク、外面灰褐内部白色、味苦ク微
 ニ甜甘酸、北海道、奥羽、日光、信州、甲州ノ山地ニ産ス。山民用テ
 腹痛、眼病ヲ治ス。欧州ニテハ昔吐下劑ニ用ヒシガ現今ハ肺
 癆ヨリ毒スル盗汗ヲ治ス。本菌ハ *Agaricin* (= *Agaricin-*
säure アガリチン酸 $C_{22}H_{40}O_7 + \frac{1}{2}H_2O$) ナル有効成分ト脂肪
 並樹脂エキスを含有シ、アガリチン(局方 *Agaricinum*)製造
 ノ原料トス、制汗藥トシテ肺癆患者ニ用ヒ又健胃下劑トス。

氏：腹痛、眼病、健胃下劑止トス。生藥名 *Fungus Laricis*。

(4) めしよこぶ *F. rimosus* Berk 桑黄ト稱シ稍大形、外面黒褐
 下面黄色、桑樹ニ生ズ。氏：健胃、下劑止、腹痛、淋病ヲ治シ、中風
 ノ偏枯ヲ治ス、持ニ淋疾ニ卓効アリ。(5) まんねんたけ *F. japo-*
nica Fr. 別名ヲ北いし又さいばいたけ(靈芝、芝草)ト稱シ、床
 ノ飾物又鉢植トシ、氏：毒菌ノ中毒ニ煎服シ解毒ノ効アリ。
 (6) ちよれい (猪苓) *Polyporus umbellatus* Fries ハかし属等
 ノ根ニ寄生シ、大球皮体トナル、径30~100 cm、内外、表面黒褐内
 部白色、茯苓狀、大菌核体ナリ、之ヨリ子実体ナル茸ヲ生ズ
 介岐シ各載菌傘。Ergosterinヲ含有シ、水腫、淋疾等ノ利尿
 藥トス。又解熱ノ効アリ。

あみたけ属 *Boletus* ハ傘裏管孔網狀ヲナス。(7) あみた
 け *B. bovinus* Fr. (8) あはたけ一名あぐちたけ *B. subto-*
mentosus Fr. (9) むめりあぐち *B. luteus* L. (10) いちがはり
B. badius Fr. 等ハ食用トナル。(11) うらべといちがはり *B.*
luridus Fr. (12) うらべにおぐち *B. satanus* Seng. 等ハ皆
 有毒ニシテ食後嘔吐、発汗、血痢、痲痺等ヲ起シ又虚脱ヲ呈ス。

Fam. (vii) いほたけ科 *Thelephoraceae* 子実体ハ皮膜・肉
 胎、革質等、有柄柄又無柄、扇、杯、(1) いほたけ *Thelephora*
Komabensis P. Henn. (2) くちうすたけ *Craterellus*
cornucopioides Pers. ハ食用トス。

Fam. (viii) まつたけ(松茸)科 ^(Agaricaceae) 一名桐(茸)菌科ト稱シ、椴肉質
 稀革質ナリ、傘下ノ網ニ子実層アリ、茸茸ノ大部此科ニ屬ス